

社会科副読本

かみふらの

小学校3-4学年用



フラワーランドより東方面を撮影





町民憲章

わたしたちは、雄峰、十勝岳のふもと富良野平原の
母なる地、上富良野町民であることに誇りを持ち、
この憲章をかかげて先人の偉業を継ぎ、明るく豊かな
郷土をつくることにつとめましょう。

- 一、正しい心と健やかな体で、希望に生きましょう。
- 一、いたわりあって、楽しい家庭をつくりましょう。
- 一、決まりを守り、明るい社会をつくりましょう。
- 一、文化を高め、豊かな郷土をつくりましょう。
- 一、勤労をよろこび、自然の恵みに感謝しましょう。



町章

まん中の「富」を囲んで「カ」が三つ集まっています。
「カ」「三」「富」これです町名「かみふ」と読みます。
次に「カ」はちからを指し、3字集まって協力の「協」
を表し、それが全体の輪(和)によって中心(富)を生
むのです。町の人々のあたたかい願いを込めた町の
シンボルマークです。



わたしたちの上富良野町

町木〔アカエゾマツ〕

四季を通じ緑あざやかな枝葉を絶やさず熟年する樹林は、雄峰十勝岳の厳しい自然の中でたくましく成長し、その雄姿は風格と威厳さを誇ります。
開基以来、経済木として住民の生活を潤し、まちの発展向上に役立っていると同時に、上富良野町の活気に満ちた「まち」を象徴するにふさわしく、広く町民になじみの木です。

町花〔ラベンダー〕

7月半ばを過ぎると真夏の陽光をいっぱい受け、さわやかな紫色の花を見事に咲かせます。その新鮮な芳香は十勝岳のふもと一面に漂います。
かれんながらも高き理想と気品を誇るラベンダーは人の心をいやす、なごやかさがあり、人生に希望と勇気を与えます。上富良野町の人情深さと温かい思いやりのあるまちを象徴するにふさわしく、広く町民に親しまれています。

この本を勉強する皆さんへ

みなさんは、今まで、生活科の学習で、学校まわりの自然やまちの様子を勉強してきましたね。

3・4年生の社会科では、みなさんの住んでいる上富良野町を中心に、まちの様子、商店や農業、健康や安全を守る人々の活動、昔のこと、ほかの地いきとのつながりなどを学びます。

この本を活用して、身近な地いきを見つめる目を養い、いろいろな資料を利用する力をのばしてください。

そして、上富良野町がもっとよいまちになるよう、みなさんもいっしょに考えてみましょう。



3年生

1 もっと知りたい上富良野

- (1)町たんけんにてかけよう
- (2)町めぐり・学習のまとめ

2 上富良野の人々の仕事とわたしたちの暮らし

- (1)店で働く人と仕事
- (2)工場で働く人と仕事(せんたく)
- (3)農家の仕事(せんたく)

3 地域の安全を守る

- (1)火事から町を守る
- (2)事故や事件からまちを守る

4 わたしたちの町の歩み

- (1)かわる道具と暮らし
- (2)町のうつりかわり

4年生

1 広げてみよう町から北海道へ

- (1)北海道の地図を広げて

2 健康なくらしとまちづくり

- (1)ごみはどこへ
- (2)水はどこから(せんたく)
ふんか

3 火山の噴火にそなえて

- (1)泥流にのみこまれた町
- (2)十勝岳の噴火の歴史を調べよう
- (3)昔のよさを生かしたまちづくり 住民の命や暮らしを守る

4 地域で受けつがれてきたもの

5 昔から今へと続くまちづくり

- (1)昔の上富良野
- (2)災害にうち勝った開たくだましい

6 わたしたちの北海道のまちづくり

- (1)家具作りがさかんな地域
- (2)伝統的な産業がさかんな地域
- (3)昔のよさを生かしたまちづくり
- (4)自然を生かしたまちづくり
- (5)世界とつながる地域

(1)、(2)のどちらかをせんたく

(3)、(4)のどちらかをせんたく

上富良野町のできごと<年表>

もっと知りたい上富良野

「ぼくたちが住んでいる町は、どんなところかな。」わたしたちは、2年生の「せいかつ」のたんけんや、これまでのくらしをふり返りながら、町でよく行く場所や、おすすめの場所を、クラスのみんなにしょうかいすることにしました。町のようすを、さらにくわしく知るために、次のような学習をしてみましょう。



(1) 町たんけんにてかけよう

この時間の問い

高いところから町を見ると、どんなようすなのだろう。

活動

- ①学校の屋上や学校周りの高いところから周りの様子を見てみよう。
- ②方向の表し方を知ろう。
- ③方位じしんの使いかたを知ろう。
- ④町の様子について気づいたことを話し合おう。

●高いところから

町のどこに何があるのか、学校のまわりはどんな様子なのか、学校の屋上から町をながめてかんさつすることにしました。「あっちの方には、大きなたて物が見えるね。」「むこうにあるたてものは何か?」「あっちとかこっちとか言われてもどこなのかわからないよ。」そこで、方位を使って表すことにしました。また、方位を知るために、方位じしんを使うことにしました。



方位を知ると、大体の様子はわかるけど、見えないところの様子も知りたいね。

この単元の学び

学校の周りの様子を調べ、わかりやすく地図にまとめてみよう。



↑①西の方のようす



↑②南の方のようす

方位じしんの使い方



- 東西南北(四方位)などの方位を調べるための道具です。
- 色のついたはりの先を北に合わせます。

方位の見方



- 顔を北に向けると、右手が東、左手が西、せなかが南になります。

●町たんけんにてかけよう

学校のまわりの様子をもっとよく知るために、たんけんに出かけることにしました。そこで、白地図を見ながら、町たんけんの計画をたてることにしました。

この時間の問い
学校のまわりは、どのような様子なのだろう。



↑上富良野町の白地図



↑西小学校のまわりの白地図

活動

- ①調べる場所をきめよう。
- ②たんけんのやくそくを話し合おう。
- ③調べ方をそうだんしよう。

学校によって、まわりの様子は、ずいぶんちがうようだね。じっさいにいろいろ歩いてしらべてみたいね。



たんけんの計画をたてよう(れい)

①見学すること、調べること

- ・たてものや場所の様子(たてものやお店の名前など)
- ・交通の様子(道のはば, 駅やバスていなど)
- ・土地の様子(おうちやお店がおおいところ, 田やはたけがおおいところなど)

②たんけんのやくそく

- ・交通のきまりを守って行動しよう。
- ・町の人にめいわくをかけないようにしよう。

③調べ方

- ・たてものの名前や土地の様子の色などを決めておき, 地図にかきこもう。
- ・気になるところは写真をとろう。

●絵地図をつくってみよう

自分たちで町をたんけんして調べたことやわかったことを、大きな地図にかきこんで、町の様子がわかる絵地図をつくってみることにしました。

この時間の問い
調べたことを白地図
に書きいれるとどんな
絵地図ができるかな。

活 動

- ①たんけんシートをかくにんしよう。
- ②白地図に書きこやくそくを決めよう。
- ③やくそくをもとに、きれいに絵地図をつくろう。

絵地図のつくりかた(れい)

- ①自分たちがたんけんしてきた道を大きな地図でかくにんする。
- ②めじるしとなるたてものやお店をかく。
- ③土地の様子がちがいをいろでぬりわけろ。
(れい)・お店がおおいところ→あかいろ
・おうちがおおいところ→きいろ
・田やはたけなどがおおいところ→みどりいろ
- ④たんけんで見つけたことや気づいたことを地図にかきこんだり、ふせんにかいてはったりしよう。また、とってきた写真しゃしんもはろう。



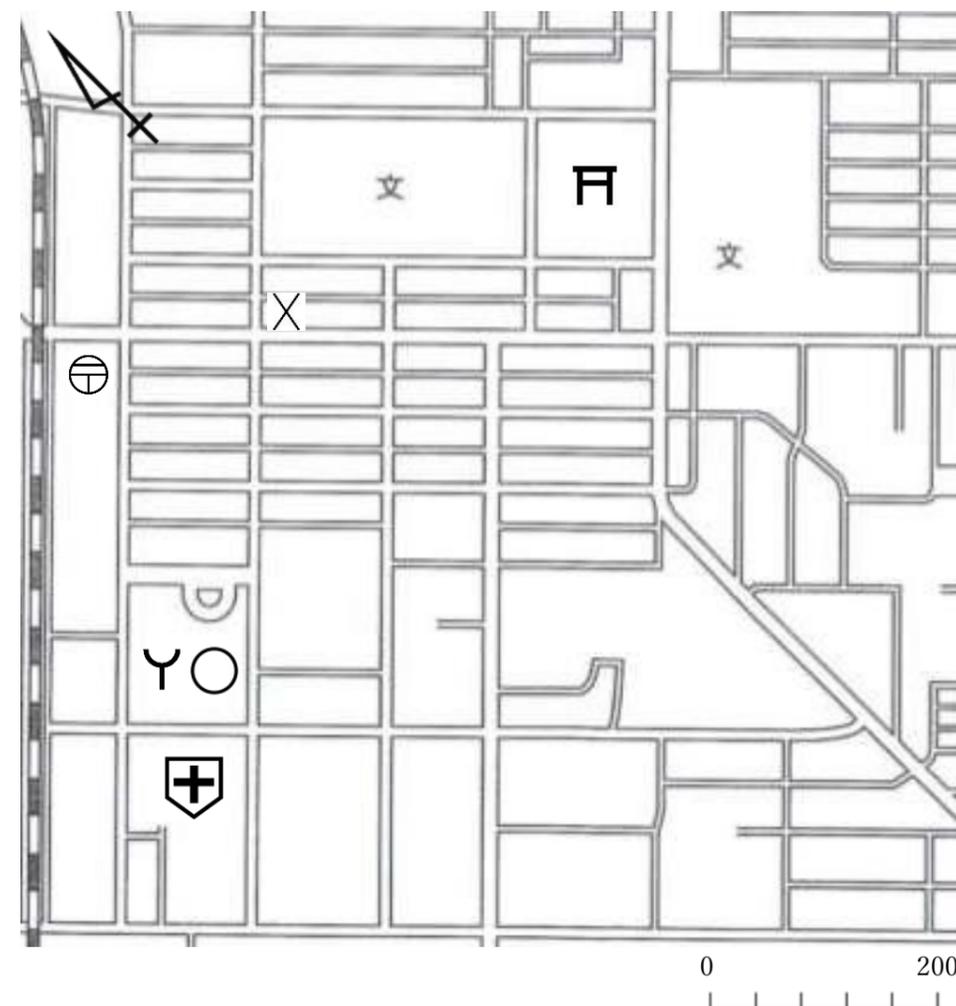
●地図をさらにくわしく見よう

わたしたちは、絵地図をつくってみて地図をつくることのたいへんさを学びました。そこである地図をみて話し合っています。

この時間の問い
地図からきづいたこと
を話し合ひましょう。

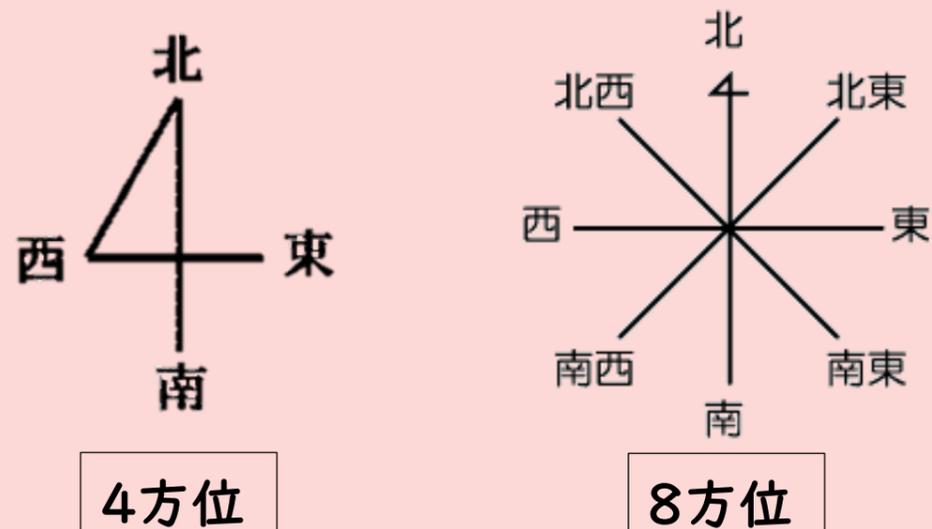
活 動

- ①地図を見て気づいたことを話し合う。
- ②方位のかきかたをしる。
- ③きよりのものさしについてしる。
- ④地図記号についてしる。



①方位

方位を記号であらわすと見やすくなります。



②地図のものさし

地図は実際のきよりを縮めてかかれています。実際のきよりをとめるときは、「地図のものさし」を使います。

※地図によって、ものさしの種類がちがうので1メモリの大きさに気をつけよう!



③地図記号

たてもの名前は地図記号を使って表すことによって、見やすい地図にすることができます。

よく使われる地図記号

場所	記号	場所	記号	場所	記号
市役所	◎	病院	⊕	鉄道	≡
町役場	○	図書館	📖	噴火口	🌋
警察署	⊗	博物館	🏛️	温泉	♨️
交番	✕	老人ホーム	🏠	港(漁港)	⚓
消防署	🚒	神社	⛩️	田	
郵便局	📮	お寺	🗿	畑	∨
自衛隊	🚩	記念碑	🗿	果樹園	🍏
工場	⚙️	煙突	🏭	茶畑	☎️
発電所	⚡	灯台	🗼	広葉樹林	🌳
小・中学校	🎓	城跡	🏰	針葉樹林	🌲
高等学校	⊗	橋	🌉	荒地	⚡

ほかにもたくさんの地図記号があるので、地図帳などで調べてみよう!



となりのページにある地図のものさしの1メモリの大きさをもとめてみよう!

●たてもの^{ちゅうもく}に注目して

地図などから、上富良野にあるたてものについて調べて、どんなたてものがあるのか話し合ってみましょう。

この時間の問い
上富良野町にあるたてものについてしらべてみよう。

活 動

- ①上富良野町にあるたてものを発表しあう。
- ②公共しせつについている。
- ③上富良野町にある公共しせつのはたらきについている。

上富良野町にあるたてもの(れい)

しょうぼうしょ

上富良野小学校

やくば

びょういん

文

文

Y O

+

学校ややくば、公園、交番など、みんなのためにつくられたばしょやたてものを

公共しせつ^{こうきょう}といいます。

ほかにもどんなたてものなどがあるのか、上富良野全体について調べてみることにしました。

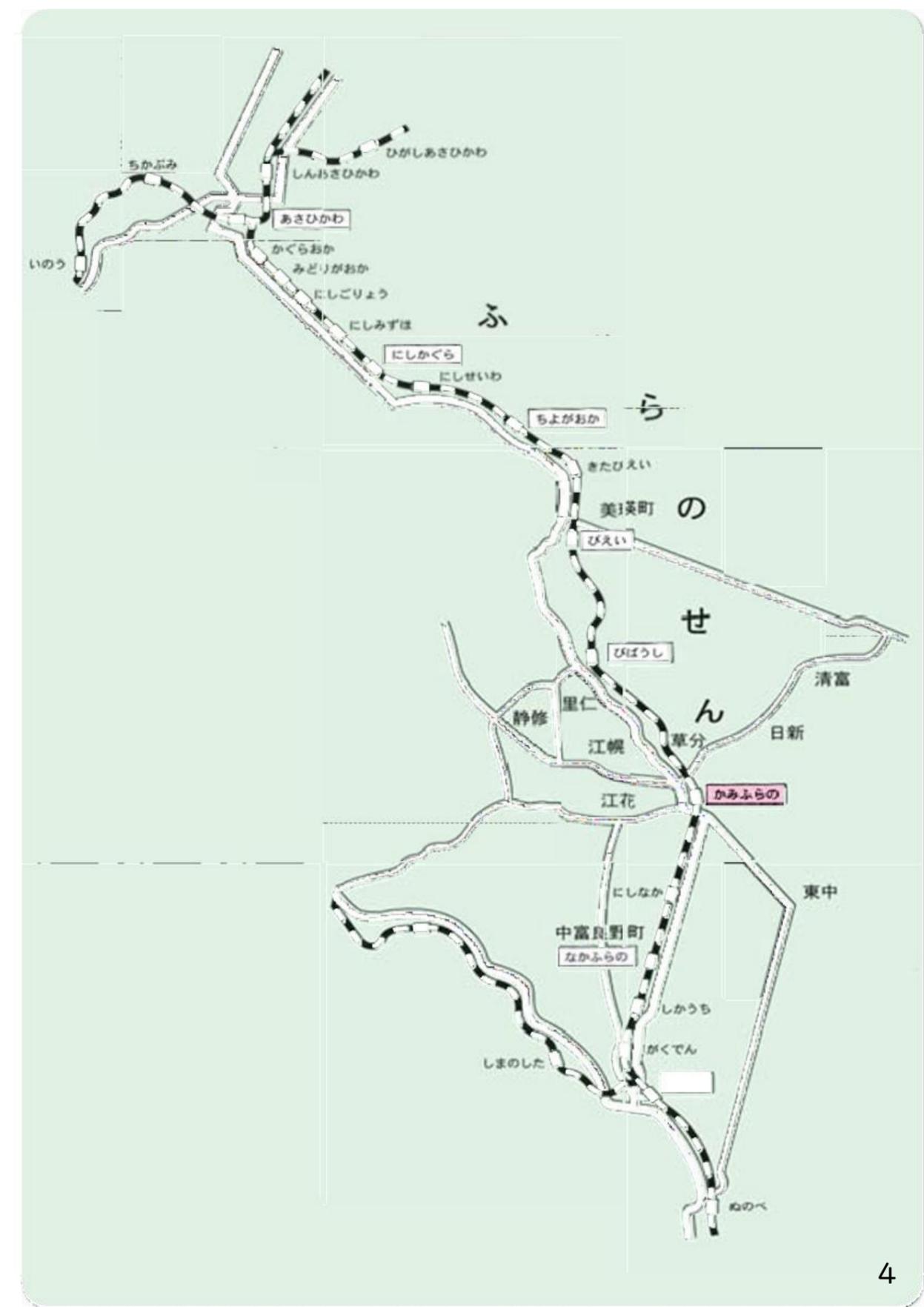


家もたくさんあるけれど、上富良野町には公共しせつもあるんだね。また、古くからたてられているたてものもあるんだね。



こんどは上富良野町全体にはほかにもどんなたてものがあるのか調べてみたいな。

旭川から富良野までの地図



(2)町めぐり

この時間の問い
上富良野町全体につ
いて調べてみよう。

活 動

- ①上富良野町全体
について教科書を
読みながらかくに
んする。
- ②上富良野町にある
たてものについて
かくにんする。

①市がい地

みやま しんごう
深山とうげを下ると、信号がありま



草分防災センター

す。信号を左に曲がると、草分防災センターがあります。このあた
りは、上富良野の開拓がはじめられたところで、神社や開拓記念

かん
館があります。



上富良野西小学校

さらに南にすすんでいくと、上富良野
西小学校が見えてきます。上富良野西
小学校の近くには、たくさんの公営住宅

えん
がならび、西こども園もあります。

さらに南にすすんで市がい地に入ると、たくさんの商店が道路の両側ならんでい



農協 (JA)

ます。また、農協 (JA) や信用金庫などがあります。

のうきょう しんごう
農協 (JA) の近くの信号を東に行くと、上富良野駅が見

えてきます。このあたりには、農協 (JA) の倉庫やタクシーの

ば とかちだけおんせん
り場・十勝岳温泉行きのバスのり場があります。

ふみきり
さきほどの道にもどり、さらに南にすすんでいくと踏切が



上富良野駅

ふみきり としょかん こうみんかん ちゅうおうほいくえん しまづこうえん
みえてきます。踏切の手前には、図書館・公民館・わかば中央保育園・島津公園など
があります。



公民館・図書館

ふみきり ゆうびんきょく
踏切をわたると、郵便局・ガソリンスタンドがならんでいます。

さらにまっすぐすすんでいくと、交番がみえてきます。交番の前

じゅうじろ
の十字路で、北東に行くと、上富良野小学校があります。



交番

まちやくば しょうぼうしょ ちょうりつ
先ほどの信号を南西に行くと、町役場・消防署・町立

びょういん ほけんふくしそごう
病院・保健福祉総合センター「かみん」などがあります。

こうばん
交番の前の道をさらに南東にすす

み、次の信号で南西の方に行くと、自衛隊の正門前・島津地区

すいでん なかふらの
の水田があります。さらに南西にすすんでいくと、中富良野

ちょう ふらのし つづ
町や富良野市へと続いていきます。



上富良野神社

じんじや
上富良野小学校のとなりにある上富良野神社は、たくさ
んの木に囲まれて春にはさくら・つつじがさき、夏には木か
げをもとめる町の人たちの、いこいの場所になっています。

じんじや
上富良野神社のとなりに、上富良野中学校があります。神社と中学校のあいだ

じえいたい ひがしもんまえ
の道を南西にすすんでいくと、自衛隊の東門前がみえてき

じえいたい ひがしもん とみはら ひがしなか すいでん
ます。自衛隊の東門をすぎると、富原地区・東中地区の水田・



かみふらの工房

畑が広がっています。右の方には、

こうぼう にく
かみふらの工房の肉しより工場やセメント工場があります。

ひがしなか
さらにまっすぐすすむと、東中地区の市がい地・中富良野

あさひなか とりぬま つづ
町の旭中地区・富良野市の鳥沼へと続いています。

じえいたい ひがしもんまえ しゃかいきょういくそごう
自衛隊の東門前から、北東に行くと社会教育総合セン

とかちだけおんせん こうこう
ターがあり、十勝岳温泉へ行く道のところに上富良野高校

あさひまちえいたい こうえいじゅうたく
があります。このあたりは、旭町自衛隊かんしゃ・公営住宅

などがたっています。



自衛隊正門前



自衛隊東門前



上富良野高校

ひがしなか
②東中

東中は、上富良野町の南の方にあります。町の東側には、畑が広がっており、町の西側には、水田が広がっています。



東中市がい地



東中会館



東中小学校



温水ため池

東中の市がい地には、東中小学校・郵便局・東中

会館・そう庫などが集まっています。

市がい地から、東中へと向かうとちゅうにビニールハウスがあります。ビニールハウスの中では、メロンやミニトマトなどが作られています。

東中から山のある東の方へすすむと、大きなため池が見えます。温水ため池といい、東中の水田に水をおくるととても大切なため池です。

えほろ せいしゅう
③江幌・静修

江幌・静修は、上富良野町の北西の方にあります。旧江幌小学校や江幌会館があり、江幌・静修地区の中心となっています。



旧江幌小学校

畑では、春の融雪剤まきから秋の取り入れまで、いそがしく働く農家の人たちのすがたがいつでも見られます。じゃがいも・ビート・豆類を中心に、小麦・かぼちゃなどを作っています。

江幌からさらに北の方へ行くと、静修地区があり、美瑛町につながっています。

にしん きよとみ
④日新・清富

日新・清富は、上富良野町の北の方にあります。

日新地区は、じゃがいも・とうもろこし・ビートなどの畑が

広がっています。また、クリーンセンターと日新ダムも

あります。日新ダムは、農業用水をためるところです。

日新地区からさらにすすみ、上富良野と白金温泉のほぼ

中間あたりに清富地区があり、旧清富小学校もあります。



旧清富小学校

農家が多く、じゃがいも・豆類・ビート・かぼちゃ・とうもろこしなどがつくられています。中でも中心となっているのは、種いもづくりで本州の方まで出荷されています。また、ぶたや牛を飼う農家もあります。



クリーンセンター



日新ダム



じっさいにタブレットを使いながらかくにんしていくと、上富良野町全体のようなすがわりやすくなるよ!

(3)学習のまとめ

この時間の問い
上富良野町について
学んだことをまとめよう。

活動

- ①上富良野町について感じたことやわかったことをかく。
- ②上富良野町についてポスター作りをする。

わたしたちは、上富良野町の様子^{ようす}を知るために、町めぐりをしたり、絵地図^{えちず}をつくったりして、同じ町の中でも、場所によって、ちがいのあることがわかりました。

わたしたちは、上富良野町の様子を調べて感じたことやわかったことなどをたくさんの人に知ってもらいたいと考えました。そこで、



上富良野町のよさをしょうかいするポスター^{つく}を作^{つく}ってまとめることにしました。



わたしは上富良野町のラベンダーについてポスターにまとめてみようかな。



ぼくはじっさいに町たんけんをしてみて上富良野町の公園についてまとめてみようかな。

まとめの学習は今まで学んできたことをいかしながらポスター作りをやってみよう。じょうほうがたりなかったらタブレットやパンフレットでつけたしをしよう。



ポスターの作り方

①調べてわかったことの中で、みんなに伝えたいことは何か、テーマを考えてみよう。

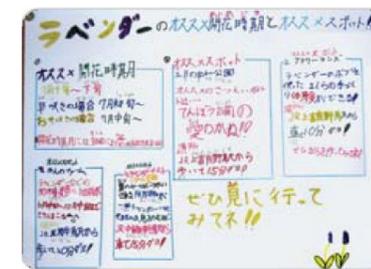
(テーマのれい)

- ・おすすめのお店しょうかい
- ・上富良野の駅前^{きまきま}の様子^{ようす}
- ・みんなのための公共しせつ
- ・美しい自然^{しぜん}
- ・おすすめの観光スポット^{かんこう}



②画用紙などの大きな紙に、つたえたいことを整理しながらかいていきましょう。

- ・読みやすいように、文字を大きく、はっきりとかきましょう。
- ・写真^{しやしん}をはったり、絵をかいたりして、見やすくまとめましょう。
- ・調べてみて、わかったことや感じたことなどもいっしょにかきましょう。



完成したポスターは、発表しあい、おたがいに感想を話し合ひましょう。



〇〇さんのポスターは、とても見やすく、じっさいに見にいきたくて思いました。



〇〇さんのポスターは、知らないことがたくさん書かれていて、とてもべんきょうになりました。

2

上富良野町の人々の仕事とわたしたちの暮らし



↑ ①商店の仕事



↑ ②工場の仕事

●学習に出会おう

わたしたちは、今までの学習で多くの働く人と出会いました。「お店で働いている人がいたね。」「ほかにも、どんな仕事があるのか調べてみたいね。」

わたしたちは、上富良野町で働く人の仕事の様子を調べることにしました。

この時間の問い

これから、どのようなことを学んでいくのだろう。

この単元の学び

お店で働く人のくふうや、物をつくる人たちの仕事のくふうを調べ、上富良野町の人たちがどのように働いているのかまとめてみよう。

活動

- ①この単元で学ぶことを知ろう。
- ②これからどのように学んでいくか知ろう。
- ③上富良野町の働いている人のグラフを見て、気付いたことを話し合おう。

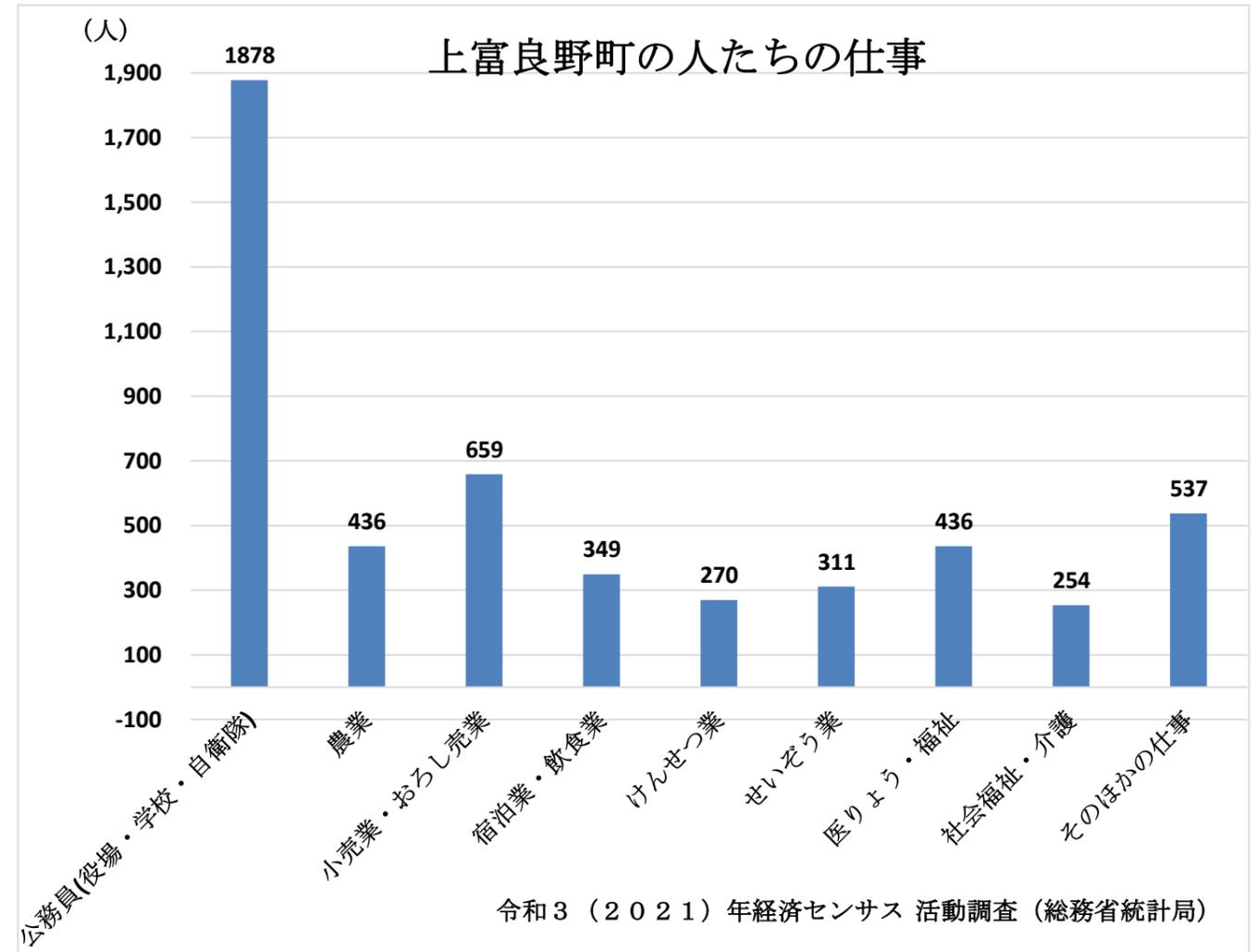
学習の流れ

- ①これから、どのようなことを学ぶのかを知る
- ②買い物調べを通して、家の人たちがどのようにして店を選び、買い物をしているかを調べる。
- ③お店では、お客さんに品物を買ってもらえるようにどんな努力やくふうをしているかを調べる。
- ④物をつくる人たちの仕事の進め方のくふうについて調べる。

●上富良野町の人たちの仕事調べ

上富良野町の人たちが、どんな仕事をしているのか町役場へ行って、担当の人に聞きました。

町全体の人々の仕事を調べてみると、公務員、小売業・おろし売業が多く、農業などがこれにつづいていました。



市街地のまわりには、農業の仕事をしている人が多く、市街地の中心では、役場、農協、商店、銀行、工場などで仕事をしている人が多いです。また、町に自衛隊のちゅうとん地があるため、ほかの町にくらべて公務員が多いということも教えてもらいました。

では、上富良野町の人々のいろいろな仕事の様子や進め方、くふうなどについてくわしく調べることにしましょう。

(1) 店で働く人と仕事

●買い物はどこで

わたしたちは、家の人たちがふだんどんな店で買い物をしているかを話しました。

この時間の問い

家の人たちは、どのような店で買い物をしているのだろう。

活動

- ① 買い物をした経験を発表しよう。
- ② 家の人がよく行く店や、よく買う品物をあげてみよう。
- ③ 家の人のお買い物について、調べる計画を立てよう。



「きのう、家の近くのスーパーマーケットでパンを買ったよ。」



「わたしの家も、パンを買ったけれどコンビニエンスストアで買ったわ。」



「それぞれのお店に、よいところがあるから、お店を選んで買い物をしているんじゃないかな。」



「みんな同じ町に住んでいるのに、買い物をしているお店が違うのは、どうしてなのかな。」

そこで、自分たちの家の買い物をくわしく調べるために、買い物カードを書くことにしました。

買い物カードの書き方

- ① お店でもらったレシートを見て、どの店で何を買ったかを調べる。
- ② 日にち、お店、買った物を買い物カードに書く。
- ③ 一緒に買い物に行って、気づいたこと、家の人から教えてくれたことも書く。

表の作り方

- ① 表題と調べた日にちを書き、店名と人数を書き入れるらんを作る。
- ② 買い物に行った店を書き入れる。
- ③ どの店に何人で行ったか、「正の字」で数え、数字を書く。

日付・お店	買った物	気がついたこと
5月30日(金) ・セブンイレブン ・ふじスーパー	・たまご・おにぎり ・ジュース・アイス ・野菜・くだもの	・近くのセブンイレブンに行くことが多い。 ・野菜やくだものはふじスーパーで買うことが多い。
6月1日(日) ・旭川西イオン	・服・おかし ・ジュース・ノート	・家族の仕事がお休みだったので、車で旭川に行って、買い物をした。

買い物カード (れい)

組名前()

調べた日 5月28日～6月9日

店名	人数	
	正	数字
例 上富良野スーパー	正	5

●買い物調べでわかったこと

この時間の問い

家の人たちは、どこで買い物をすることが多いのだろう。

活動

- ①買い物調べでわかったことを発表しよう。
- ②買い物をした場所をたしかめ、白地図に表そう。
- ③店ごとに行った人数を表やグラフに表そう。

わたしたちは、買い物カードで調べたことをグループまたはクラス全体で、表やグラフにまとめてみました。

グラフのつくり方

- ①買い物に行った人数の多い順に、左から店の名前を書く。
「その他の店」は、最後に書く。
- ②たてのじくに、いちばん多い人数が書きこめるように、めもりを書く。
- ③グラフの表題と、めもりの単位(人)を書く。
- ④めもりに合わせて○を書きこむ。(シールをはる)
できあがった表やグラフを見て、気がついたことを話し合いました。」

「近くのスーパーマーケットやコンビニエンスストアで買い物をする人が多いよ。」

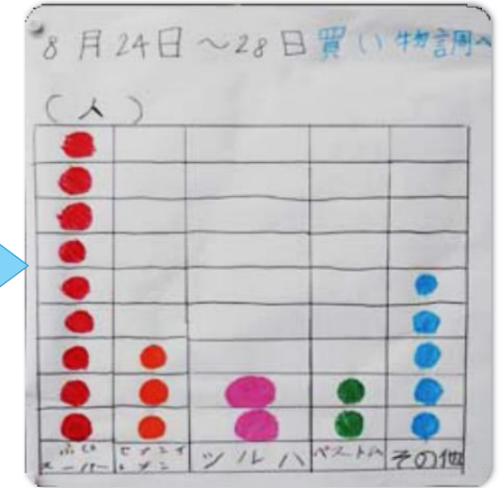
「スーパーマーケットで食料品を買うことが多いね。やっぱりたくさん種類を売っているからかな。」

「休日には、平日にくらべて富良野市や旭川市で買い物をする人が多い気がする。」

「平日のちょっとした買い物は、近くのコンビニエンスストアですませることがあるよ。」

〇日にち：8月24日(月)～28日(金)

お店の名前	人数	
	正の字	数字
とうい屋さん	—	1
ニコット	—	1
ふじスーパー	正字	9
セイコーマート	—	1
セブンイレブン	正字	3
ベストム(中ぶりの)	正字	2
ツルハ	正字	2
あさひ	—	1
ローソン	—	1
その他		



〇日にち：8月22日(土) 23日(日)

お店の名前	人数	
	正の字	数字
ふじスーパー	正字	4
セブンイレブン	正字	2
ベストム	正字	2
ローソン	—	1
アークス	—	1
ユニクロ	—	1



↑ ①グラフを作成している時の様子

「どうして、たくさんの方が、買い物にくるのかな。そのひみつを調べてみようよ。」

わたしたちは、多くの方が利用するスーパーマーケットについてくわしく調べてみることにしました。



↑ ②市街地の白地



この時間の問い

店でお金を払うしくみはどのようになっているのだろう。

活 動

①レシートを調べて気づいたことを発表しよう。

②売り上げを高めるくふうについて、店の人に聞いてみよう。

③売り上げを高めるためのくふうについて考え、学習問題をつくろう

キーワード
○消費税

そこで、売り上げを高めるくふうについて、お店で働く人にインタビューし、わかったことを話し合いました。

↑①話し合いの様子

●レシートからわかること

買い物調べの時にもらったレシートを調べ、気付いたことを発表しました。



「レシートには、買い物をした日にちや時間、買った値段が書いてあるよ。」



「消費税がどのくらいかかっているかわかるようになっているね。」



「お店で働く人は、物を売ってお金を得る仕事をしているよ。」



「売り上げを高めるくふうについて、お店の人に聞いてみようよ。」

上富良野店 0167-45-5111	
登録番号：T2450001002584	
今日は、ご来店有難うございます。	
< 領 収 証 >	
2024年 1月27日(土) 11:37 #000002	
000307カイ	6488
外8 002705ダノンYGIいちご	¥88
外8 001204ミニウィニー	¥298
バーコード割引 20% -60	
外8 002908ニチレイ むねか	¥498
外8 000212いちご小粒	¥398
外8 000110ピーマン	¥98
外8 000118小松菜	¥98

小計	¥1,418
外税額 8%	¥113
買上点数	6点

合計	¥1,531
(税率 8%対象額	¥1,531)
(内消費税等 8%	¥113)
クレジット	¥1,531
(内消費税等	¥113)

外8内8は軽減税率対象商品です	



↑②有人レジと無人レジ



仕入れの仕事をしている方のお話

仕入れた金額より高い値段で売ることによって、売り上げを出しています。ですから、多くの商品を売ることによって、売り上げを伸ばすことができます。

また普通の日と特売の日では仕入れの量を変えて仕入れるようにしています。特に生ものなどは品物を切らさないようにも、あまらないようにも気をつけて仕入れています。



「お客さんに多くの商品を買ってもらえれば、お店の売り上げは増えるんだね。」



「普通の日と特売の日で仕入れの量を変えるくふうをしているみたいだね。他にもお店の人はくふうをしているのかな。」

みんなで作った学習問題

店で働く人たちは、お客さんによろこんで買ってもらえるように、どのようなくふうをして売り上げを高めているのだろう。



次に、見学^{けいかく}の計画を立てるために、調べ方^{しら}や気をつけることなどをみんなで考えました。

この時間の問い

スーパーマーケットのくふうを調べるには、どうすればよいのだろう。

活動

- ①店の写真から、店内の様子を調べよう
- ②調べたことをまとめ、店のくふうについて予想しよう。
- ③スーパーマーケットを見学する計画を立てよう。

キーワード

- 値段^{ねだん} ○品ぞろえ
- 新鮮さ^{せんとん} ○便利さ^{べんり}

●学習の見通しを立てよう

はじめに、スーパーマーケットによく買い物^{もの}に行くわけを話し合いました。

 「種類^{しゅるい}が多いから、一つのお店で用事をすませることができるよね。」

 「広告(チラシ)で、安い日や安い品物をしらせてくれるからかな。」

 「住んでいるところから近いので、行きやすいのもあるよね。」

次に、お店が行っているくふうについて予想^{よそう}をしました。

 「お買い得商品^{どくしょうひん}や割引商品^{わりびきしょうひん}があるから、みんな買うんじゃないかな。」

 「大きい冷蔵庫^{れいぞうこ}や冷凍庫^{れいとうこ}があったり、たくさんの数のカートがあったりすると思うな。」

【調べること】

- 品物^{しなもの}を安く売るためにくふうしていること
- 買い物をしやすくするためにくふうしていること
- よい品物^{しなもの}をそろえるためにくふうしていること

【調べ方】

- お店の様子^{ようす} (通路の広さや品物のならべかた) ^{かんさつ}を観察する。
- 仕事をしている人の様子^{かんさつ}を観察する。
- 店で働いている人たちにインタビューする。

【気をつけること】

- ほかのお客さんの買い物のめいわくにならないようにしよう。
- インタビューは、礼儀正しくしよう。
- 売っている品物^{しなもの}には、さわらないようにしよう。





この時間の問い

スーパーマーケットには、どのようなくふうがあるのだろう。

活動

- ①店で見つけたくふうをあげてみよう
- ②それぞれのくふうの理由を考えよう。
- ③しょうがいのある人や、お年寄りの人などに利用しやすいくふうをさがそう。

キーワード
○サービス

●スーパーマーケットの様子を調べよう

わたしたちは、スーパーマーケットを見学して、店の様子を観察して、店の売り上げを高めるためのくふうを探しました



「値段の数字が大きく書かれていて、とても見やすかったよ。」



「売れ残りをださないように、値段を下げている商品もあったね。」



「いつもより安く売っている商品は、表示の色がちがったり、大きく印がついていたりしたよ。」



次に、私たちは、しょうがいのある人やお年寄りの人など、誰にでも利用しやすいくふうについて、調べました。



「駐車場には、店内の入り口に近い場所に、しょうがいのある方のための専用の車をとめる場所があったよ。」



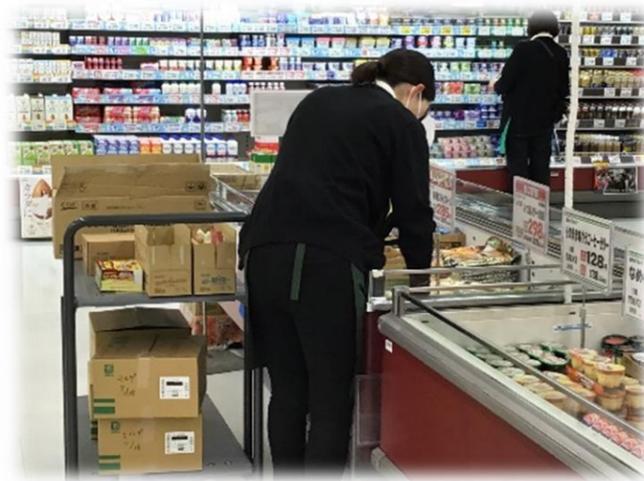
「店内には、普通のショッピングカートの近くに、車いすも何台か置いてあったよ。」



「買い物かごを置くことができる、ベビーカーもあったよ。どんな方でも、買い物がしやすいお店のくふうが色々あったな。」



「お店の人のくふうもたくさん聞くことができたね。どんなくふうがあったかな。」



↑①ふじスーパーで働く人の様子

この時間の問い

店で働いている人たちはどのようなことに気をつけているのだろう。

●お店で働く人の様子

お店の中では、たくさんの人たちが仕事をしていました。わたしたちは、どんな仕事をしていて、どんなことに気をつけているのかをたずねてみました。

活動

- ①働く人の様子について、観察したことを発表しよう。
- ②働く人の仕事のくふうについて調べよう。
- ③働く人たちの関わり合いについて考え、話し合おう。

キーワード

- 仕入れ ○品切れ
- 衛生 ○品質



レジをうっている方のお話

ただレジをうつだけではなく、いたんだりした商品やこわれたりした商品がないか、確認しながらうっています。



品物の売れぐあいを調べている方のお話

パソコンを見ながら、いろいろな品物の売れぐあいを確認しています。



品物をならべている方のお話

品物の日付や品質を確認して、商品をならべています。あと、常に整頓して、品物をきちんとならべるようにしています。



おそうざいを作っている方のお話

衛生面に気をつけて作っています。また、お客さまが満足するように、少量パックを作ったり家族用のパックを作ったりしています。あと、できたてのおそうざいを出すようにしています。



魚をおろしている方のお話

常に新鮮な魚を売るようにしています。お客さまが満足するように、魚の切り身の大きさを考えています。また、家族の人数に合わせて、魚の切り身の数がちがうパックを作っています。



店長さんのお話

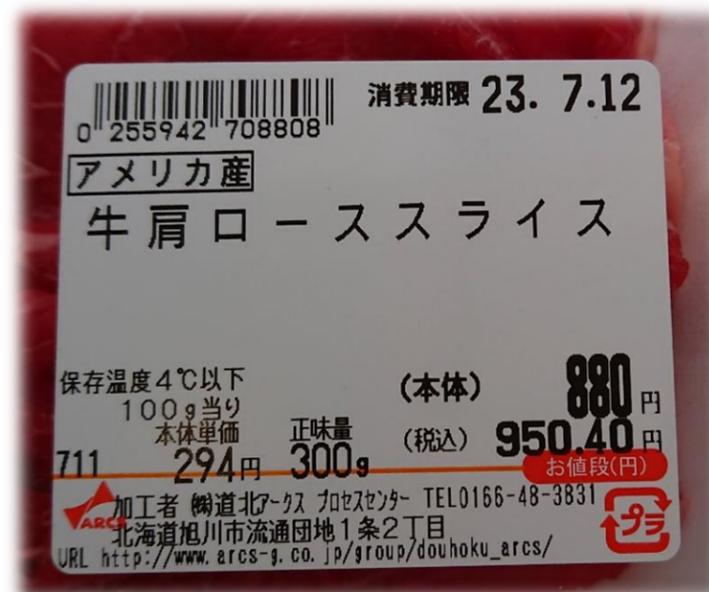
常に笑顔でいるようにしています。買い物に来たお客さまが気持ちよく買い物をして帰ってもらえるように、商品がきちんとらんでいるか、表示はまちがっていないか、品切れの商品はないか、冷凍食品などの温度はちょうどよいか、清掃がきちんとされているかなど、常にお店の中をチェックしています。



「店には、さまざまな仕事をする人がいるんだね。」

「それぞれ係の店員さんが、協力して働いているよ。」





●商品はどこから

この時間の問い

店で売られている商品は、どこから運ばれてくるのだろう。

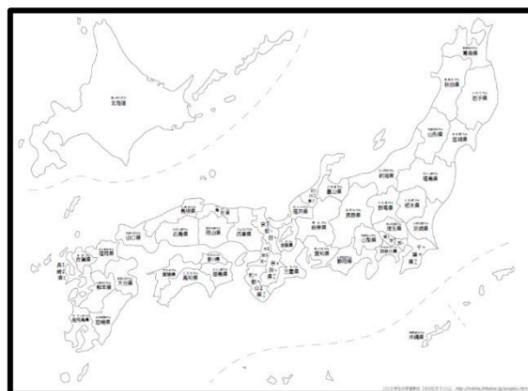
わたしたちは、いろいろな種類の品物が、どこから運ばれてくるのか不思議に思い、地図帳を使い、調べることになりました。そして、次に調べたことを白地図にまとめることにしました。

活動

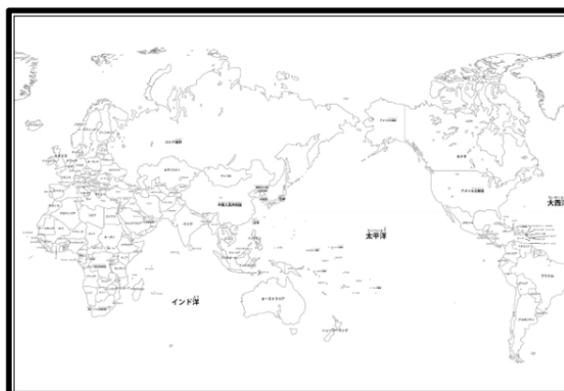
- ①商品の袋やちらしを調べ、商品の産地を発表しよう。
- ②袋やちらしを切り取り、日本地図や世界地図にはり付けよう
- ③他の地域との関わりについてわかったことを発表し合おう

キーワード

○産地 ○地産地消



↑①日本の白地図



↑②世界の白地図

スーパーマーケットの段ボール箱や値札に品物がつくられた場所が書いてありました。その中には、外国でつくられた物もありました。

また、近くの農家でつくられた、より新せんな野菜やくだものがありました。「地産地消」の取り組みを進めていることがわかりました。



「店内やちらしを見ると、さまざまなところから、商品を仕入れていることがわかったよ。」



「安全な食材を選ぶために産地にも気をつけているお客さんもいたな。」



「『地産地消』の取り組みとして上富良野では『軽トラ市』というのをやっていたよ。近くの農家さんがそれぞれ、品物を出しているみたいだったよ。」



広告売り出し期間 1/9火~10水2日間連続!! 均一価格で大ご奉仕致します!!

家計応援

49円 均一祭

税込52.92円

本体価格

千歳産 にんじん 2Lサイズ1本

千歳産 レモン 小玉1個

北海道産 若鶏手羽先(解凍) 100g当り

北海道産 定塩ます切身(昆布エキス仕込み) 1切

北海道産 ながいも 100g当り

北海道産 旨み豚カツ(解凍) 100g当り

北海道産 マルカワ・きざみ揚げ 40g

北海道産 ヤマダイ 粒がおいしい納豆ミニ3 40g×3

マルちゃん まんぞく一杯(しょうゆ) 83g

マルちゃん まんぞく一杯(みそ) 85g

カルピスソーダ 350ml

カルピスウォーター 350ml

アサヒ ガリガリ君 ソーダ 105ml

アサヒ あずきパー 65g

アサヒ 赤城 ガリガリ君 ソーダ 105ml

ぎゅうにゅう
「牛乳パックや食品トレーなどはきれいに洗って、リサイクルボックスに入れるようにしています。」

あら
「リサイクルボックスをきれいに保つよう
たも
にすることで、利用しやすくしています。」

↑①リサイクルボックス



しょうみ きげん す
「賞味期限が過ぎてしまったものは捨てられてしまうので、もったいないと思います。」

「賞味期限が近づいてきた商品は、
ね だん
値段を少し下げて、お客さんが買いやすいように売っています。」



「ポイントが貯まるカードを利用して、お得に買い物をするようにしています。」

「ポイントが普段より貯まる日も設定して、より多くのお客さんが買い物にくるようにくふうしています。」



「お客さんは、安全で安心なものを、より安く買いたいんだね。」

「ごみやむだを減らしたり、リサイクルをしたりすることも考えていたよ。」

「お店のくふうは、お客さんが気持ちよく買い物できるためにあるんだね。」

この時間の問い

お客さんはどんなことに気をつけて買い物をし、店は、どのようにくふうしているのだろう。

- 活 動
- ①お客さんや家の人に、買い物で気をつけていることをインタビューしよう。
 - ②買い物で気をつけていることにつながる、店のくふうを調べよう。
 - ③お客さんに気持ちよく買い物をしてもらうための、店のくふうについて考えよう。

●買い物で気をつけていることと店のくふう

わたしたちは、お客さんや家の人、が、どんなことに気をつけて買い物をしているのか、調べました。また、そのことを店はどのように取り入れているのか、調べてみました。

「少しでも安く買いたいです。広告のちらしを見たり、いくつかのお店に行ったりして商品を選びます。」

「ちらしに おすすめ商品をのせたり、お買い得品を用意したりしています。」



「家族の健康や安全を考えます。だれが、どこで、どのように作ったのかを確かめるようにしています。」

「つくった人や産地がわかるように、表示をくふうしています。」





↑店長さんにインタビューしている様子^{ようす}

●店のくふうをまとめよう

わたしたちは、学習問題を^{かえ}ふり返し、お店のくふうとお客さんの^{ねが}願いを、表にまとめることにしました。

みんなでつくった学習問題

店で働く人たちは、お客さんによろこんで買ってもらえるように、どのようなくふうをして売り上げを高めているのだろう。

キーワードをふり返ろう

- 消費税
- 値段^{ねだん}
- 品ぞろえ
- 新鮮さ^{しんせん}
- 便利さ^{べんり}
- サービス
- 品切れ
- 仕入れ
- 品質^{へいせい}
- 衛生^{えいせい}
- 産地^{さんち}
- 地産地消^{ちさんちしょう}



「学習のはじめに^{よそう}予想した、^{ねだん}値段、品ぞろえ、^{しんせん}新鮮さ、^{べんり}便利さはどうだったかな。」



「お客さんが気持ちよく買い物できると、お店の売り上げにもつながるんだね。」



ふじスーパー 見学のまとめ

名前 さしおりん

☆べんりさ

お店のくふう	どうしてそのくふうをするのか
レジの近くにでんちライターをおく。	おきゃくさんがわすれやすいから。
コーナーにそろえておく。	おきゃくさんがよくわかるから。
やさいをあくみらいだい	りょうりにつかう物ごとに分けてある。
かんぱんがたかいてところにある。	おきゃくさんが分がにやすく見やすいように
つうかいひろい	おきゃくさんが歩きやすい

ふじスーパー 見学のまとめ

名前 佐藤小夏

☆品ぞろえ

お店のくふう	どうしてそのくふうをするのか
やさいはきせつによつてちかう。	やさいをきせつによつて食べた、いなと思わせる。
同じなつとうやとうふを集めておいてる。	まとめてかんたんにもっていきやすいように、わかりやすくしている。
牛にちうをたてにならべる。	カクカクたてにみらないようにするため。



「表にまとめてみると店のくふうがたくさんあることがわかったね。」



↑①店内に併設されている、花屋と100円ショップ



「お店の中を見ると、お客さんに買ってもらうくふうがいたるところにあったね。」



↑②商品を宣伝しているPOP (ポップ)

●よりよい買い物をするために

わたしたちは、スーパーマーケットを調べていくうちに、ほかの店についても知りたくなりました。そこで、ほかの店のよいところや便利さについて話し合ってみました。



おおみち 大道時計楽器店

- ・お店の人と相談しながら買い物が出来る。
- ・近くにあるので、自転車や歩いての買い物ができる。



コンビニエンスストア

- ・家の近くにあり、早朝や夜遅くでも開いている。
- ・買い物以外にも、荷物を送ったり、受けとったりできる。



大型ショッピングセンター

- ・いろいろなお店があるので、品ぞろえが豊富。
- ・駐車場が広く、車で行くのが便利。



「おつかいをたのまれて、買い物に行ったことがあるよ。」



「お父さんは、インターネットを使って、商品を頼んでいたよ。お店に直接行かなくても、買うことができるんだね。」



「これからは、色々なことを考えて、上手に買い物をしていきたいな。」

くふうあふれる商店街

商店街とは、商店の並んでいる町の一画や通りのことを言います。旭川には「旭川平和通買物公園」というところがあり、様々なお店が並んでいます。

旭川平和通買物公園は、1972年6月1日に開設された全国初の恒久的な歩行者専用道路です。その範囲は、北海道旭川市のJR北海道・旭川駅前から8条通に至るまでの約1kmに渡ります。

旭川市の商業の中心として多くの客を集めている他、毎年2月に行われている旭川冬まつりの同時開催イベント「氷彫刻世界大会」、8月には「旭川夏まつり」、9月には「北の恵み食べマルシェ」の会場一部となっています。

[買物公園の歴史 - 旭川平和通商店街振興組合 旭川市買物公園](http://kaimonokouen.com)

[\(kaimonokouen.com\)](http://kaimonokouen.com)



(2) 工場^{はたら}で働く人と仕事【せんたく】

●上富良野町の工場



わたしたちは、工場の仕事^{しごと}について学習することにしました。工場で作られている物はどのようなものがあるのかみんなで話し合いをしました。

「テレビや机^{つくえ こくばん}、黒板^{みわた}など、教室を見渡すだけでもたくさんの製品^{せいひん}があるよ。」

「家の中には、家具^{かぐ}がたくさんあって、いろいろな工場で作られているんだろうな。」

この時間の問い

わたしたちの町には、どのような工場があるのだろうか。

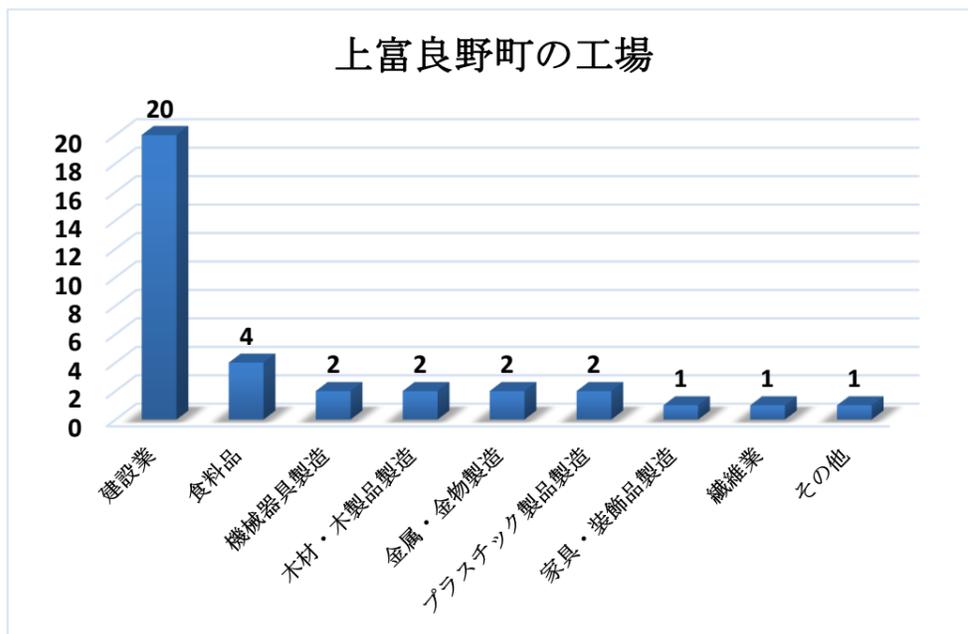


「上富良野町にはどのくらいの種類^{しゅるい}の工場があるのかな。」

活動

- ①普段使っている製品^{せいひん}には、どのようなものがあるか発表しよう
- ②上富良野町の工場について調べよう。
- ③工場はどのような場所なのか、話し合おう。

そこで工場の種類^{しゅるい}や数^{かず}を調べてみました。



上富良野町には、食料品^{しょくりょうひん}や木製品^{もくせいひん}などたくさんの工場があります。上富良野町でとれる物を原料^{も の げんりょう}にしている工場と、ほかの町から原料^{げんりょう}をもってきている工場があります。



「上富良野町にこんなにたくさんの工場があるなんて全然知らなかったな。」



「自分の家の近くに工場があるよ。でも何を作っていて、工場の中がどんなふうになっているかは知らないな。」



「きっと、機械^{きかい}がたくさんあって、部品^{ぶひん}や製品^{せいひん}を作っていると思うよ。」



「大勢^{おおぜい}の人が働^{はたら}いていると思うよ。お店のくふうと一緒に、工場でも協力^{きょうりょく}しながら働いていると思うな。」

工場で作られた製品^{せいひん}は、北海道^{ほっかいどう}だけではなく外国^うに売られているものもあります。そこで、わたしたちは、プラスチック製品の工場である「竹本容器株式会社^{たけもとよう き かぶしがいしゃ}」について調べることにしました。



● 学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう

この時間の問い

竹本容器株式会社について調べていくには、どうすればよいだろう。

竹本容器株式会社は、化粧品や食品などの容器やキャ

ップなどをつくる工場です。わたしたちは、上富良野町にある竹本容器株式会社の「プラスコ事業所」に見学に行くことにしました。

活動

- ① 話し合ったことをもとに、学習問題をつくらう。
- ② 学習問題について予想し、学習計画を話し合おう
- ③ 工場見学に行く準備をしよう。



「プラスチックの原料はなんだろう。工場では、どのくらいの人が働いているのかな。」

「くふうしていることや、気をつけていることはなにかな。」

「この工場で作った製品はどこに行くのだろう。もしかすると、学校や家の中にあるのかもしれないな。」

みんなでつくった学習問題

工場の仕事にはどのようなくふうがあり、わたしたちの暮らしとどのようなつながりがあるのだろう。

キーワード

○原料

工場見学に行くときにどんなことに気をつければよいのか、みんなで話し合いました。



「きっと機械がたくさんあるから、勝手にさわるのは良くないと思うな。」



「話は静かに聞くことも大切だよ。質問するときは分かりやすく、相手に失礼のないように聞いた方がいいね。」

次に、工場で見学してくることや聞いてくることを話し合っ、見学カードに書きました。

見学カード(れい)

組 名前()

【調べること】

・容器ができるまで

・使っている機械

・働いている人の仕事の様子

・働いている人のふくそう

【まとめ方】

・パンフレットにまとめる

【聞いてくること】

・容器の原料は何か

・工場で働いている人の数

・くふうしていること

・気をつけていること

メモ



↑ ① いろいろな容器

この時間の問い

プラスコ事業所で作っている、容器やキャップはどのようにつくられているのだろう。

活動

- ① 製品がどのようにつくられているのか、観察しよう。
- ② 工場で働く人の説明を聞き、メモを取ろう。
- ③ 作業のつながりを確かめよう。

● 工場をたずねて

工場の人に容器を作っているところを見せてもらいました。

① 原料をまぜてとかす



↑ ② 混合機

主となる原料と色をまぜ合わせます。原料によって、温度を変えてとかします。

色の付いたプラスチックを合わせることで、絵の具のように色を変えることができます。



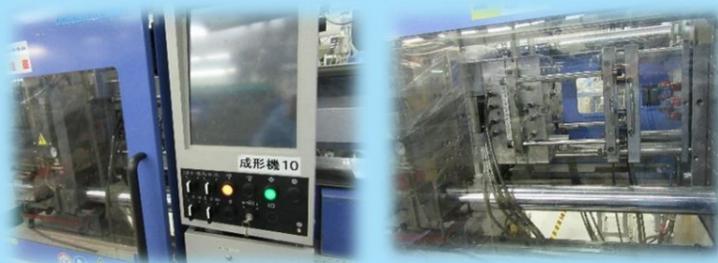
↑ ③ 白と黒を混ぜたキャップ

温度は、160度～250度にもなります。



↑ ④ プラスチックが溶けている様子

② 型に入れて成形する

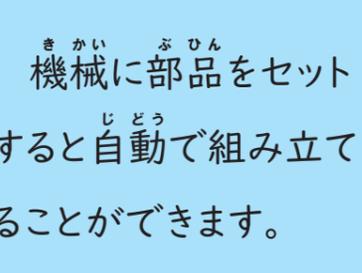


↑ ⑤ 成形機

とかした原料を金型に流しこみパーツを作ります。金型によって一度にできる数は違います。

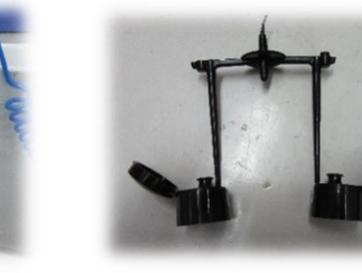
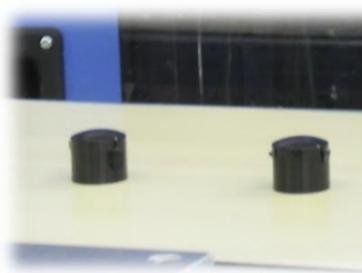
③ 組み立てる

作る物によっては、できたパーツを複数組み合わせて完成するものもあります。



機械に部品をセットすると自動で組み立てることができます。

機械を使わずに、従業員さんが協力してパーツを組み立てることもあります。



あま余った部分はもう一度砕いて、再利用しています。

効率的な作業をしていることがわかりました。また、原料が無駄にならないようなくふうもされていました。



↑ ①検査の様子

この時間の問い

工場ではたらく人たちはどのようなことに気をつけているのだろう。

活動

- ①働く人の服装を調べよう。
- ②工場で働く人の説明を聞き、メモを取ろう。
- ③作業のつながりを確かめよう。

●働く人が気をつけていること

わたしたちは、工場見学をふり返り、プラスチック事業所で働く人の様子について話し合いました。



「工場で働いている人は青い帽子と服を着ていたね。」



「かみの毛がちゃんと隠れるように帽子かぶっていたな。」



「作業するところに、ゴミが入らないようにしていたね。」

所長さんのお話



製品にゴミやかみの毛が入ってはいけないので、作業現場に入るときには専用の作業服に着替えています。また手の消毒や空気の清浄など、ウイルスも入らないように気をつけています。



「ただ製品を作るだけではなく、何回も検査をしていたね。」

「よい製品を作るためには、作る前にも後にも注意していることがわかったよ。」

所長さんのお話



製品の検査は、機械を含めて、複数回検査しています。また人が検査するときにはちがう人が検査するようにして、不良品が出荷されないようにしています。

検査して箱に詰める



できた製品は、従業員さんが一つ一つ点検し、箱に詰めていきます。



↑ ②検査室での様子

点検が終わった製品は、検査室でもう一度検査され出荷されます。



↑ ③点検が終わって出荷される時の様子

この時間の問い

工場ではたらく人たちはどのような役割で働いているのだろう。

活 動

- ①製品を作る仕事の他に、どのような仕事があるか調べよう。
- ②工場で働く人の協力の仕方について、考えよう。
- ③工場と地域との関わりについて話し合おう。

キーワード

○稼働

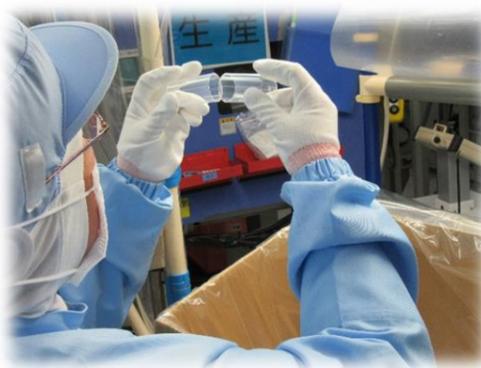
●工場で働く人たち

私たちは、プラスコ事業所で働く人たちは、どのような仕事をしているのか、またどのようなことに気をつけているのか、調べました。



「作業現場では、製品を組み立てて

いる人が働いていたよ。機械でできないところは、人の手で組み立てているそうだよ。」



「製品を検査している人もいたね。

同じ製品を違う人が検査すると教えてくれたから、検査する人は何人もいることになるよね。」



「工場に入るときに、受付の人もいたよ。事務室で働く人もいることがわかったよ。」



「プラスコ事業から製品を運ぶために、トラックに荷物を積む人もいたね。きっとこの後も、いろいろな場所に行くからたくさんの方が関わっているんじゃないかな。」

私たちは、工場見学で所長さんに何人ぐらいの人が働いていて、どのようなくふうをしながら役割で働いているかを聞きました。

所長さんのお話



工場は正月以外、毎日24時間ずっと稼働しています。従業員をいくつかの班に分けて、製品を作り続けることができるようくふうしています。また従業員は約80名います。その中には上富良野町に住んでいる方もいます。

これまで所長さんに聞いたことをまとめ、働く人たちのくふうについてみんなで話し合いました。



「工場では、様々な役割の人たちが協力して働いていたね。自分の役割をしっかりこなしているから、良い製品ができるんじゃないかな。」



「正月以外、24時間ずっと稼働しているなんて、とても驚きました。一人では24時間ずっと働くことが難しいから、交代で働いていることがわかりました。」



「製品を作り続けることは大変だけど、くふう次第でできることがわかりました。」



「たくさんの製品を作っているけど、原料は毎日どれだけ使っているのかな。」

私たちは、毎日たくさんの製品が作られていることを知り、今度はその原料や作られた後の製品はどこに向かうのかを調べることにしました。



↑①いろいろなキャップ



↑②原料のプラスチック

この時間の問い

原料は何を使っている、製品はどこへ運ばれるのだろうか。

活動

- ①原料は何か調べよう。
- ②作られた製品はどこへ運ばれていくのか調べよう。
- ③竹本容器株式会社と地域のつながりを話し合おう。

●原料は何、製品はどこへ

私たちは、製品を作るために欠かせない原料や、作られた製品がどこへ運ばれるのか、所長さんに聞いてみました。



所長さんのお話

容器やキャップの原料は、プラスチックです。原料となるプラスチックは、材質や色の1つ1つにちがいがあり、一日に何百キロと使います。

プラスチックをませ、金型に流し込み製品を作っています。約3400種類の金型があります。たくさんある理由は、お客さんから、いろいろな形や色などの要望があるからです。

所長さんのお話

脱プラスチックの背景を受けて、以前からアルミ製のふたも作っています。またプラスチック商品の中には、植物性の油を使ったものがあります。これは、土に還ることのできる製品となっていて、自然に優しい製品を作る取り組みもしています。



↑③アルミ製のふた



↑④ふたを作るための金型



「倉庫にたくさんの種類のプラスチックがあったね。これを組み合わせて、いろいろな形や色になるんだ。」



所長さんのお話

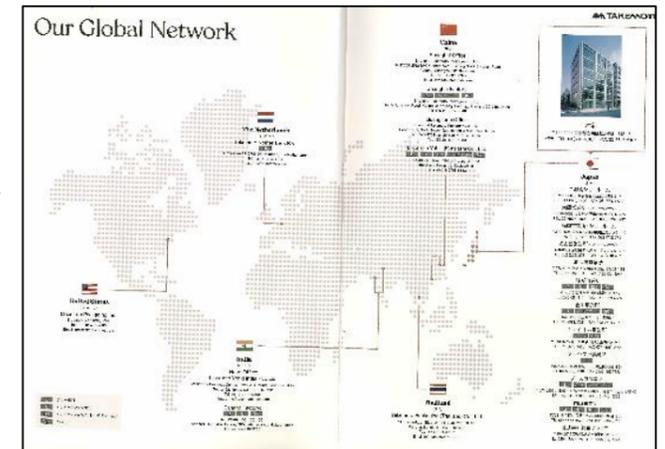
作られた製品は、茨城県にある大きな工場に運ばれていきます。そこから、日本全国の各地へと運ばれていきます。



キーワード
○出荷 ○要望

竹本容器株式会社の営業所・工場

は、上富良野を含めて日本に13か所（北海道・茨城・埼玉・富山・大阪・福岡・岡山）あります。また、外国には、中国、タイ、インド、オランダ、アメリカにあり、世界に拠点を広げています。



「作られた製品は、集められ商品として売られるんだね。」



「日本各地に運ばれるということは、車だけではなく、船や飛行機も使って運んでいるかもしれないね。」



「竹本容器株式会社が日本だけではなく、世界ともつながっていることは知らなかったな。他の工場もいろいろな場所とつながっているのかな。」



●パンフレットにまとめよう

わたしたちは、学習問題をふり返り、これまで調べてわかったことや感じたことをパンフレットにまとめることにしました。

みんなでつくった学習問題

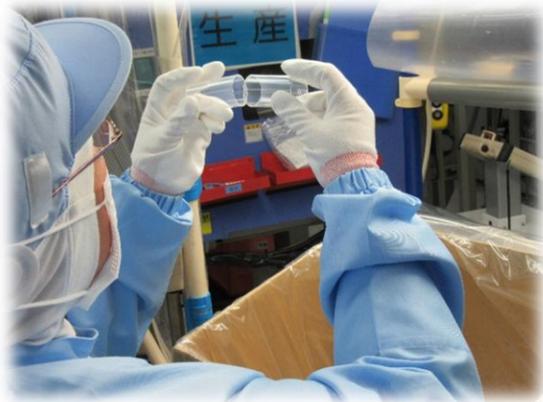
工場の仕事にはどのようなくふうがあり、わたしたちの暮らしとどのようなくふうがあるのだろう。



「24時間、ずっと工場が稼働しているなんて、知らなかったな。お客さんの要望に応えるためにたくさんのくふうをしていることがわかったよ。」



「何回も検査していることがわかったよ。良い製品をつくるためのくふうを、いろいろなところで見つけることができたよ。」

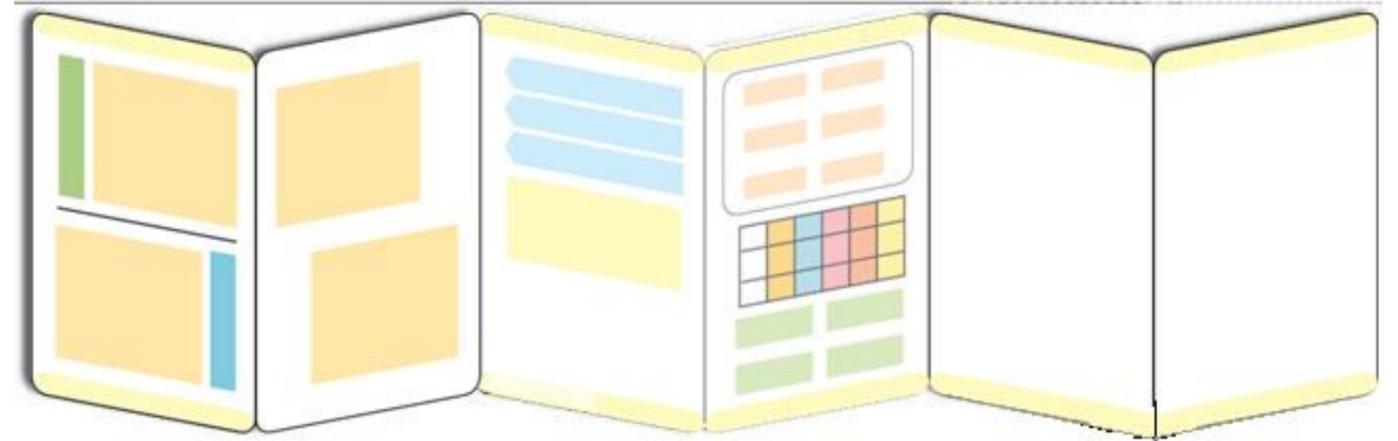


わたしたちは、これまでの学習をふり返り、パンフレットにまとめました。そしてまとめたことを発表しました。

パンフレットの作り方 例

キーワードをふり返ろう
○原料 ○稼働

- ①二つ折りにした紙に調べてわかったことや、感じたことを書いていく。
- ②セロハンテープなどで紙をつなげていく。自分の意見や感想を書いた紙は、最後につなげる。
- ③1枚目の紙のうらに表紙をつくる。



メモ 例

- ・作られた製品は、茨城県の工場に運ばれることがわかった。
- ・24時間、ずっと工場が稼働していることがすごいと思った。
- ・予想と違って、検査は一回だけじゃなかった。
- ・上富良野町に住んでいる従業員もいた。

今回の学習で、工場で働く人は、お客さんの要望に応えるため、機械を使ったり従業員同士が協力し合ったりして、いろいろな工夫をしていることがわかりました。また、北海道の各地、本州などの日本各地、外国ともつながりがあることがわかりました。



(2) ^{のうか}農家の仕事【せんたく】

● ^{ちいき}地域で作られる^{やさい}野菜

この時間の問い

^{ちいき}地域ではどのような作物が作られているのだろう。

活 動

- ①スーパーマーケットで学んだことをふり返し、話し合おう。
- ②上富良野町の様子^{ようす}を思い出し、どこで作物が作られているか話し合おう。
- ③地域でつくられた作物はどのように消費^{しょうひ}されているのか考えよう

わたしたちは、スーパーマーケットを見学したときに上富良野町でつくられているものが売られていることに気がつきました。



そこで、わたしたちは、自分たちが住んでいる町では、どこでどのような作物^{さくもつ}をつくられているのか、上富良野町の様子を思い出しながら、話し合いをしました。



↑「かみふらの^{けい}軽トラ市」で売られていた野菜



「そういえば、私の家の^{ちか}近くに田んぼがあるね。きっとお米をつくっているのだと思うな。」



「^{きんじょ}ぼくの近所ではメロンをつくっているよ。また別の^{べつ}近くの^{のうか}農家ではいろいろな野菜をつくっていたなあ。」

話し合いを進めていくと、作られた作物は、どこでどのように消費されているのか気になり、^{よそう}予想をみんなで話し合ってみました。



「^{きゅうしょく}給食のメニューに上富良野で作られた材料^{ざいりょう}を使っているのかもしれないね。」



「上富良野町にあるお店に食材が^{はこ}運ばれるかもしれないね。もしかすると、上富良野町だけではなく、他の町や市に運ばれているかもしれないよ。」

この時間の問い

わたしたちの町では、どのような作物をつくっているのだろう。

活動

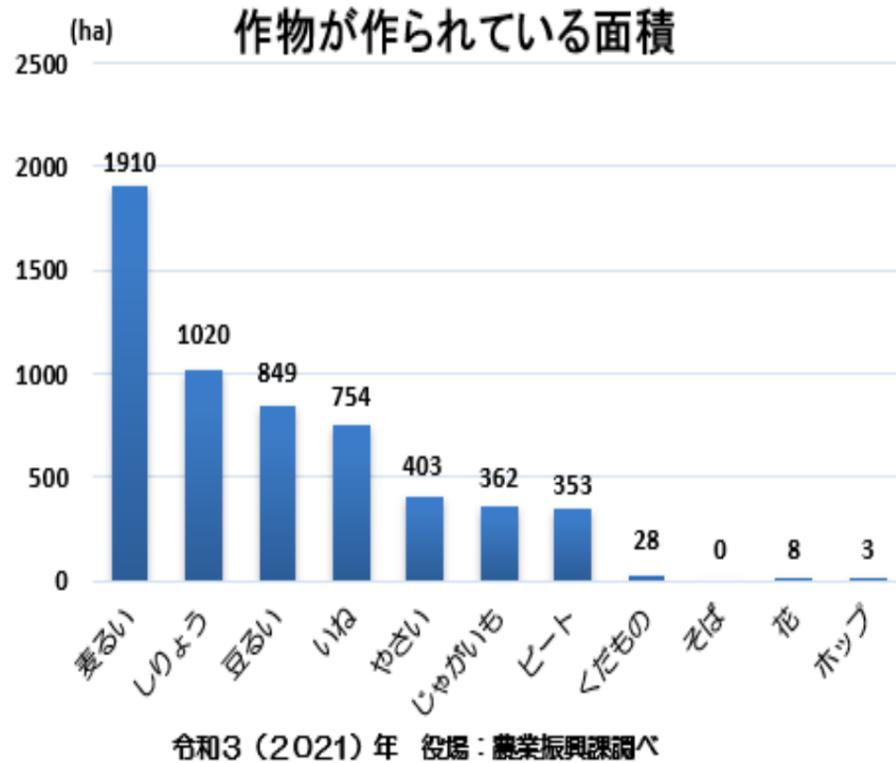
- ①上富良野町で作られている作物を調べよう。
- ②主な作物を取り上げ、学習問題をつくろう。
- ③学習問題について予想し、学習計画を立てよう。

キーワード

○出荷

●学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう

わたしたちは、上富良野町でつくられている作物について調べ、話し合いました。



上富良野町では、米づくりのほかに、じゃがいも、ビート、豆、麦などたくさんの作物が作られています。とくにアスパラガス、とうもろこし、ホップ、メロンなどは、上富良野町を代表する作物です。これらの作物は、寒さに強く、上富良野町の土地にあった作物といえます。

また日の出、旭野、東中、清富、江花、草分などでは、豚や乳牛・肉牛などたくさんの家畜が飼われています。牛を飼うには、広い牧草地が必要なので、けいしゃ地を平らにしてきました。また、冬のえさをたくわえるくふうもしなければならぬので、バンカーサイロやスタックサイロなどが活用されています。



「いろいろな作物をつくっているね。」



↑①ホップ



↑②メロンの出荷



「一つの農家で全部をつくるのはむずかしいと

思うよ。きっと、つくる作物によってくふうに違いがあると思うな。」



「農家の人たちは、どのようにして作物をつくっているのかな。農家の仕事はわたしたちと他に何かつながりがあるのかな。」

みんなでつくった学習問題

農家の仕事にはどのようなくふうがあり、わたしたちの暮らしとどのようなつながりがあるのだろう。



「広い土地でたくさんの作物を育てていると思うよ。すぐには育たないから、何ヶ月もかけて、世話をしているのではないかな。」



「作物の育て方や、働く人の仕事について知りたいな。つくった作物は地元の人に売っていると思うな。」

わたしたちは、上富良野町で、たくさんの種類の作物が作られていることを知りました。その中で、お米をつくる仕事についてくわしく調べることにしました。

この時間の問い

お米は、どのようにしてつくられているのだろう。

活動

- ①畑の様子や道具を観察しよう。
- ②お米の作りかたや、仕事について話をきこう。
- ③気になったことを質問しよう。

キーワード

- 苗
- 調節
- 農薬

●瀬川さんの田んぼをたずねて

わたしたちは、お米を育てている農家の瀬川さんをたずねました。水田での仕事を見せていただき、農家の仕事について話をききました。



瀬川さんのお話①

雪の消える4月に、ビニールハウスの中で、苗を育てます。また、4月下旬から、トラクターで、田をたがやします。

土の中に空気を入れるために、田をたがやします。これによって稲を植えたときに根が成長しやすくなります。



↑①トラクター

瀬川さんのお話②

5月になると田植えが始まります。田植えは、機械で行います



↑②田植えをしている様子



瀬川さんのお話③

6月から8月にかけては、稲がよく育つ時期なので草取りや、稲の病気予防、害虫のくじよ、水の調節などに気がつかれます。また心配なのは、天候です。天候に左右されて、お米のとれる量が増えたり減ったりしますし、計画通りに作業が進まないことがあります。他にも、お米の価格が安定しないなどの不安があります。



機械の進歩もあり、農薬を散布するときには、ヘリコプターやドローンを使う農家もあります。



↑③ドローン



↑④小型ヘリコプター

瀬川さんのお話④

9月の中ごろになると、稲刈りが始まります。1年で一番いそがしい時期になります。



↑⑤稲刈りをしている様子

この時間の問い

お米づくりには、どのようなくふうがあるのだろう。

活動

- ①見学に行って、インタビューしたことをふり返ろう。
- ②農家の仕事のくふうをまとめよう。
- ③農家の仕事のくふうを話し合おう。

キーワード

- 直播米 ○もみ
- スマート農業

●お米づくりのくふう

わたしたちは、調べたことをもとに、瀬川さんのお米づくりのくふうについて気づいたことを、話し合いました。

瀬川さんのお話⑤

わたしたちの仕事の多くは、機械でします。機械は、短い時間にたくさんの仕事ができます。機械が使いやすいように水田を大型にし、道を広げ、用水路を整える仕事も進めています。また、よい米をつくるために草を取り、病気や害虫をふせぐために農薬を使います。農薬のまく回数や使う時期を考えて、安全に食べられるように使用しています。また、なによりも大切なことは、安定してみなさんにお米を届けることだと思っています。そのためにわたしたちはたくさんなくふうをしています。



「より多くのお米を収穫できるようにたくさんなくふうをしていることがわかったね。」



「機械を使って、短い時間で仕事ができるようにしたり、土地を整えて、作業がしやすいようにしたりしていたね。」

瀬川さんのお話⑦

最近では農業に使う機械の進歩がめざましく発展しています。ドローンでの農薬散布や、自動操縦での田植えなども可能になっていっています。これらの機械を使うことで、広い面積の農地をより短時間で管理することができるようになってきました。さまざまな技術を使って、農業の課題を解決するような取り組みも行われています。



お話を聞いて、農家の人が安全でおいしいお米をつくるために、くふうしながら仕事をしていることがよくわかりました。北海道米は、全国の中でもたいへんおいしいと注目されています。

瀬川さんのお話⑥

数年前から、直播米の栽培を進めています。直播米とは、田んぼに直接、「粃(もみ)」をまいて栽培したお米のことです。この方法によって苗づくりなどの手間をへらすことができます。

手間がへった分、多くの田んぼの面積を使って、お米を作ることができます。このようにして、たくさんのお米を作ることができるよう努力しています。



↑ 直播米づくりの様子

資料 —スマート農業—

先端技術を使って、農業をサポートすることを「スマート農業」といいます。

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/#smart>
スマート農業:農林水産省 (maff.go.jp)



↑ ① 自動操縦型の田植機

●お米はどこへ

わたしたちは、瀬川さんの田んぼで稲刈りの様子を見学しました。そして、お米がどこへ運ばれていくのかを調べてみました。



この時間の問い

お米は、どのようにしてわたしたちのところへ運ばれるのだろう。



「たくさんの稲を機械で一斉に刈り取っていたね。」



「稲からどうやって、いつも食べている白い米になるのだろうか。」

活動

- ①稲を収穫する様子をふり返ろう。
- ②稲が収穫した後にどのような順番で、お米になるか調べよう。
- ③収穫した稲が、どこに行くのか調べよう。

わたしたちが食べている「お米」になるためにはいくつかの手順をふんでいます。

- ①稲刈り→田んぼに植えてある、稲を刈り取る。
- ②脱穀→稲の穂先にある籾(もみ)を分ける。
- ③乾燥→お米を長く保存できるように乾燥させる。
- ④籾すり→籾殻を取り除いて、玄米にする。
- ⑤精米→糠(ぬか)と胚芽(はいが)を取り除く。

キーワード

- 脱穀 ○玄米
- 精米 ○肥料

資料 —収穫から食卓へ—

[お米ができるまで | クボタのたんぼ \[学んで楽しい!たんぼの総合情報サイト\] \(kubota.co.jp\)](http://kubota.co.jp)



「お米として食べるまでに、たくさんの行程があったね。」

「瀬川さんの田んぼでとれた稲は、どこに運ばれるのだろう。」

瀬川さんのお話⑧

刈り取られた稲は、上富良野町や中富良野町にあるライスセンターに運ばれます。



↑①中富良野町にあるライスセンター



↑②上富良野町のライスセンター

ライスセンターで、もみから玄米になった後、精米工場に運ばれます。そこで精米し、ふくろにつめられて、商品になり、全国各地に出荷されます。

ここからお店などにならび、みなさんの所にお米が届きます。



「田んぼからわたしたちの食卓に届くまでに、さまざまな人の協力があることがわかったよ。」

お米のくふうはありますが、畑の作物にもまた違うくふうがあります。畑の作物は、毎年同じ土地に同じ作物を植えると、よく育たないので、どこに何を植えるか、よく考えて栽培しています。また、作物によって種をまく時期や、肥料、手入れの仕方がちがいます。このように、農家の人は、つくるものに合わせて、いろいろなくふうをしながら仕事をしています。



●パンフレットにまとめよう

わたしたちは、学習問題をふり返り、これまで調べてわかったことや感じたことをパンフレットにまとめることにしました。

みんなでつくった学習問題

農家の仕事にはどのようなふうがあり、わたしたちの暮らしとどのようなつながりがあるのだろう。

「たくさんの機械を使って、お米をつくっていることがわかったよ。また何ヶ月もくふうしながらつくることがわかって、お米の大切さを感じる事ができたよ。」



「収穫した後も、わたしたちに届くまで、さまざまな人が関わっていることがわかったね。」

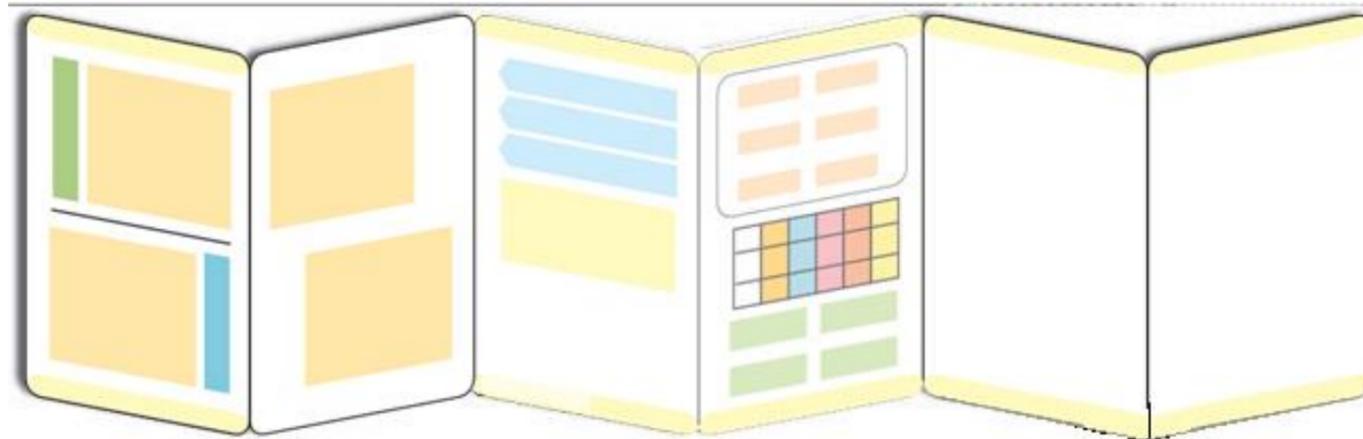


わたしたちは、これまでの学習をふり返り、パンフレットにまとめました。そしてまとめたことを発表しました。

- キーワードをふり返ろう
- 出荷しゅっか
 - 農薬のうやく
 - もみもみ
 - 脱穀だつこく
 - 肥料ひりょう
 - 苗なえ
 - 直播米ちよくはんまい
 - スマート農業スマート農業
 - 玄米げんまい
 - 調節ちようせつ
 - 直播米ちよくはんまい
 - 精米せいまい

パンフレットの作り方 例

- ①二つ折りにした紙に調べてわかったことや、感じたことを書いていく。
- ②セロハンテープなどで紙をつなげていく。自分の意見や感想を書いた紙は、最後につなげる。
- ③1枚目の紙のうらに表紙をつくる。



メモ 例

- ・植えるところから収穫まで、何ヶ月もかかることがわかった。
- ・機械を使って、広い土地を管理していることがすごいと思った。
- ・収穫した後も、すぐ食べられるわけではないことがわかった。
- ・安全に確実に食卓に届くように、農家の人はたくさんのくふうをしていることがわかった。

今回の学習で、農家で働く人は、広い田んぼでお米をつくるために、機械を使って作業していることがわかりました。また安全に確実に作るためにいろいろな工夫をしていることがわかりました。

3

地いきの安全を守る

この時間の問い

安全を守るために、だれがどんなことをしているだろう。

活動

- ① 教科書 p.94～p.95 のイラストから、だれが何をしているのかを読み取ろう。
- ② イラストの中の様々な人の気持ちを考えよう。

ウーウーウーと音をたて、赤い光を点めつさせながら走っていくパトカーや、サイレンを鳴らして火事の現場^{げんば}に向かう消防車^{しょうぼうしゃ}を見たことがありますか。

わたしたちの町では、交通事故^{じこ}や火事などから、わたしたちの生命^{せいみん}や財産など、くらしを守るために、町の人々がどのような工夫^{くふう}や努力^{どりょく}をしているのか、これから調べてみましょう。

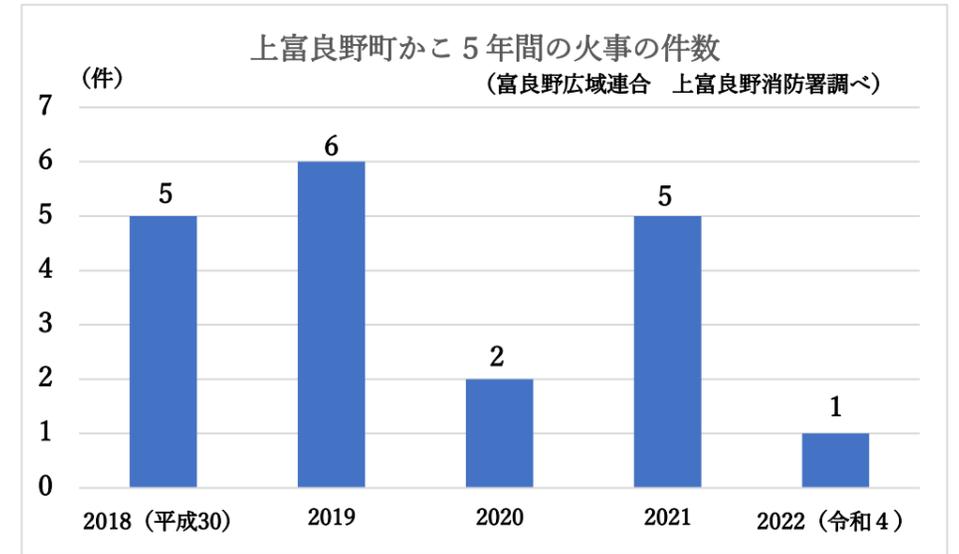
この時間の問い

火事から学校やまちを守るしくみを調べるには、どうすればよいだろう。

活動

- ① 教科書 p.98 の写真を見て、火事の現場の様子について、気がついたことを話し合おう。
- ② グラフを読み取ろう。
- ③ 調べてみたいことから、学習問題をつくろう。
- ④ 学習問題について予想し、学習計画を話し合おう。

●学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう



③ 上富良野の火事の件数

上富良野町でも、毎年、火事が起きているんだね。



1年間で、何件くらい火事が起きているのかな。



(1) 火事からまち^{まも}を守る

この時間の問い

火事が起きたらどうなるのか、想像してみよう。

活動

- ① ひなんくんれんの体験をふりかえろう。
- ② 火事が起きた時のことを想像しよう。
- ③ 上富良野町の消防署の場所を確かめよう。

●火事^おが起きたらどうなる

学校では、火事が起きたときにひなんするための、くんれんの日があります。もし、本当に火事が起きたらどうなるのか、みんなで想像^{そうぞう}してみましよう。



① 上富良野消防署



② 救急車

この単元の学び

消防署^{しょうぼうしょ}は、どのようにして火事から学校やまちを守っているのだろうか。

【調べること】

- 消防署^{しょうぼうしょ}ではたらく人の仕事^{しごと}
- 消火活動^{しょうかかつどう}のしくみ
- 火事^{ふせ}を防ぐための取り組み
- 地いきの人たちの取り組み

【調べ方】

- 消防署^{しょうぼうじどうしゃ}へ行って、消防自動車を見学したり、はたらいっている人にインタビューしたりする。
- 学校の中にある、消防設備^{しょうぼうせつび}を調べる。
- 上富良野町^{しょうぼうしせつ}の消防施設を調べる。
- 図書館の本や、インターネット^{つか}を使って調べる。

この時間の問い

消防署の人たちは、どのような仕事をしているのだろう。

活動

- ① 消防自動車や消火の道具を見学しよう。
- ② 早く消火するためのくふうを調べよう。
- ③ 調べたことをカードやノートにまとめよう。

●消防署をたずねて

消防署は、火事を消すだけでなく、火事を防ぐために、ふだんからいろいろな仕事をしています。

消防署の方の話(動画)

上富良野町で起こった火災の原因は様々ですが、コンロやストーブ、タバコなどがあげられます。119番の通報を受けたときにすばやく現場に駆けつけて火を消すことができるように、消防士は、日ごろから訓練をしています。防火服、マスク、ボンベなどのそびは重くて大変ですが、いざというときにみなさんを守ることができるように真剣に訓練に取り組んでいます。

消防署は、火事のはきはどの水を使ってどんな消し方をするか研究や訓練をしているので、火事が起こっても落ちついて行動することができます。また、消防署の人たちは、消火栓や防火水そうなど消防施設がどこにあるのか覚えているので、すばやく消火活動を行うことができます。



立ち入りけんさ	火事になると危険なたて物を調べる。
消火訓練	ホースのつなぎ方や放水の仕方の訓練。
救助訓練	にげおくれた人やけが人を助け出す訓練。
かさいよぼうしどう 火災予防指導	消火器の使い方やひなんの仕方を指導する。
きけんぶつしせつ 危険物施設のとりしまり	危険物のとりあつかいについて指導する。
火災予防運動	火事をおこさないように、町民によびかける。
ぼうかしせつ 防火施設の点検	消火栓、防火水そう、消防車などの点検。

① 消防署の主な仕事

消防署の人たちは、火事を防ぐために、色々なことをしているんだね。



この時間の問い

119番の電話は、どのようなしくみになっているのだろう。

活動

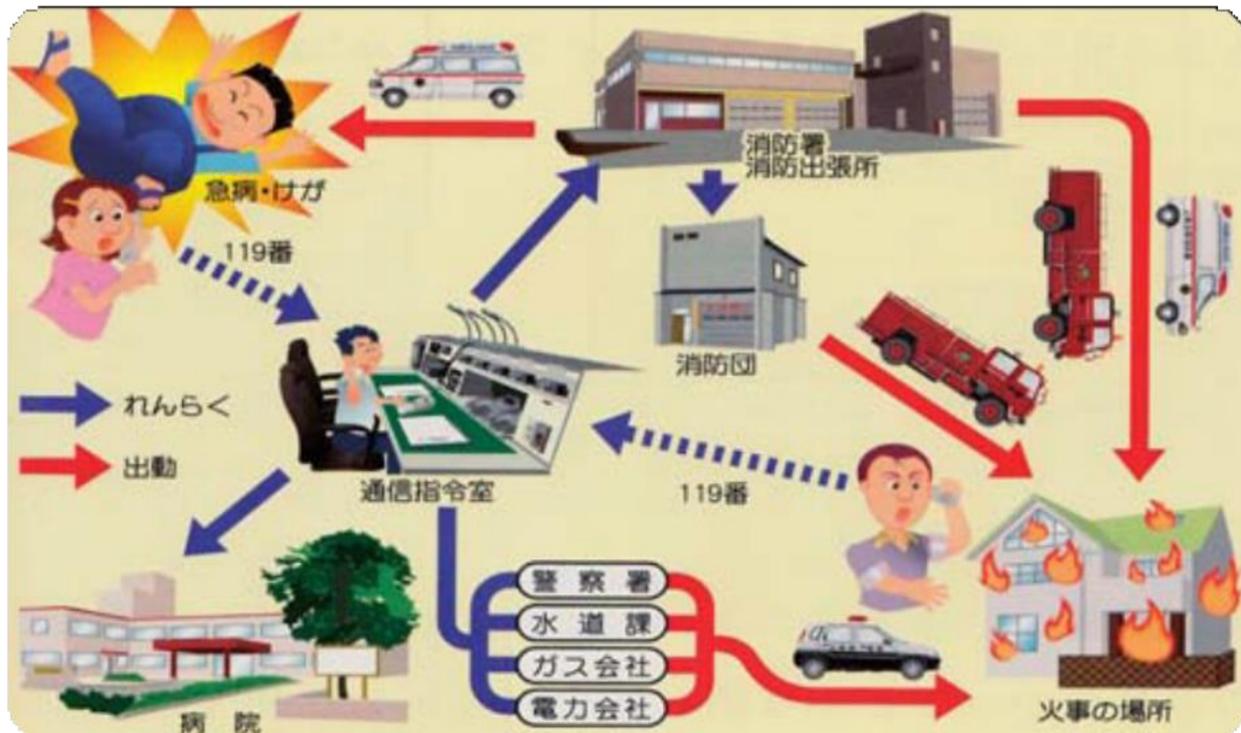
- ① 119番の電話は、どこにつながるか調べよう。
- ② 通信指令室から、どこにれんらくが行くのが調べよう。
- ③ 通信指令室の役わりについて考えよう。

●消防署とさまざまな人のはたらき

火事や急病などの知らせは、町内のどこから電話しても、消防署の指令室につながります。知らせを受けた指令室は、すぐに判断して、消防車や救急車を出動させます。中富良野町の中富良野消防署、富良野市の富良野消防署、各消防団や警察署などにも火事の状況に応じて無線や電話で知らせます。



②通信司令室の様子



① 通信司令室からのれんらくのしくみ

知らせを受けた消防署や消防団の人たちは、すばやく火事場に出動します。また、電気会社やガス会社の人も火事場にかけて、消火活動に協力します。

上富良野町の「上富良野消防署」は、富良野市の「富良野消防署、山部出張所」、中富良野町の「中富良野支署」、南富良野町の「南富良野支署」、占冠村の「占冠支署」と、富良野広域連合をつくり、協力し合って消火活動を行っています。大きな火事ときは、近くの町の消防署との協力体制ができています。

そして、警察や役場と協力して、「何時ごろは、どこの道路がこむか。」「どこで、道路工事をしているか。」などくわしく調べて火事の現場にはやく行く作戦を練っています。消防署の人は、いつでも出動できるように、昼も夜も交代でつとめています。

この時間の問い

学校では、どのように火事にそなえているのだろう。

活動

- ① 学校の消防設備の場所を調べよう。
- ② それぞれの消防設備が、ある理由を考えよう。
- ③ 設備の他に、学校での取り組みについて調べよう。

●学校の消防設備を調べよう

わたしたちの身のまわりで火を消すための消防設備にどんなものがあるか、調べてみましょう。

学校の中をよく見ていくと、ふだんは気がつかない所に、たくさんの消防設備があることがわかります。



② 煙感知器



③ 熱感知器



④ 消火器



⑤ 消火栓



⑥ 非常口の誘導灯



⑦ 防火とびら



教室にも消防設備があるね。教室以外には、これらの消防設備は、どこにあるのだろう。

調べた消防設備を、学校の地図に書き入れて、消防設備の配置図をつくってみましょう。

【調べること】

・学校には、どこに、どのような消防設備があるのだろう。

【調べ方】

- ① 学校の見取り図を準備する。
- ② 分たんして、消防設備をさがす。
- ③ 消防設備を見つけたら、見取り図に書き入れる。
- ④ 見取り図を見合わせて、一つにまとめる。
- ⑤ 消防設備が、その場所にあるわけを考える。
- ⑥ 先生に、火事を防ぐための工夫について、話をさせていただく。

はいち

配置図をつくってみま

この時間の問い

わたしたちの地いきでは、火事に対して、どのようなそなえをしているのだろう。

活 動

- ① 地いきの消防しせつを調べ、白地図に書きこもう。
- ② 火事を起こさないための取り組みについて、話し合おう。

●地いきの人々の協力

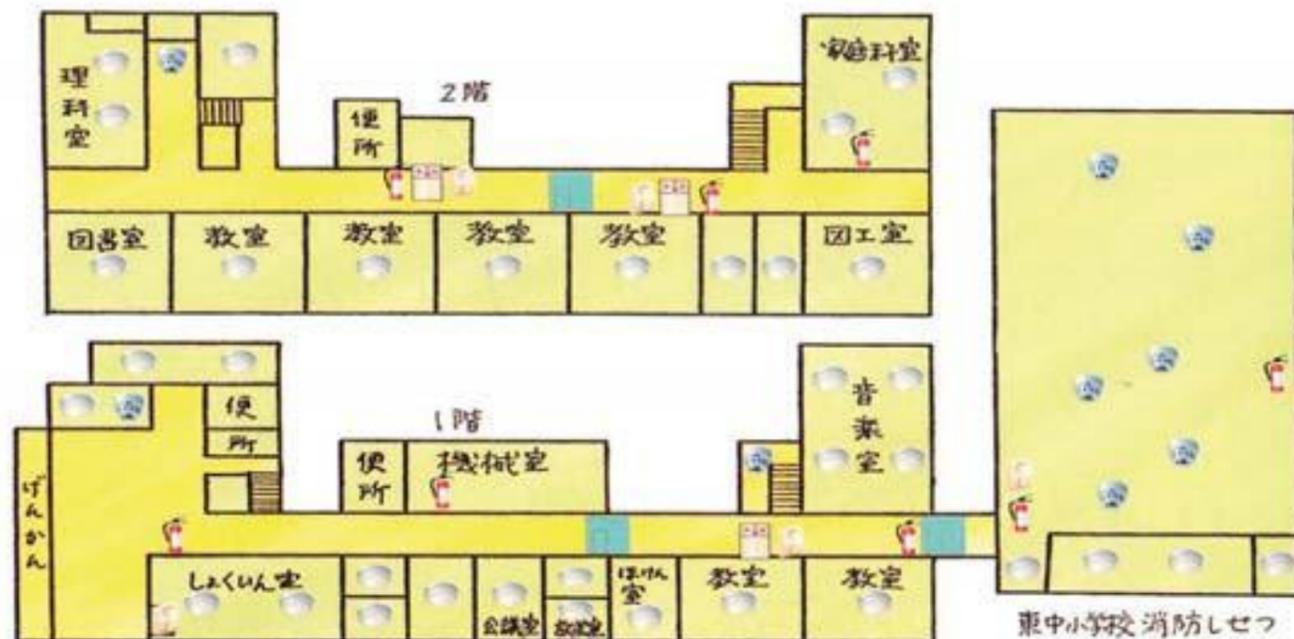
わたしたちの町や身のまわりには、どんな消防施設があり、また、どこにあるか調べてみましょう。

【調べること】

・どこに、どんな消防施設があるのだろう。

【調べ方】

- ① 地いきごとに班で分担して調べる。
- ② 調べたことを白地図にメモしておき、学校に帰ってからみんなで全体の地図にまとめる。
- ③ わかったことや気がついたことを話し合う。



① 単口消火栓



② 双口消火栓



③ 防火水そう



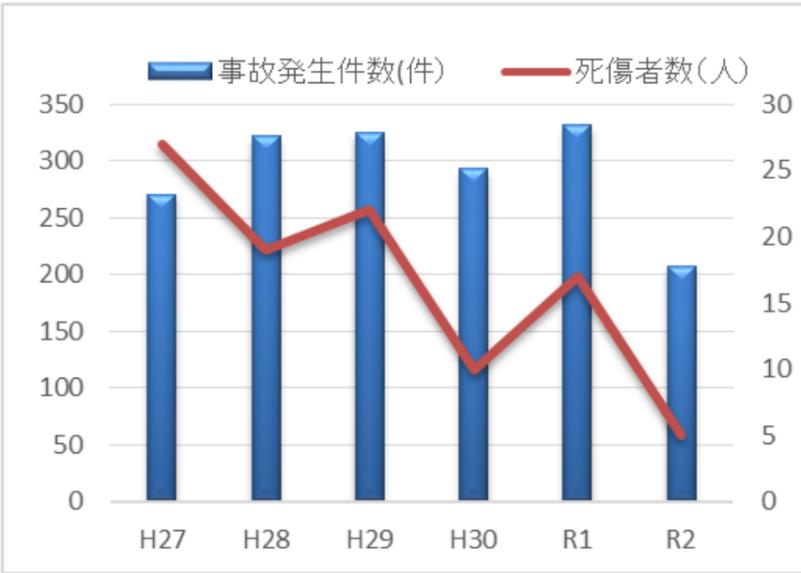


じこ じけん まも (2)事故や事件からまちを守る

この時間の問い
上富良野町では、交通事故はどのくらい起きているのだろう。

- 活動**
- ① 上富良野町で起きた交通事故の数のグラフを調べてみよう。
 - ② 教科書 p.116 の写真から、けいさつの仕事の様子を調べよう。
 - ③ 気づいたことや考えたことから、学習問題をつくろう。
 - ④ 学習問題をよそし、学習計画を話し合おう。

●事故が起きたら
毎日のように交通事故のニュースが、わたしたちの耳に入ってきます。また、事故のため死んだ人やけがをした人も多く出て、悲しい思いをしている人がおおぜいいます。



① 交通事故発生件数(上富良野町)

この時間の問い
消防署は、どのようにして火事から学校やまちを守ったのだろう。

- 活動**
- ① 調べてきたことをふり返り、自分が大切だと考える言葉を決める。
 - ② 決めた言葉をもとに、5音または7音に近い言葉を考える。
 - ③ まとめた言葉をつなげたり、ならべかえたりして、標語にする。

●火事からまちを守るはたらき
学習問題をふり返り、火事からまちを守るしくみをまとめます。消防の取り組みの中から自分が一番大切だと思うことを

ひょうご 標語にまとめ、発表しましょう。



火事からまちを守るために、自分が大切だと思ったことは、何かな。

交通事故だけではなく、まちではさまざまな事件も起きています。けいさつのは、どのような仕事をしているのでしょうか。



けいさつのは、110番のれんらくがあれば、すぐにつけてくれるはずだよ。

火事の時と同じように、地いきのいろいろな人が協力していると思う。



この単元の学び
けいさつや地いきの人々は、どのようにして事件や事故からまちを守っているのだろう。

【調べること】

- ・事故や事件が起きた時の、けいさつの仕事
- ・地いきの安全を守る、けいさつのそなえ
- ・事故や事件を防ぐための、地いきの取り組み

【調べ方】

- ・学校の近くの交番へ行って、見学したり、はたらいっている人にインタビューしたりする。
- ・学校のまわりを歩いて、安全のためのしせつをさがす。
- ・地いきの人たちにインタビューをする。
- ・図書館の本や、インターネットをつかを使って調べる。

この時間の問い

交番では、どのような仕事をしているのだろう。

活 動

- ① 上富良野町の交番をたずねてみよう。
- ② どのような仕事をしているのか、インタビューしてみよう。
- ③ 警察の仕事は、地いきとどのようなかわりがあるのか考えよう。

●けいさつの仕事

わたしたちの安全を守るため、^{けいさつかん}警察官がいます。交番をたずねていろいろ聞いてみました。

○毎日、町のようすを^{ふらのけいさつしょ}富良野警察署に報告します。

○机の上には、電話が3つあります。その2つは、他の警察などと連らくをとりあうための^{せんよう}専用電話になっています。

○パトロールをする時は、かならず^{むせんき}無線機をパトカーにつけて、出かけます。

○パトロールをする時は、^{ひょうしき}交通標識・安全施設などを見回ります。

○町民からの相談や、^{とど}届け出の仕事をすることもあります。

この時間の問い

けいさつしょは、どのように交通事故をしよりにしているのだろう。

●交通事故のしよりに

交通事故が起きた時、けいさつしょの人は、どのように事故をしよりにするのでしょうか。

活 動

- ① 110番の電話は、どこにつながるか調べよう。
- ② 110番のれんらくは、どのように伝えられるのか調べよう。



① 110番のれんらくのしくみ

上富良野交番
長谷川所長さんのお話
[\(動画\)](#)

そのほか、一人ぐらしのお年寄りに気をくばるなど、わたしたちの安全を守るためいつもたくさんの仕事をしています。



②上富良野交番

この時間の問い

学校のまわりには、交通事故を防ぐために、どのような施設があるだろう。

●学校のまわりを調べよう

わたしたちを交通事故から守るために、学校の近くや町の道路などに、どんな施設しせつがあるか、調べてみましょう。また、学校や町では交通事故を防ぐためどんな努力をしているのでしょうか。

活動

- ① 学校のまわりの、交通事故を防ぐための施設を調べよう。
- ② 交通事故を防ぐための施設が、その場所にあるわけを考えよう。
- ③ 調べて気づいたことや、考えたことを話し合おう。

【調べること】

- ・道路にある交通安全のための施設
- ・警察と地いきの人が行う、安全なまちづくりのための活動

【調べ方】

- ・学校のまわりを調べたり、地いきの人に話を聞いたりする。
- ・警察署や交番に行って、話を聞いたり資料をもらったりする。

毎日、学校への行き帰りに、歩道ほどうを歩きます。信号機のある横断歩道は、必ず白くぬられています。信号機のない所でも道路に印があります。このようによく見ると、

安全施設や標識ひょうしきがたくさんあることに気がつくと思います。



<p>おうだんほどう 横断歩道</p> <p>近くに横断歩道があるときは、横断歩道をわたりましょう。</p>	<p>おうだんきんし 横断禁止</p> <p>この道路を渡ってはいけません。</p>	<p>ほこうしゃせんよう 歩行者専用</p> <p>歩く人だけの道路です。</p>	<p>しんごうき 信号機あり</p> <p>信号機があります。</p>
<p>いちじていし 一時停止</p> <p>ここで止まりましょう。</p>	<p>つうこうど 通行止め</p> <p>すべての人や車が通ることはできません。</p>	<p>つうこうど 自転車通行止め</p> <p>自転車は通ることができません。</p>	<p>自転車および歩行者専用</p> <p>自転車と人が通ることができます。</p>
<p>自転車専用</p> <p>自転車だけが通ることができます。</p>	<p>おうだんたい 横断歩道・自転車横断帯</p> <p>横断歩道と自転車が横断できます。</p>	<p>自転車横断帯</p> <p>自転車だけ横断できます。</p>	

①道路標識



道路標識で注意をよびかけているんだ。

自転車のための標識もあったよ。自転車に乗る時にも交通ルールがあるんだね。



この時間の問い

地いきの人たちは、安全を守るために、どのような取り組みをしているのだろう。

活 動

- ① 通学するときの安全の取り組みについて、思い出そう。
- ② 地いきの安全を守るしくみについて調べよう。
- ③ 地いきの安全のために、自分たちにできることを話し合おう。

●地いきの人の協力

4月、新学期をむかえたわたしたちは、学校までの道路を、
新入生といっしょに、安全を確かめながら登校しています。

また、先生やPTAの方たちも協力して交通事故を起こさない
ように街頭指導^{がいとう}をしています。

学校では、雪がとけて、自転車に乗れるようになると交通安
全教室をグラウンドなどで行います。

そのときは、町の生活安全推進協議会の人や交通指導員、
警察の方などが来て、信号機の見方や横断歩道のわたり方
など親切に教えてくれます。

わたしたちは、自転車の点検など、いつも交通事故にあ
わないように心がけることが大切です。

この時間の問い

けいさつしょや地いきの人々は、どのようにして事故や事件からまちを守っているのだろう。

活 動

- ① 地いきの危険な場所や安全のためのしせつをふりかえろう。
- ② それぞれの場所を学校のまわりの地図に書き入れよう。
- ③ 気づいたことをまとめよう。

●事故や事件からまちを守るはたらき

学習問題を振り返り、事故や事件からまちを守るはたらき
についてまとめましょう。学校の周りの危険な場所や、安全の
ためのしせつを振り返り、町の地図に書き入れてみましょう。

地図にまとめてみると、交通安全施設は、人が多く通るとこ
ろや旧国道など自動車がたくさん通るところに、つくられてい
ることがわかります。

また、役場や駅、店などが近くにある道路などに多くの交通
安全施設があり、わたしたちが少しでも安全な状況で行き来
できるように工夫されています。

交通事故がふえないように、国や北海道でも真けんにとりく
んでいます。

地いきでは、いろいろな立場の人が協力して安全を守っているんだね。



① 朝の登校時の交通教育指導風景



② こども110番の家

【安全マップの作り方】

- ① 危険な場所について振り返る。
- ② 安全のための施設について振り返る。
- ③ 安全マップを作る。
 - ・調べた結果を話し合う。
 - ・学校のまわりの地図に、危険な場所と安全のための施設を書き入れる。
 - ・気が付いたことをカードに書いて、地図にはる。
 - ・事故や事件が起こりそうな場所とその理由を書きこむ。
 - ・絵をかいたり、写真をはったりする。

まち あゆ
わたしたちの町の歩み



写真①



「これは昭和時代に町の様子を空から写した写真なんだって。昔のまちの様子と今の町の様子をくらべると、どんなちがいがあるのかな？」



「土地の様子、たてものの様子、交通の様子などに注目して、昔と今のちがいを考えよう。」



写真②



「ここはどこだろう。この写真だけだとわからないね。」



写真③



「こっちは何年も後にとられた同じ場所の写真だよ。道路が整備されたね。たてものも変わっているね。」



「町たんけんして調べたことを思い出すと・・・。」



「お店が集まっているし、駅前だと思ふな。」

1 かわる道具とくらし

● 昔の道具



写真①

この時間の問い

わたしたちの周りには、どのような昔の道具があるのだろう。

活動

- ①今でも使われている昔の道具について、話し合おう。
- ②町の郷土館で昔の道具をさがそう。
- ③昔の道具は何に使われていたのか調べよう。



写真②

かま



写真③

すいはんき
炊飯器



わたしたちは、昔のくらしの様子が見て、どんな道具が使われているのかさがしてみました。



「米をたくために、今は炊飯器を使っているけど、昔はかまを使っていたんだって。」



「わたしはおばあちゃんの家で、かまでたい米を食べたことがあるよ。たくのは少したいへんだったけど、おいしかったなあ。」

わたしたちは、古い道具を使っていたころのくらしは、どんな様子だったのかくわしく調べることにしました。

● 学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう

この時間の問い

昔の道具が使われていたころは、どのようなくらしをしていたのだろう。

活動

- ① 昔の道具を調べて、気づいたことを話し合おう。
- ② 今のくらしと昔のくらしのちがいをもとにして、学習問題をつくろう。
- ③ 学習問題について予想して、学習計画を話し合おう。

わたしたちは昔の道具の使われ方を調べて、昔のくらしの様子について話し合いました。



写真①



写真②



「カメラは昔、こんなに大きかったんだね。」



「どうやって使うのかな。写真を撮るのがたいへんそうだね。」



「今ではずいぶん小さくなったし、スマートフォンで気がるに写真を撮る人も多いね。」



「道具がかわることで、ぼくたちのくらしも変わってきたんじゃないかな。」

この単元の学び

道具がかわることで、人々のくらしはどのようにかわってきたのだろう。

次に、学習問題について予想しながら話し合いました。そして、予想をたしかめるために、調べることや調べ方を決めました。

道具とくらしのうつりかわりの学習計画

① 学習問題について予想したこと

- ・くらしがべんりになったのではないかな。
- ・そうじなどの家事が楽になったと思う。
- ・道具が小さくなったり、軽くなったりして、使いやすくなったと思う。

② 調べること

- ・道具の名前
- ・道具が使われていた時期
- ・道具の使われ方
- ・人々のくらし

③ 調べ方

- ・郷土館を見学する。
- ・家の人にインタビューする。
- ・調べたことを道具調べカードに記録する。

きょうどしりょうかん
●郷土資料館をたずねて

この時間の問い

郷土館には、どのような道具があるのだろうか。

活動

- ①郷土館を見学しよう。
- ②昔の道具が、いつ、どのようにして、どんなことに使われたか調べよう。
- ③昔の道具について絵カードにまとめよう。

わたしたちは、昔の道具やくらしの様子についてくわしく調べるために、郷土館に行くことにしました。



写真①



写真②

郷土館には、たくさんの昔の道具がありました。そこで、わかったことや気づいたことを道具調べカードにまとめました。

道具の名前	かま
使われていた時期	おばあさんが生まれる前
使われ方	お米と水を入れて、かまどでごはんをたく。

図⑤

道具調べカードをつくる

- ①道具をかんさつしながら、絵をかく。
- ②道具の名前、道具が使われていた時期、道具の使われ方、気づいたことなどを書く。
- ③道具が使われていた時期は、「おじいさん、おばあさんが子どものころ」「お父さん、お母さんが子どものころ」などに分ける。



写真③

写真④

● ^{むかし}昔のくらしをインタビューする

この時間の問い

家の人の子どものころは、どのようなくらしだったのだろう。

活動

- ① 家の人に昔の道具についてインタビューしよう。
- ② 昔のくらしについてインタビューしよう。
- ③ 今と昔のくらしのちがいをまとめよう。

わたしたちは、おじいさん、おばあさんや^{とう}お父さん、^{かあ}お母さんが^う生まれ育った^{そだ}ころのくらしは、どんな^{ようす}様子だったのか^し知りたくなりました。また、どんな^{あそ}遊びをしていたのかも^{しら}調べることにしました。そこで^{いえ}家の人に^{ひと}インタビューをすることにしました。



写真①



写真②

おじいさん、おばあさんにインタビュー



「ごはんを^{でんき}電気すいはんきでたくようになって、^{しょくじ}食事を^{ようい}用意する^{じかん}時間が^{みじか}短くなったね。ごはんを^{ほおん}保温できたこともうれしかったと、^{はは}母から^き聞きましたよ。」



「はじめてカラーテレビを見た時、^み家族の^{とき}みなで^{かぞく}おどろいたな。それまで^{しろくろ}白黒テレビだったからね。昔は^{むかし}テレビゲームなどないから、^{どうろ}道路など家^{いえ}の外で^{がい}めんこなどを^{あそ}して遊んだよ。」



写真③



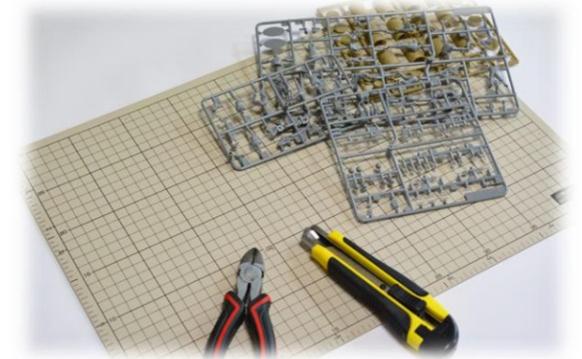
写真④



写真⑤



写真⑥



写真⑦

^{とう}お父さん、^{かあ}お母さんにインタビュー



「テレビゲームが^{たの}楽しくて、^{いえ}家で^{なか}友達ちといっしょによく^{あそ}遊んだね。プラ^つモデルを作る^{つく}ことや、^よまんがを^よ読むのが^こすきな子もいたよ。」



「コンピューターが^{つか}使われ^{はじ}始めて、^{がっこう}学校からの^{たよ}お便りが^て手書きから^{かつじ}活字に^{かわ}変わったんだ。」



「^{ひとびと}人々のくらしが^{べんり}べんりになって、^{できる}できることが^{ふえて}ふえてきたよ。よりよいくらしを^{おも}したいと思うのは、^{むかし}昔も^{いま}今も^{おな}同じだね。」



「^{どうぐ}道具だけではなく、^{くらし}くらしも^{いま}今とは^{ちがう}ちがうことが^{わかつた}わかつたよ。どんなことが^{せいり}ちがうのか、^{せいり}整理しよう。」

●かわってきたくらし

この時間の問い

道具とともに、くらしの様子はどのようにかわったのだろう。

活動

- ① 道具調べカードを黒板にならべては、昔と今の道具をくらべる。
- ② 昔と今の、道具の使われ方とくらしのちがいをくらべる。
- ③ 話し合いでわかったことを、短い言葉でまとめる。

わたしたちは、つくった^{どうぐしら}道具調べカードをくらべて、くらしの様子^{ようす}のちがいを話し合^{はな}いました。

道具とくらしは、どのようにかわったのだろう

道具の名称
せんたく板・たらい



【使われていた時期】
おじいさん、おばあさんが生まれる前

【使われ方】
せんたく板のみで、あらう物を
水や石けんといっしょにこすりつける。



道具の名称
自動せんたくき



【使われていた時期】
わたしたちが生まれ育ったころ

【使われ方】
せんたくからかんそうまで自動で行う。
あらう方をえらぶことができる。

- ・せんたくやすいの他に、エアコンや家の明かりなどに電気が使えることで、くらしがべんりになった。
- ・きかいが自動で家事をやってくれるので、楽になった。
- ・家事の時間が短くなったので、他のことができる時間がふえた。



写真①



写真②

- むかし 「昔のせんたくは、家の外で、しゃがみながら手であらって、しぼっていたんだ。」
- いま 「今のせんたくきは、せんたくものを自動であらったり、かわかしたりできるよ。」
- 「せんたくなどの家事が楽になって、他のことができるようになったよ。」
- でんき つか 「電気が使えるようになって、くらしがべんりになったんだね。」

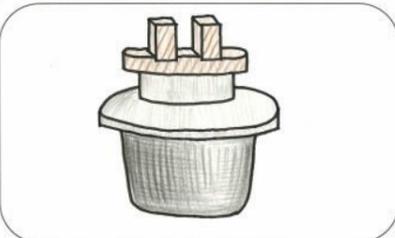
●^{どうぐ}道具とくらしのうつりかわり

この時間の問い

道具がかわることで、人々のくらしはどのようにかわってきたのだろう。

わたしたちは、昔^{むかし}の道具^{どうぐ}やくらしの様子^{ようす}について、これまで^{しら}調べてきたことを順番^{じゅんばん}にならべて、年表^{ねんぴょう}をつくることにしました。

道具とくらしは、どのようにかわったのだろう

年代	大正	昭和	平成	令和	
道具	<p>道具の名前 せんたく板、たらい</p>  <p>【使われていた時期】 おじいさん、おばあさんが生まれる前</p> <p>【使われ方】 せんたく板のみぞに、あうう物を 水や石けんといっしょにこすりつける。</p>	<p>道具の名前 かま</p>  <p>【使われていた時期】 おばあさんが生まれる前</p> <p>【使われ方】 お米と水を入れて、かまどで ごはんをたく。</p>		<p>道具の名前 自動せんたくき</p>  <p>【使われていた時期】 わたしたちが生まれ育ったころ</p> <p>【使われ方】 せんたくかうかんそうまで自動で行う。 あらい方をえらぶことができる。</p>	
くらしの様子		<ul style="list-style-type: none"> ・電化せい品が広まる。 ・上富良野に自衛隊の駐屯地ができる。 ・戦争で大きなひがいをうける。 		<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンでどこでもインターネットを利用できる。 ・持ち運びできるゲームで遊ぶ。 ・上富良野にかみんができる。 	



「年表を見て、道具^{どうぐ}やくらしの他^{ほか}に、時代^{じだい}とともにかわってきたことはないか、話し合^{はな}ってみよう。」

2 町のうつりかわり

● かわるまちの様子

この時間の問い

駅の様子は、昔と今ではどのようなところがちがうのだろう。

活動

- ① 昔の駅の様子について、さつえいした写真をかんさつしよう。
- ② 今の駅の様子について、さつえいした写真をかんさつしよう。
- ③ 昔と今の写真をくらべて、様子のちがについて話し合おう。



写真①



写真②

昔のまちの様子にきょうみをもったわたしたちは、上富良野駅をさつえいした写真を見ながら、話し合いました。



「これは上富良野駅ができたころの様子なんだって。今とどんなちがいがあがあるのかな。」



「建物の形はにているけど、よく見ると昔の駅にはとびらががないね。」



「線路をはしているのは貨車かな。荷物を運んでいるみたいだね。」



「今の駅には人が通ることのできる橋ができたね。昔は物をたくさん運んでいて、今は人を乗せることが中心に変わったということかな。」



「駅の周りも変わっているね。昔は駅の周りにたくさん木が立っていたんだね。」



「今はたくさんの建物が並んでいるね。駅の周りも整備が進んだんだね。」



「駅の様子が変わって、びっくりだね。まちの様子のうつりかわりについて調べてみよう。」

●^{がくしゅうもんだい}学習問題をつくり、^{がくしゅう みとお た}学習の見通しを立てよう

この時間の問い

まちの様子は、昔と今ではどのようにちがうのだろう。

わたしたちは、まちの様子について、^{ようす}地域の方^{かた}の方にインタビューしてみました。

活動

- ①昔のまちの様子について、学習問題をつくろう。
- ②まちのうつりかわりについて、学習問題をつくろう。
- ③学習問題について予想し、学習計画を話し合おう。

^{ちいき かた はなし}地域の方の話



^{かみふらの しょうわ ねん}上富良野は、昭和35年ころまで、^{どんど}どんどん

^{じんこう ふ}ん人口が増えていました。^{しがいち ひろ}市街地も広がり、

^{こうがい た じゅうたく ふ}郊外に建つ住宅も増えていきました。そのころに、

^{たてもの もくぞう てっきん}建物が木造から鉄筋のつくりになったり、^{こうえい}公営の

^{じゅうたく た}住宅が建ちだしたりしたので、^{まち ようす へんか}町の様子が変化した

^{おぼ}ことを覚えています。

そのころは子どもの数も増えていたので、^{かみふらの}上富良野

^{しょうがっこう こうしゃ かいちく}小学校では、校舎を改築するとき教室が足りなく

なってしまいました。わたしたちは^{たいいくかん くぎ}体育館を区切って

^{べんきょう かみふらのにししょうがっこう}勉強しました。上富良野西小学校がつけられたのも

そのころです。

^{むかし くら いま まち ちゅうしん す}昔と比べると、今は町の中心に住んでいる人や店

^{すく}が少なくなっていると感じます。

^{たんげん まな}この単元の学び

まちの様子^{ようす}は、どのようにかわってきたのだろう。



「一学期^{いちがっしき}に取り組んだ町^{とく}の様子^{まち}の学習^{ようす}をふり返^{がくしゅう}って、学習^{かえ}の見通し^{がくしゅう}を立て^{みとお}ようよ。」

わたしたちは^{がくしゅうもんだい}学習問題について^{よそう}予想して、まちの交通^{こうつう}、土地^{とち}の使われ方^{つか}、人口^{かた}、^{じんこう}人口、^{こうきょう}公共しせつに^{ちゅうもく}注目して^{しら}調べる^{がくしゅうけいかく}学習計画を立てました。

^{どうぐ}道具とくらしのうつりかわりの^{がくしゅうけいかく}学習計画

①^{がくしゅうもんだい}学習問題について^{よそう}予想したこと

^{てつどう ほか どうろ ととの おも}・鉄道^{おも}の他に、道路も整えられてきたと思う。

^{こ ふ あ こうえん あたら おも}・子どもが増えたのに合わせて公園も新しくつくられたと思う。

②調べること

^{こうつう}・交通のうつりかわり ^{とち つか がた}・土地の使われ方のうつりかわり

^{じんこう}・人口のうつりかわり ^{こうきょう}・公共しせつのうつりかわり

③調べ方

^{むかし す}・昔から住んでいる人にインタビューする。

^{ねんぴょう しら}・まちの年表を調べる。

^{しゃしん ちず しら}・写真や地図などを調べる。

④まとめ方

^え・絵カードにまとめる。

^{ねんぴょう か た}・年表に書き足す。



「ぼくたちのまちが、どのようにかわってきたのか、もっとくわしく調べてみようよ。」

● 交通はどのように変わったのかな

この時間の問い

まちの交通の広がり
は、どのようにかわっ
てきたのだろう。

活 動

- ① 昔の駅の様子を知
る人にインタビュー
しよう。
- ② 交通のうつりかわ
りについて、話し合
おう。
- ③ 調べたことを、絵カ
ードにまとめよう。

わたしたちは、上富良野駅を昔から知る人にインタビューし
ました。

ちいき かた はなし
地域の方の話



昔の上富良野駅は利用する人が多く、

自転車が駐輪場からあふれてしまうほど

でした。駅の周りには商店がたくさん並んでいて、と

ても活気がありました。

線路に貨物をはしっていたので、駅前には運送

会社は何件かありました。上富良野でとれた農作物

などを貨物で運んでいました。

駐輪場や駅前の道路はどんどん整備されていき、

より利用しやすくなりました。

しかし最近では、各家庭が自家用車を持ちはじめた

ことで、駅に足を運ぶ人は減ったように思います。

輸送もトラックが中心となってきました。

昔と比べると駅前がさびしくなったように感じま

す。

「駅前もさまざまな変化があったんだね。次は土地の使い方を調べよ
う。」



● 土地の使い方はどのように変わったのかな

この時間の問い

まちの土地の使い
方は、どのようにかわ
ってきたのだろう。

活 動

- ① 昔の土地の使い
方を知る人にイ
ンタビューしよう。
- ② 土地の使い方の
うつりかわりにつ
いて、話し合おう。
- ③ 調べたことを、絵カ
ードにまとめよう。

わたしたちは、地域の方に聞いた昔の様子と、今の土地の
使い方をくらべて話し合いました。

ちいき かた はなし
地域の方の話



上富良野は富良野盆地の最北の地とし

て、昔からさかんに農業が行われてきまし

た。昔は草分地区からつづく平地は田んぼばかりが

ならんでいました。国から米の生産量を調整するきま

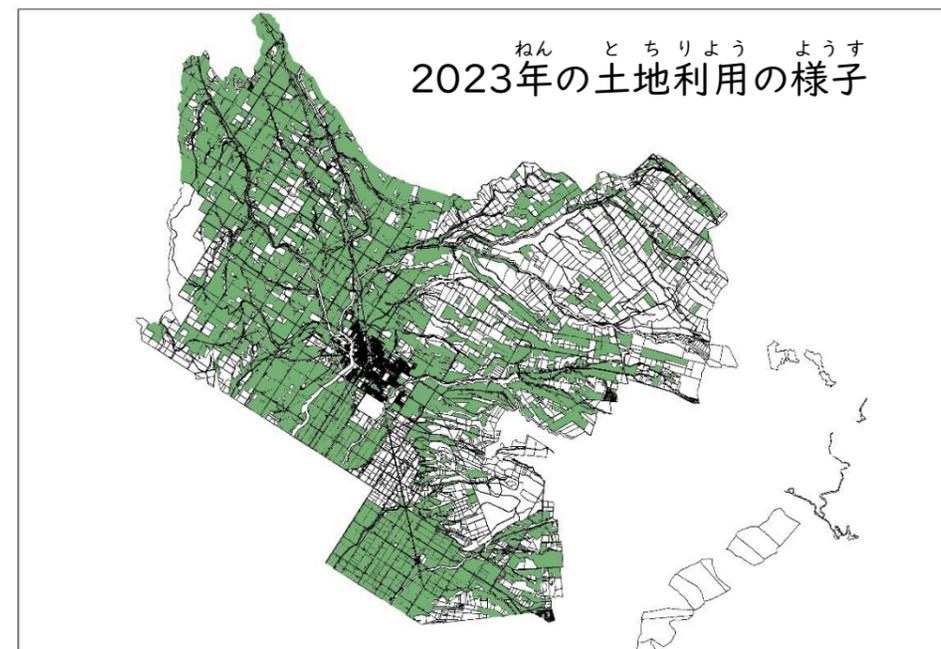
りが出されてからは、畑として利用する土地が増え、

麦や豆、てんさい、ばれいしょ、ホップ、アスパラ、メロ

ンなどをつくるようになりました。

市街地は人口の増加に合わせて広がってきました。

2023年の土地利用の様子



「土地の使い方はどのようにかわってきたのかまとめよう。」



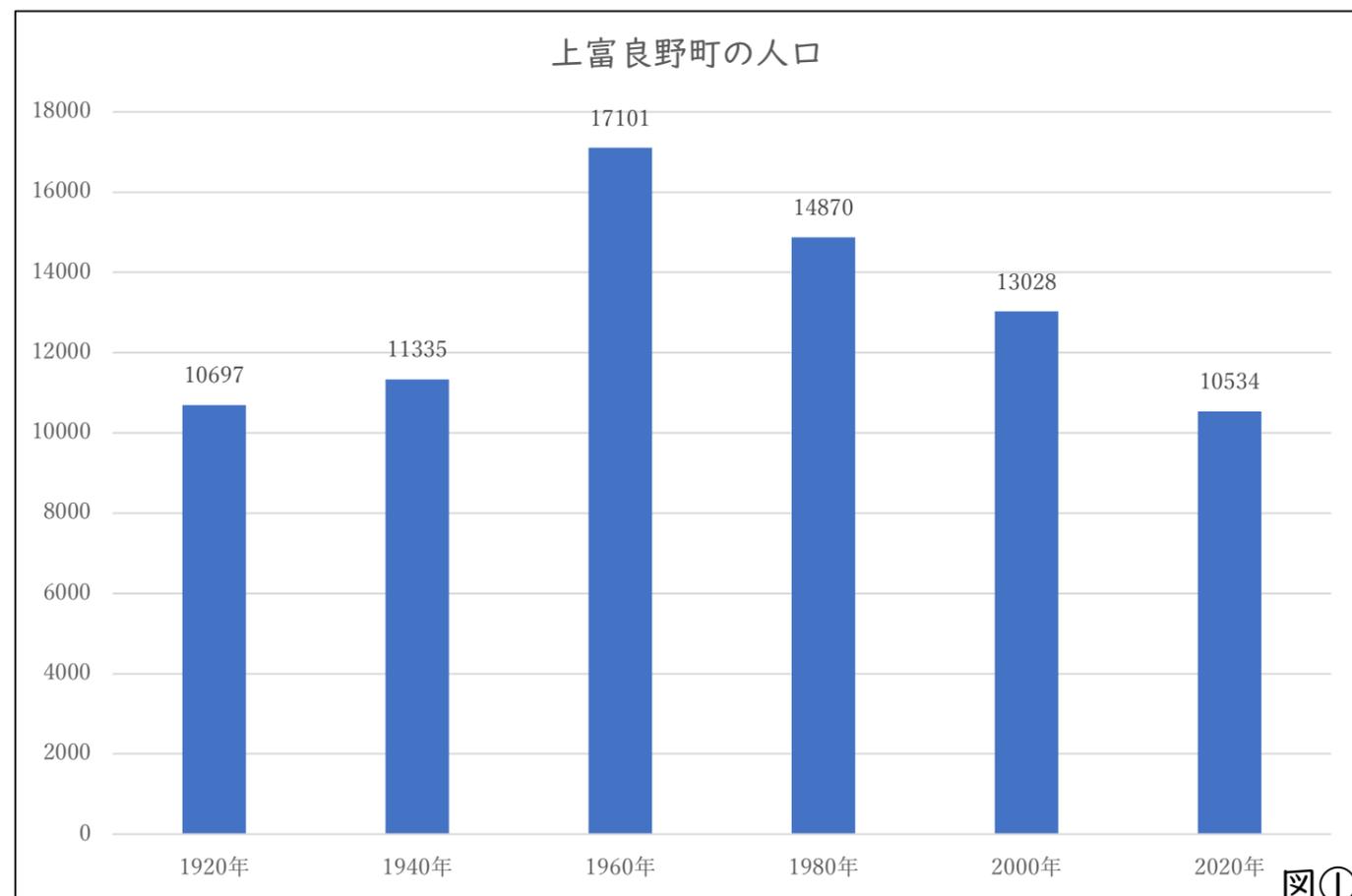
☒①

● ^{じんこう}人口はどのようにかわったのかな

わたしたちは、まちの人口のうつりかわりを調べてグラフをつくりました。

この時間の問い
まちの人口は、どのようにかわってきたのだろう。

活動
①人口のうつりかわりを表したグラフを調べよう。
②調べたことを、絵カードにまとめよう。



「1940年から1960年のあいだに人口がたくさん増えたね。なにか理由はあるのかな。」

「上富良野に自衛隊の駐屯地ができたのが1955年なんだって。そのことが人口が増えたことと大きくかかわって*い*そうだよ。」

「人口の変化とまちにできたものは深く関係して*い*そうだね。次は公共しせつがどのようにできてきたのか調べてみよう。」

● ^{こうきょう}公共しせつはどのようにかわったのかな

わたしたちは、別しりょうの「上富良野のできごと」を見ながら、まちの公共しせつがいつできたのかを調べました。

この時間の問い
まちの公共しせつは、どのようにかわってきたのだろう。

活動
①まちの公共しせつが、いつできたのかを調べよう。
②調べたことを、絵カードにまとめよう。

「これまで、いろいろなしせつがつくられてきたんだね。前にまとめた年表に、これまで書いた絵カードを足してみよう。」

● ^{ねんぴょう}年表を書き足そう

この時間の問い
(みんなでつくった学習問題)
まちの様子は、どのようにかわってきたのだろう。

わたしたちは、道具調べカードをならべてつくった年表に、まちの様子を調べてわかったことを書き足すことにしました。

「教科書154ページ、155ページを参考に、道具についてまとめた年表にまちのできごとを書き加えよう。」

● ^{ねんぴょう}年表を見て話し合おう

わたしたちは年表を見ながら、交通、土地の使われ方、人口、公共しせつが、どのようにかかわっているかを話し合いました。

「これからのまちがよりよくなるように、自分たちにできることを考えてみよう。」

広げてみよう町から北海道へ

この時間の問い

都道府県の位置を調べよう。

活動

- ① 北海道について知っていることを発表しよう。
- ② 北海道以外に知っている都府県を発表しよう。
- ③ 都道府県の位置を地図帳で調べよう。

3年生では、みなさんの住んでいる上富良野町の様子^{ようす}について学習しました。4年生では、北海道について学習します。

北海道について何か知っていることは、ありますか。

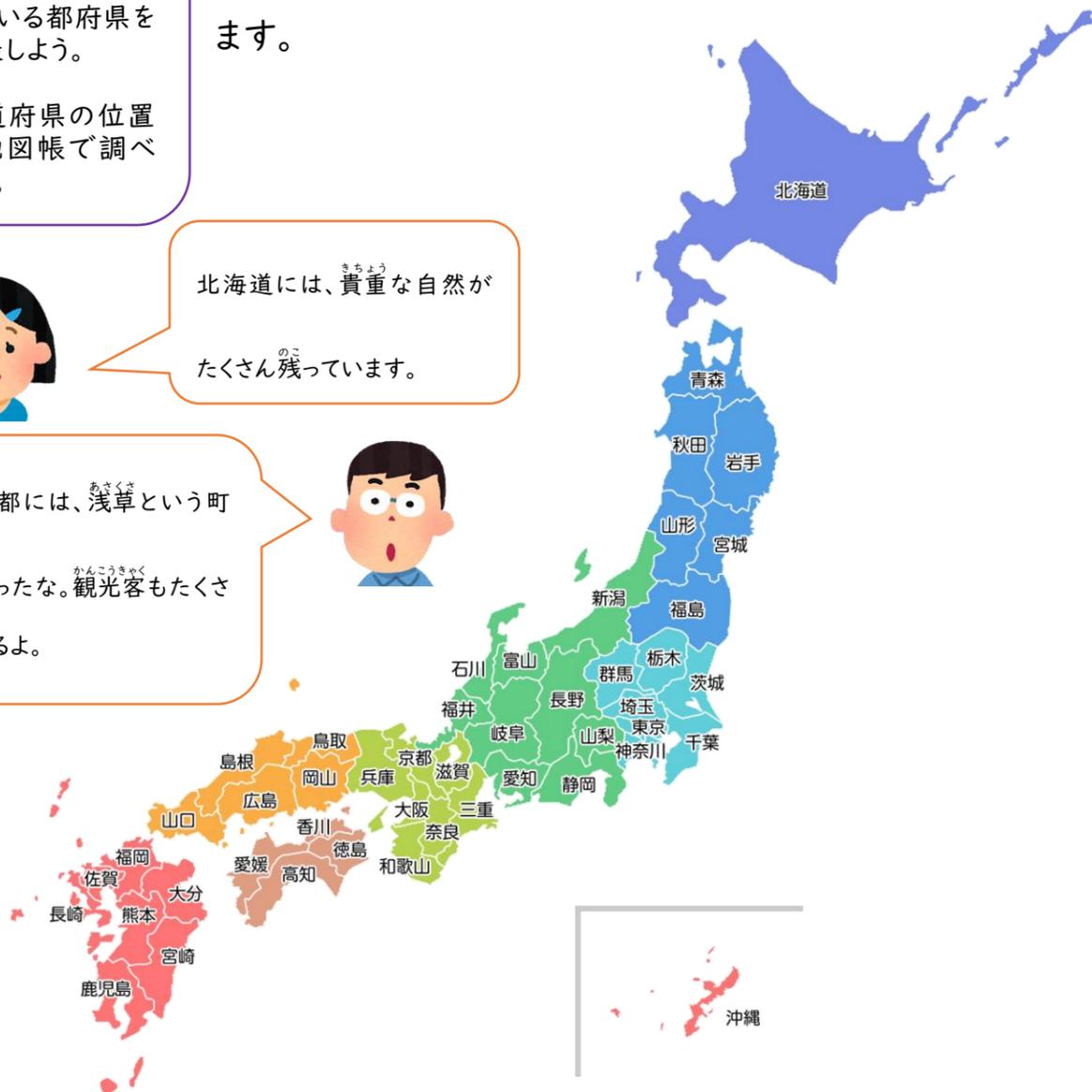
日本には、北海道以外に43の県と東京都、大阪府、京都府^{とどうふけん}があります。これら、都、道、府と県を合わせて都道府県^{とどうふけん}といいます。



北海道には、貴重な自然がたくさん残っています。



東京都には、浅草^{あさくさ}という町があったな。観光客もたくさん来るよ。



この時間の問い

47都道府県のクイズ大会を開こう。

活動

- ① カードを書こう。
- ② クイズ大会を開こう。
- ③ 地図帳の使い方や生かし方について、気がついたことを話し合おう。

●47都道府県のクイズ大会を開こう!

【47都道府県クイズ大会の進め方】

- ① クイズに出す都道府県を選ぶ。
- ② カードの表に、クイズで出す都道府県の形をかく。
- ③ カードのうらに、クイズのヒントを書く。
- ④ カードのうらに、正解の都道府県と位置を表す番号を書く。
- ⑤ クイズ問題を出したり、答えたりする。

カードの表



カードうら

ヒント1 宮島という観光地が知られています。
 ヒント2 名前の中に「島」という漢字があります。
 ヒント3 中国地方にある、瀬戸内海に面した県です。
 正解 名前は、広島県。
 番号は、34番。

① 作ったカード(例)



地図帳にあるいろいろな地図や資料が、カードづくりに生かせそうだね。



(1) 北海道の地図を広げて

この時間の問い
都道府県の位置を調べよう。

- 活動
- ① 地図帳で北海道について調べよう。
 - ② 北海道について、知りたいことや疑問に思っていることを話し合おう。
 - ③ 調べてみたいことから、学習問題をつくろう。
 - ④ 学習問題について予想し、学習計画を話し合おう。

北海道は、まわりが海にかこまれており、日本にある大きな四つの島（北海道・本州・四国・九州）のうちで、一番北にあります。

面積は、およそ 83,500 km²(平方キロメートル)で、本州について、日本で二番目の大きさです。この広さは、日本全体のおよそ5分の1にあたります。しかし、人口は514万人ほどで、日本全体のおよそ20分の1にしかあたりません。

この単元の学び
わたしたちの住んでいる北海道の地形、産業や交通は、どのような様子なのだろう。

【調べること】

- ・北海道の土地利用
- ・北海道の地形
- ・北海道の主な産業
- ・北海道の交通の広がり

【調べ方】

- ・地形図で調べる。
- ・土地利用図で調べる。
- ・主な農産物や工業製品とその産地を資料で調べる。
- ・交通の様子をしめした地図で調べる。



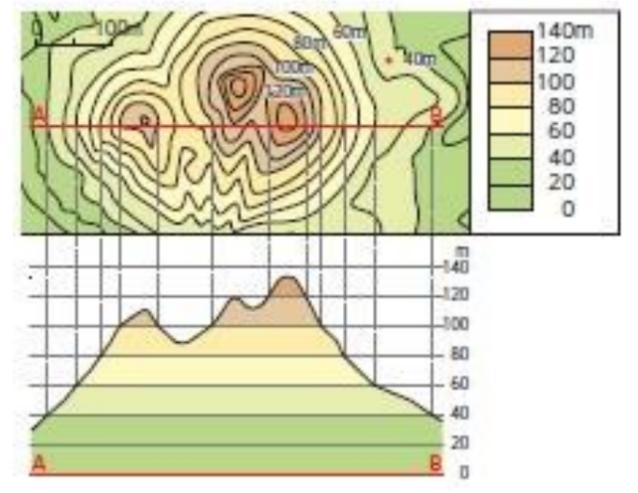
北海道の土地も、上富良野町と同じように、工場や住宅、田や畑など、いろいろなことに利用されているのかな。

この時間の問い
地形図を読み取ろう。

- 活動
- ① 等高線から土地の高さの違いを読み取ろう。
 - ② 北海道の地形図を見て、土地の高さを読み取ろう。
 - ③ 北海道の地形について分かったことを話し合おう。

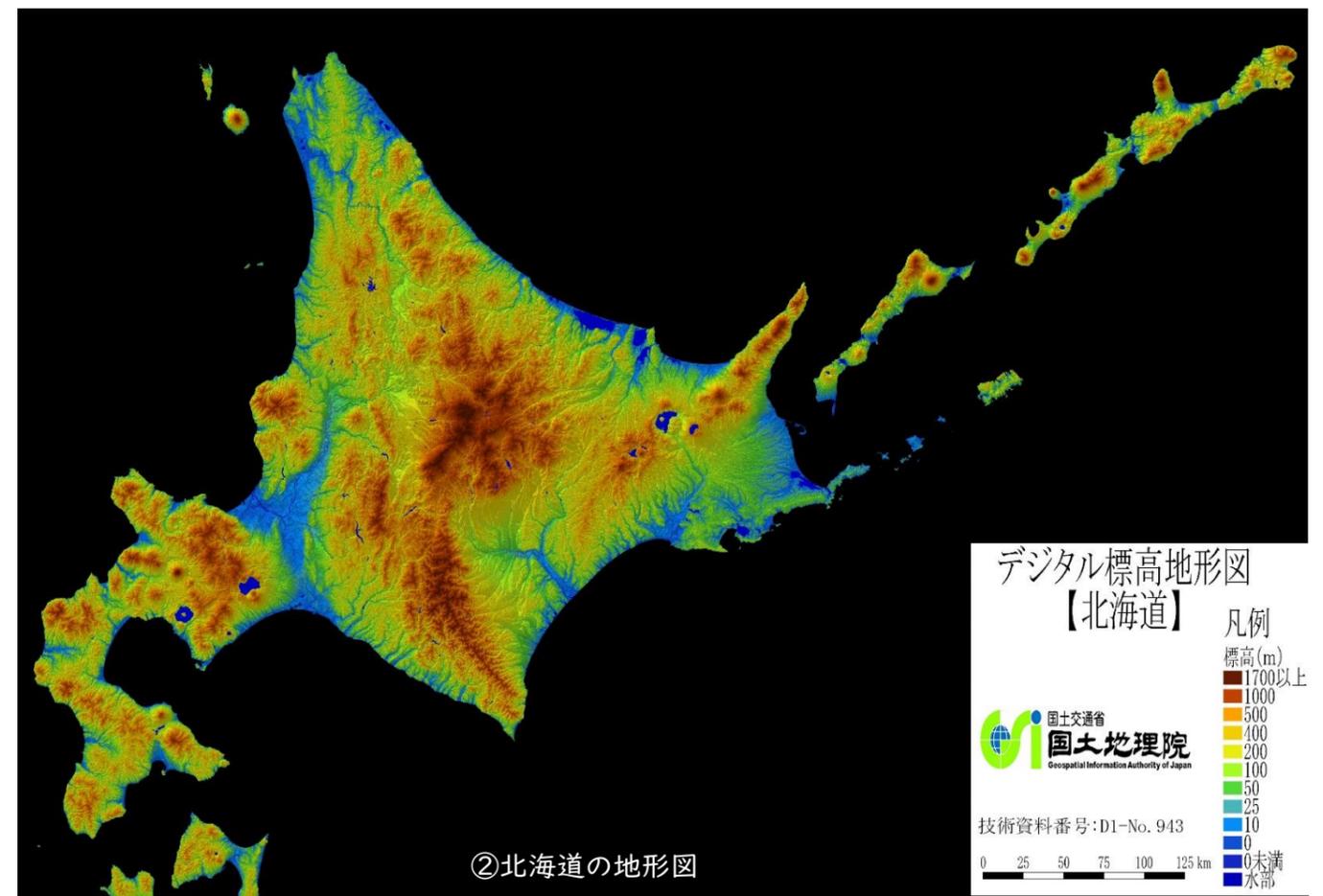
右の図は、同じ高さの土地を線で結んでいます。この線を

とうこうせん
等高線といえます。等高線の間かくがせまいとかたむきは急になり、間かくが広いと、かたむきはゆるやかになります。上の図の地図に書かれた A-B の線にそって切り取った面を横から見ると、図の下ようになります。



① A-B の線にそって切り、横から見た図

下の北海道の図は、土地の高さを色で分けることによって、北海道の地形の様子を表した図です。このような図を地形図ちけいずといえます。



この時間の問い

北海道の土地は、どのように使われているのだろう。

活動

- ① 北海道の地形について調べよう。
- ② 北海道の地形について、気づいたことを話し合おう。
- ③ 土地利用図と地形図を比べて、土地利用と地形との関係について考えよう。

●北海道の土地の使い方

上富良野から東の方に見える十勝岳^{だけ}のある山なみは、石狩山地^{いしかり}とよばれています。このほかの山地を見ると、北海道の中央を北から南へはしる、北見山地^{てしお}・天塩山地^{ゆうばり}・夕張山地と日高山脈があり、せぼねのようになって、北海道を東と西に分けています。北海道の山おくには、自然のままの森林が多く残っています。

高い山から流れ出る水が集まり、大きな川となって、海にそそいでいます。大きな川が流れている所には、平野や盆地が広がっています。北海道には、石狩平野をはじめ、広い平野や盆地・台地があって、

平地にめぐまれてます。

上富良野町は、富良野盆地^{ぼんち}の中にあり、町の中を流れている富良野川は、空知川にそそいでいます。北海道の中を流れている大きな川として、石狩川・天塩川・十勝川などがあります。

石狩川が流れている所には、石狩平野や上川盆地があり、札幌市や旭川市などの大きなまちがあります。天塩川が流れている所には天塩平野があり、十勝川にそそいた所には十勝平野が広がっています。



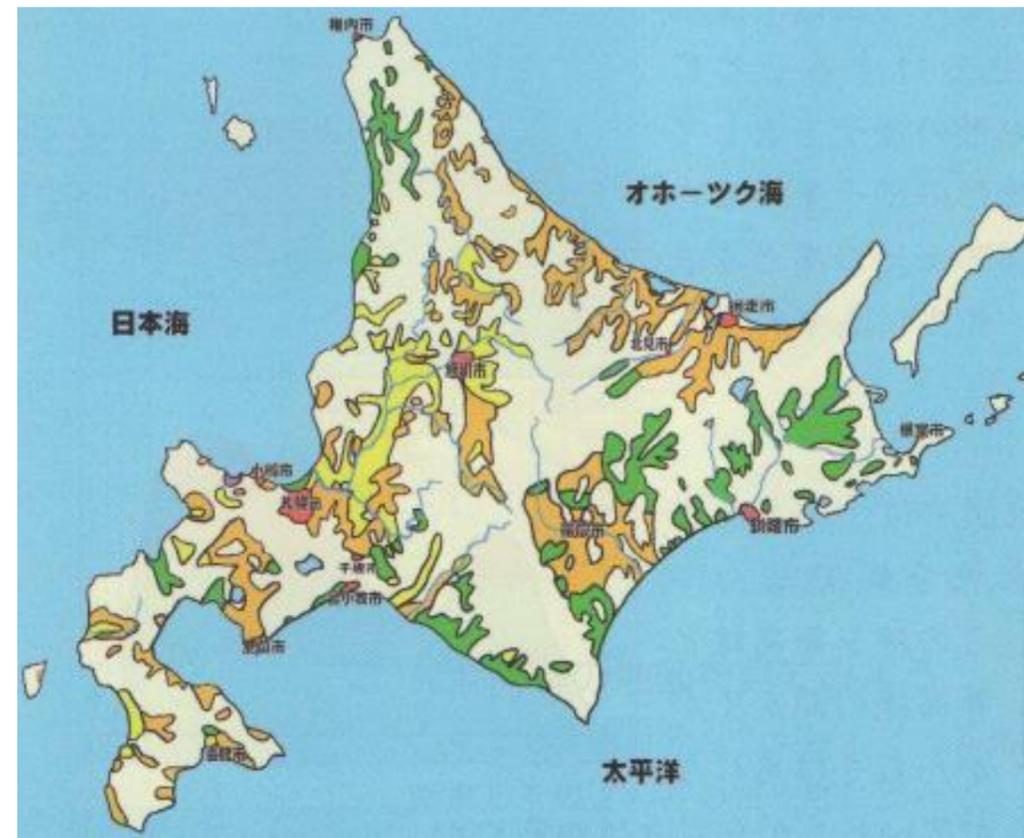
②旭川市



③富良野盆地



①北海道の地形



土地の使い方にちがいがあるのは、なにか理由があるのかな。



	田
	畑
	牧草地
	果樹園
	市街地
	森林・その他

④北海道の土地利用図

この時間の問い

北海道のどこで、農業や漁業がさかんなのだろう。

活動

- ① 北海道のどこで、どのような農作物がつけられているのか調べよう。
- ② 北海道でつくられている、主な農作物を調べよう。
- ③ 北海道のどこの海で、どのような海産物がとれるか調べよう。

●農業がさかんな地いき

北海道は東西南北に大きく広がっていて、地いきによって夏の暑さや冬の雪の量などがちがいます。そのため、それぞれの地域の特色を生かした農業が行われています。

道央地いきでは、石狩川などの豊かな水と夏の暑さを生かし、たくさんのお米が作られています。また、野菜づくりもさかんです。

道東の十勝地方(帯広周辺)、オホーツク地方(北見市・網走市周辺)では、広い土地を生かした大きなきぼの畑作が行われています。小麦や豆、じゃがいもなどが生産される、日本でも代表的な畑作地帯です。

道東の釧路・根室地方や道北の宗谷地方では、夏の気温が低いため、お米や野菜があまり育ちません。そのため、牧草地で牛を飼って牛乳を生産する酪農が行われています。

道南地域では、平らな土地が少なく、やや小さなきぼの農家が多くありますが、暖かい気候にめぐまれ、お米や野菜のほか、りんごなどの果物も作られています。



① てん菜の畑(十勝地方)

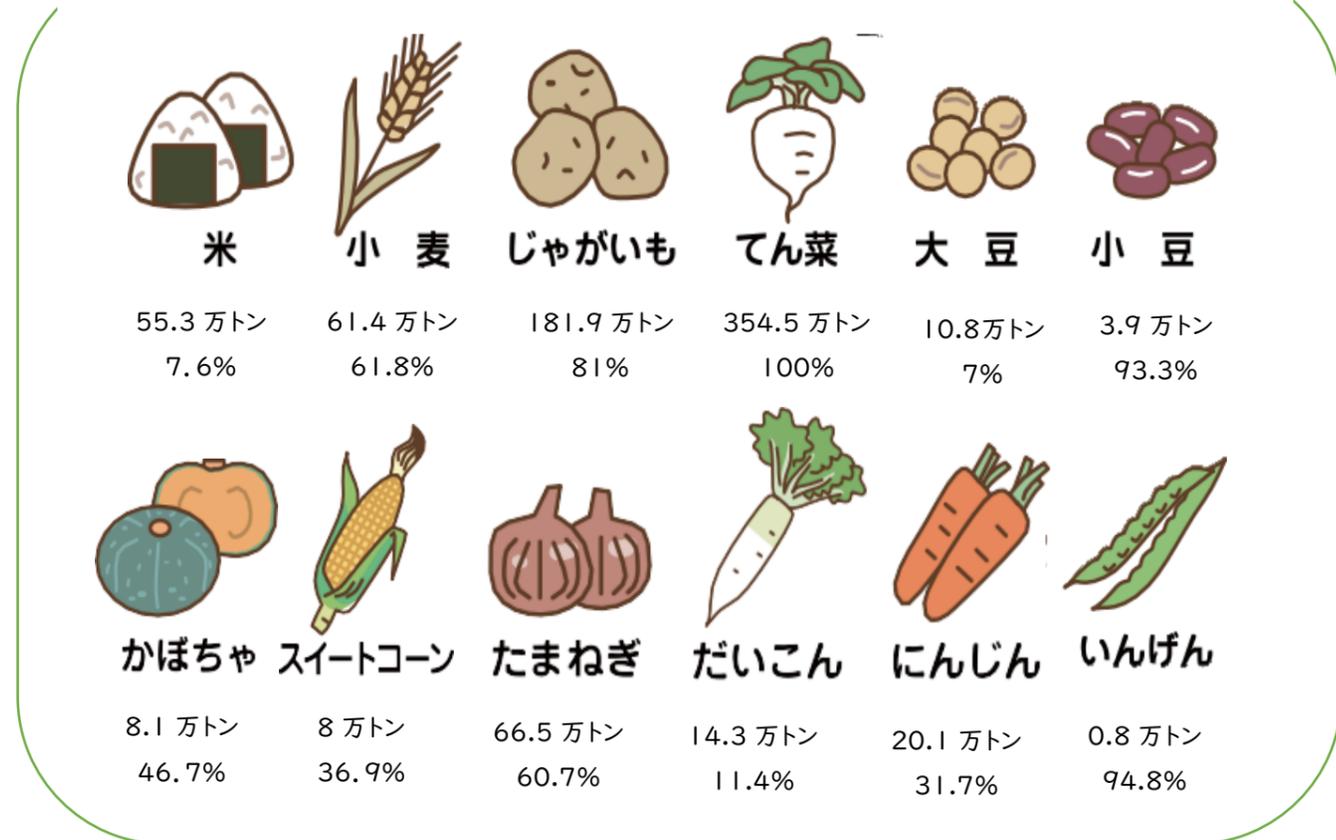


②酪農(宗谷地方)



北海道農政部農政課政策調整グループ作成「教えて!アグリ博士」

生産量が全国トップクラスの北海道の農産物(令和4年)

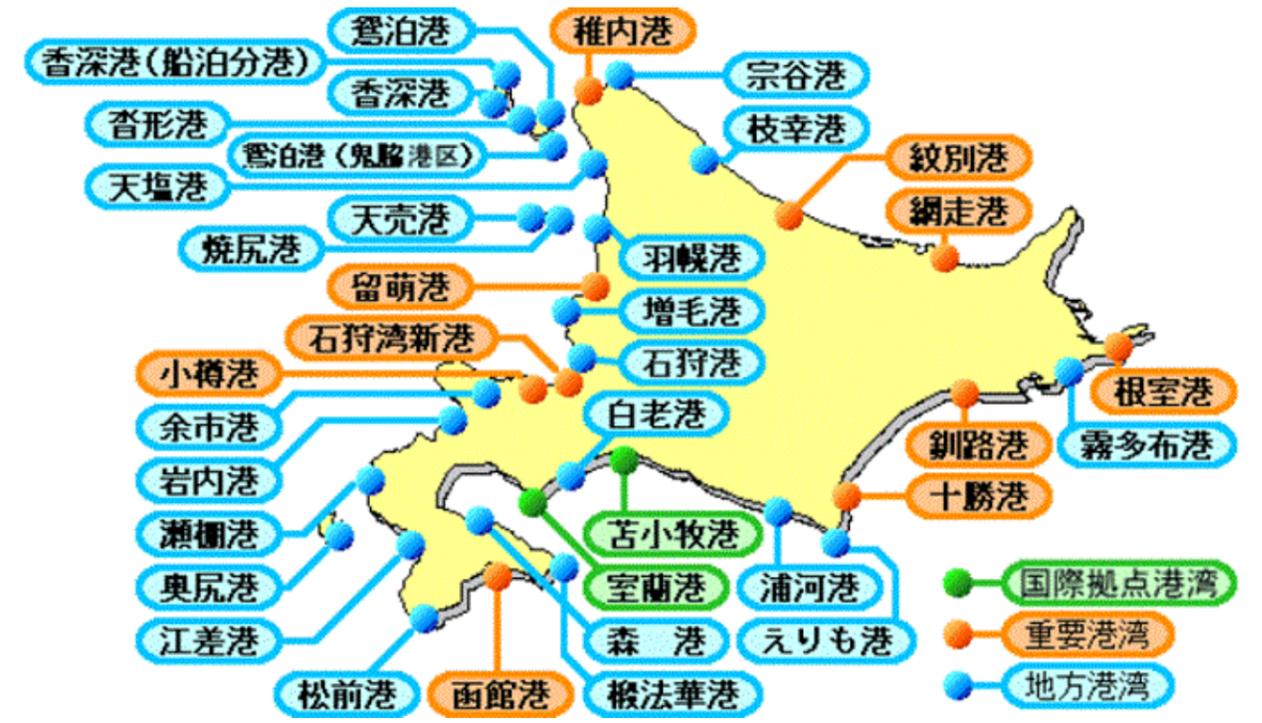


令和4年度北海道農業・農村統計表

●漁業がさかな地いき

北海道は、太平洋、オホーツク海、日本海の3つの豊かな海に囲まれており、たくさん^{めぐ}の水産資源に恵まれています。また、日本の食料生産を支える重要な役割^{にな}を担っています。北海道周辺の海は栄養が多いので、魚のエサとなるプランクトンがたくさん育ちます。また、波が荒く水の流れも速いため、身がしまっていて、おいしい魚がとれるのです。

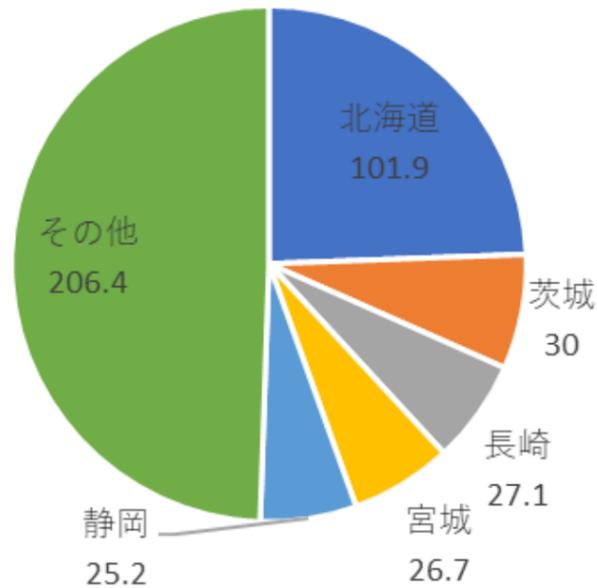
まさに、北海道の自然こそが、おいしい魚をつくりだしています。



③北海道の漁港

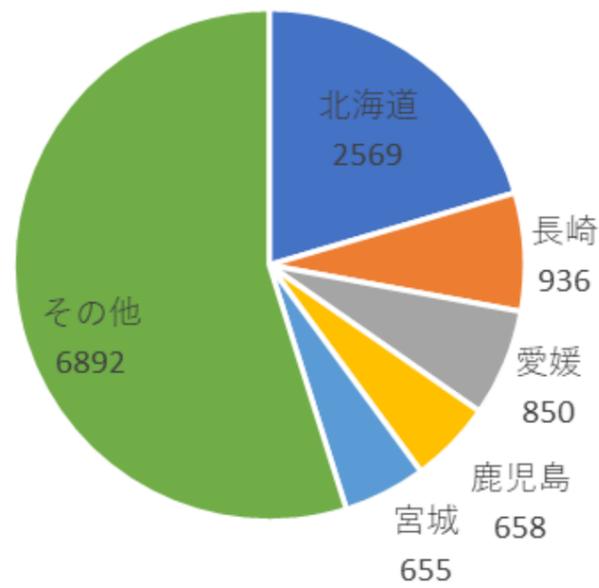
海面漁業・養殖業生産量(都道府県別)

(単位:万トン)



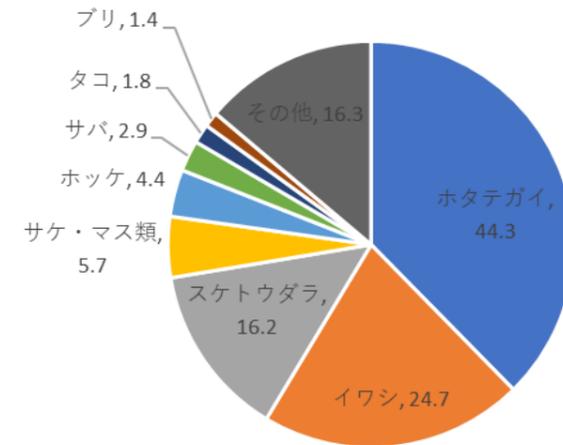
海面漁業・養殖業生産額(都道府県別)

(単位:億円)



農林水産省「令和3年漁業・養殖業生産統計」

魚別生産量(北海道) (単位:万トン)

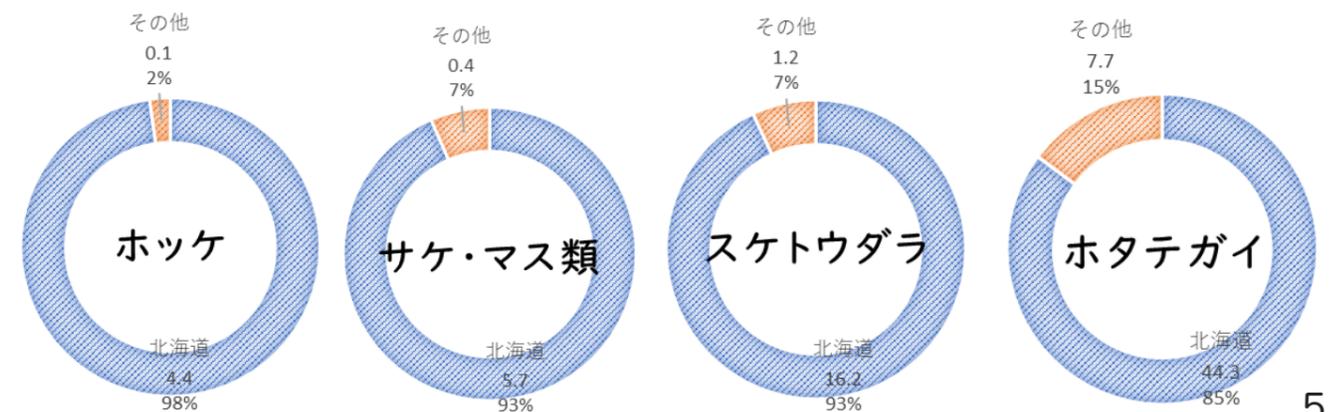


地図やグラフから、北海道の漁業について分かることは何だろう。

北海道で多くとれている魚は何か。



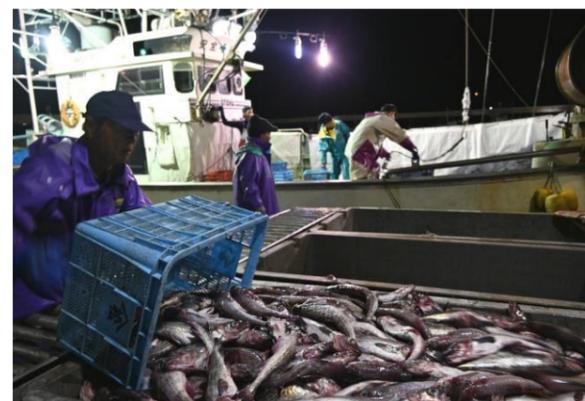
北海道「令和3年北海道水産現勢」



農林水産省「令和3年漁業・養殖業生産統計」



① ホタテガイの水あげ



②スケトウダラの水あげ

この時間の問い

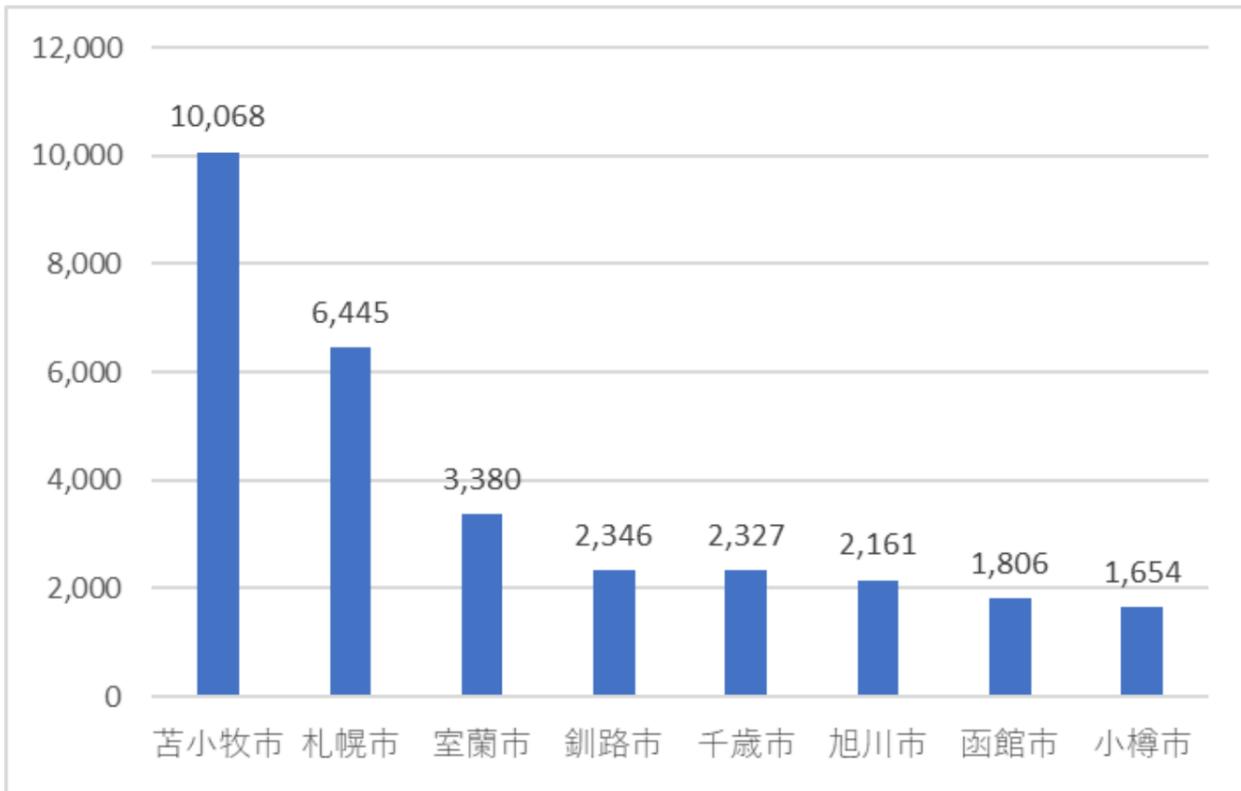
北海道のどこで、どのような工業がさかんなのだろう。

活動

- ① 北海道のどこで、どのような工業がさかんのかを調べよう。
- ② 北海道で作られた工業製品の出荷額を調べよう。
- ③ 工業がさかんな市では、どのような工業製品が作られているかを調べよう。

●工業がさかんな地いき

北海道の工業について、どこで、どのような工業製品せいひんが作られているのかを調べてみましょう。



① 2020年工業生産出荷額(北海道) (単位:億円)

帝国書院 HP

北海道では、道内の産物と結びついた工場が多く、いろいろな工場が道内にちらばっています。

苫小牧市とまこまいでは、紙・パルプ工業のほかにも石油せいせい工場やアルミニウム工場・自動車関連工場などもあります。札幌市は、ビール、にゅうせい品などの食料品や、木材・家具・金ぞく製品などの工業がさかんです。室蘭市むろらんは、よい港を持ち、早くから鉄鋼業てっこうぎょうが行われ造船ぞうせん、セメント、石油化学工場などもあります。釧路市くしろは、水産加工がさかんですし、紙・パルプ工業も発達しています。旭川市は、紙・パルプ、木材・家具工業と、農産品加工業がさかんです。

このほか、千歳市、函館市、小樽市などでもそれぞれの土地の特色をいかした工業がさかんです。



③製紙工場(苫小牧市)



④製鉄所(室蘭市)



⑤水産加工所(釧路市)



⑥木材工場(旭川市)

この時間の問い

北海道の交通は、どのように広がっているのだろうか。

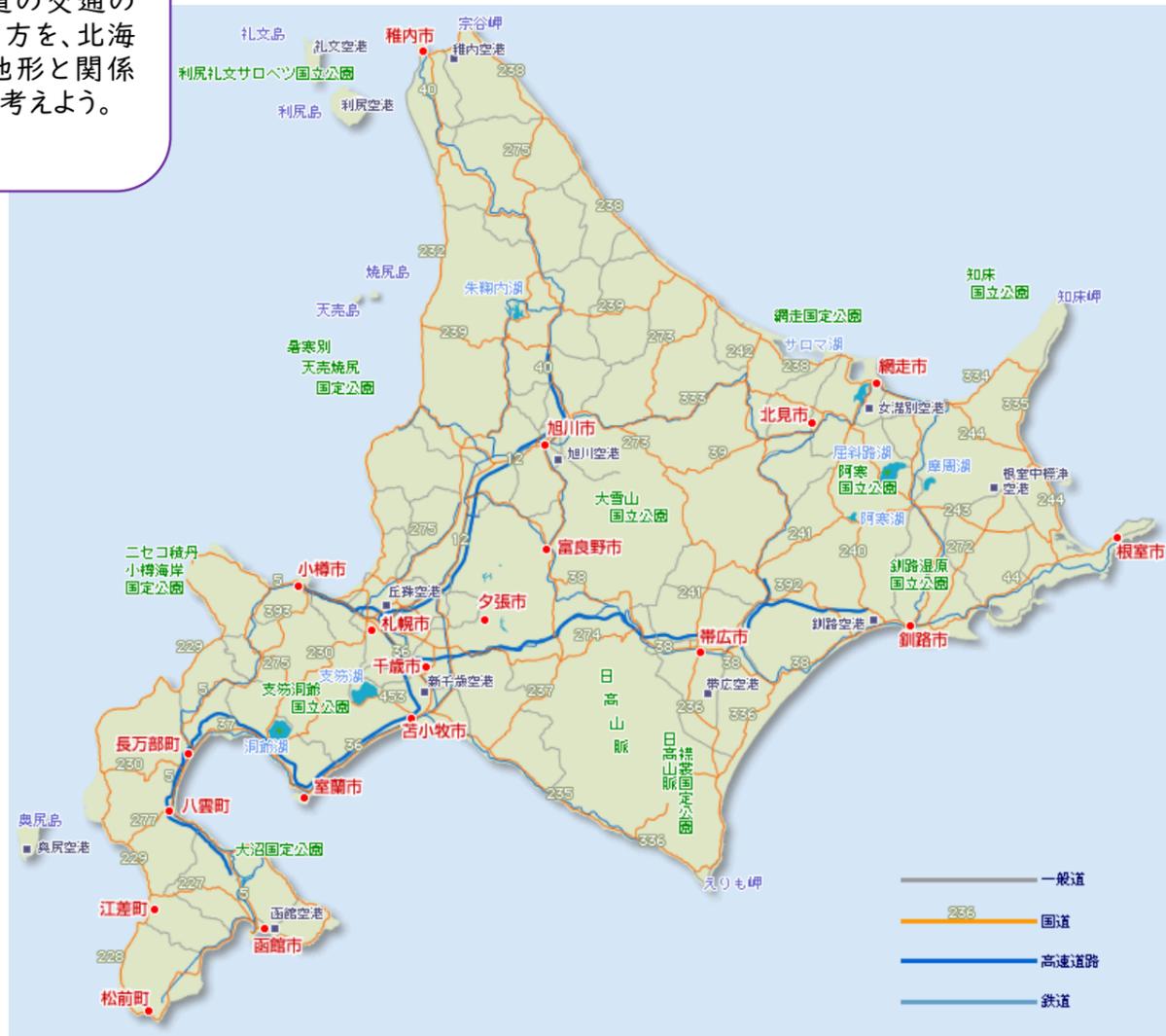
活動

- ① 北海道の道路や鉄道の広がり、空港の位置を地図で調べよう。
- ② 交通は、どのように結ばれているのかを読み取ろう。
- ③ 北海道の交通の広がり方を、北海道の地形と関係づけて考えよう。

●北海道の交通の様子

道内の各地でつくられた農産物や水産物、工業製品などは、トラックや鉄道で、道内のほかの町や道外へ運ばれていきます。

北海道の地図を見ると、鉄道と道路が、海岸にそったり、山地をこえたりして、まるであみの目のように広がり、道内の各地を結んでいることがわかります。



② 北海道の主な交通



JR 北海道 HP

②北海道の路線図



③北海道と青森県を結ぶ北海道新幹線



④新千歳空港



⑤道央自動車道 札幌ジャンクション

この時間の問い

わたしたちのすんでいる北海道の地形、産業や交通は、どのような様子なのだろう。

●北海道の様子について調べたことを整理しよう

これまで調べたこと、予想したこと、調べて分かったことの表を作り、これまでの学習を整理し、学習問題について考えましょう。

活動

- ① これまでの学習を振り返りましょう。
- ② 調べたこと、予想したこと、調べて分かったことに分けた表にまとめよう。
- ③ 学習問題について自分の考えを書こう。

北海道は広いから、地形や土地利用はさまざまだったね。場所によって、どんなちがいがあがあるかな。



石狩川のまわりには、石狩平野が広がり、米をはじめとする農産物が作られているよ。

苫小牧市は工業がさかんだね。近くには、何があるかな。



調べたこと	予想したこと	調べて分かったこと
北海道の地形		
北海道の土地利用		
北海道の主な産業		
北海道の交通の広がり		



学校のそうじでは、毎日たくさんのごみが出ているね。



家では、ごみを分別^{ぶんべつ}しているよ。ごみによってふくろがちがっているね。



学校や家で出たごみは、どこで処理^{しより}されているのかな。



そうじでは、ゆかやつくえをふくためにたくさん水を使っているね。



トイレや手洗い^{あら}のときにも水を使うよ。水はどこからきているのかな。



1日にどのくらいの水を使っているのだろう。

わたしたちは、毎日の生活に^か欠かせないごみの処理や水道について調べてみることにしました。

(1)ごみはどこへ

この時間の問い

わたしたちの家からは、どのようなごみが、どれくらい出ているのだろう。

活動

①家から出たごみを調べた結果について話し合おう。

②ごみの分別のしかたや収集のきまりを調べよう。

③調べてわかったことを話し合おう。

ごみの種類	日にち	日 (日)	日 (月)	日 (火)	日 (水)	日 (木)	日 (金)	日 (土)
もえるごみ								
もえないごみ								
プラスチック類								
生ごみ								
ペットボトル								
かん・びん								
紙パック								
その他								
【気づいたこと】								

●家のごみを調べて

わたしたちは、自分の家から出たごみの種類と量について調べてみることにしました。

生ごみ、もえるごみ、プラスチック類のごみは、毎日出ているね。

ごみの種類によって、ふくろを分けていたよ。何かきまりがあるのかな。

★教科書を参考にして、表にまとめましょう。

わたしたちは、上富良野町の「ごみ分別手引き」や「ごみ収集カレンダー」を見て、ごみの分別のしかたや収集のきまりをたしかめてみました。

かみふるの町 ごみの分別

1. 燃えるごみ
紙類、草・花やくき類、えだ木類、よごれた布類・衣服、紙おむつ、木製品、よごれた容器プラスチック類…など

2. 燃えないごみ
金属類、ガラス・コップ・お茶わん、ゴム製品、革製品、プラスチック類、スプレー缶…など

3. 容器包装プラスチック類(資源ごみ)
商品が包んでいたプラスチック類、お菓子のふくろ、かんしょう材、プラマークがついているものが対象

4. 空きびん・空き缶(資源ごみ)
食べものや飲みものが入っていた缶・びん、化粧品のびんなども対象

5. ペットボトル(資源ごみ)
ペットボトルのマークが入っているボトル

6. 紙類(資源ごみ)
新聞紙、段ボール、雑誌類、紙パック、牛乳・ジュースなどマークがあるもの

7. 生ごみ(資源ごみ)
家庭の台所から出る「口に入るもの」が対象。草・花などは「燃えるごみ」

8. 乾電池、LED照明、電球
じゃうでん式乾電池以外のもの、体温計も対象

9. 粗大ごみ
指定ふくろに入らない大きなごみ
ソファ、タンス、じてんしゃなど

10. 小がた電子機器(資源ごみ)
家電リサイクル対象品(テレビ、冷蔵庫、洗濯機、かんそう機、エアコン)以外のもので、指定ふくろに入る大きさのもの

回収できるもの・・・けいたい電話、パソコン、電話機、電子レンジ、CD・DVDプレイヤー、ゲーム機(ゲームソフトは「燃えないごみ」)…など

回収できないもの・・・ビデオテープ、CD・DVDなどの記録するもの、充電式電池、家電リサイクル対象品、危険物が入っているもの…など

11. 布類(資源ごみ)
布製品や汚れていない服などが対象。
回収できるもの・・・Tシャツや洋服などの衣類、タオル類、ふとんカバー、シーツ、マフラー、ぼうし、てぶくろ、Gパン…など

回収できないもの・・・ふとん、ベットマット、カーテン、じゅうたん、玄関マット、ぬれていたり、汚れている服類…など

12. 料理食用油(資源ごみ)
家庭で食用に使った油(サラダ油、ごま油、オリーブオイルなどの食用油)
機械油や動物性油(バター、ラードなど)、ドレッシングなど油以外のものが混ざっているものは、回収できません。

地球のために正しい分別

↑① 上富良野町のごみの分別のしかた

※上富良野町公式ホームページ参照

上富良野町では、ごみをいくつかの種類に分けて収集しているんだね。

収集に出せる日や収集する回数は、ごみの種類によって決まっているようだよ。

ごみの分別や収集にはたくさんのきまりがあるんだね。でも、どうしてだろう。

ごみ分別の手引きやごみ収集カレンダーを見て、たくさんのことに気づいたり、疑問が出てきたりしました。

●学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう

わたしたちは、自分たちのくらしから出るごみについて、疑問に思ったことや知りた
 いと思ったことについて、話し合いました。



ごみを分別したり、収集に出すときのきまりがあったりする
 のはどうしてかな。

学校でも家でも、たくさんのごみが出ていたよ。毎日出
 るごみを、だれがどうやって処理しているのだろう。



分別されたごみが、それぞれどこへ運ばれるのか、くわし
 く知りたいな。

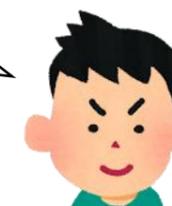
みんなから出た疑問を一つの文に表して、クラスの学習問題をつくりました。

この単元の学び

わたしたちのくらしから出たごみは、どのようにして集められ、処理さ
 れるのだろう。

学習問題について予想したあとで、調べることと調べ方について話し合いました。

収集に出したあとのごみのゆくえを追っていくと、処理のし
 かたについてわかるかもしれないよ。



ごみを分別するのは、収集したあとの処理のしかたが
 ごみの種類によってちがうからではないかな。

調べること

- ①ごみを収集する様子
- ②ごみを分別したり、収集に出す
 ときにきまりがあったりするわけ
- ③ごみを処理するしせつの役割
 と処理のしかた

調べ方

- ①収集の様子を観察する。
- ②ごみの処理にかかわる仕事を
 している人から話をきく。
- ③ごみを処理するしせつを訪問
 して、処理のしかたを見学する。

わたしたちは、最初に何を調べたらよいかについて、それぞれの考えを話し合いま
 した。



まず、ごみを集める場所へ行って、どのように収集している
 のか見に行ってみようよ。



集めたごみをどこへ運んでいるのか、知りたいな。



↑① ごみ収集の様子



↑② ごみを収集する場所にはられた看板

この時間の問い

わたしたちが出したごみは、どのようにして集められ、運ばれるのだろう。

活動

- ①ごみの収集の様子を観察して、収集のくふうを調べよう。
- ②ごみの収集のしかたが、今と昔とでどのようにちがうか、調べよう。
- ③ごみを分別して収集している理由を考えよう。

●ごみの収集の様子を調べよう

わたしたちは、ごみ収集の様子を観察することにしました。上富良野町では、家から出たごみは分別し、町が指定するふくろに入れて、決められた曜日にごみ集積所に出すことになっています。



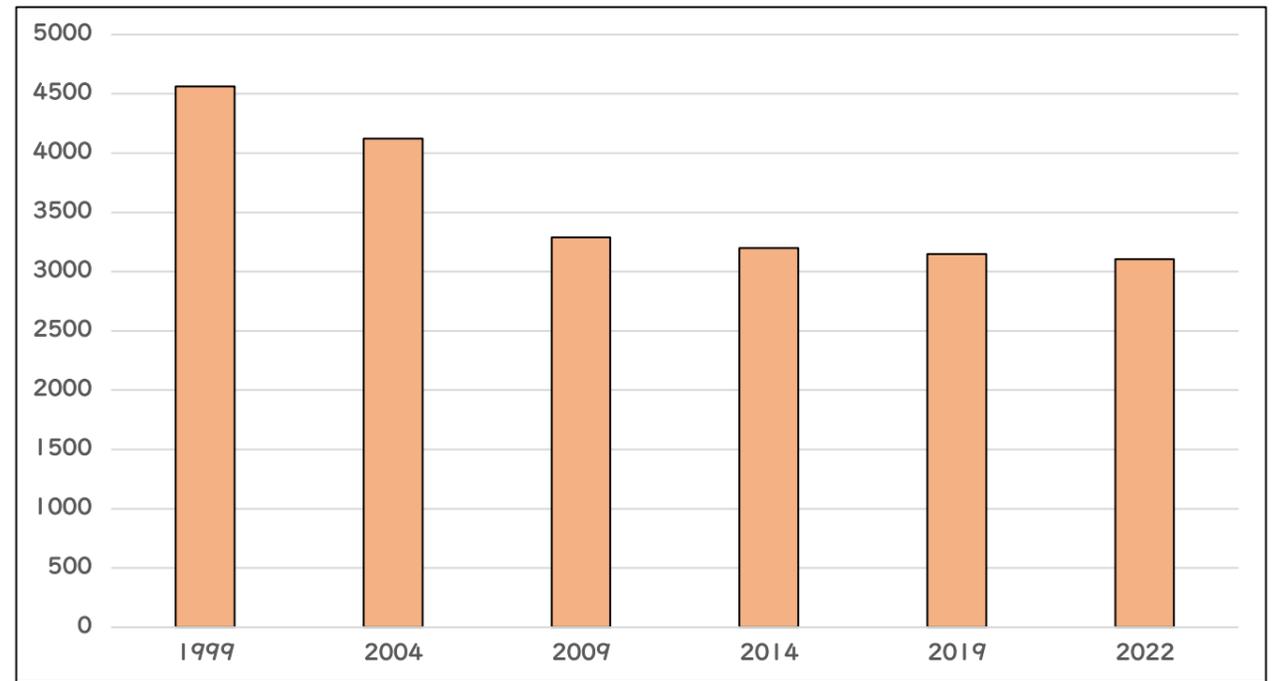
係の人がごみの入ったふくろを収集車にすばやく投げ入れているよ。

町内のあちこちで毎日出されるごみをできるだけ早く、たくさん収集するために、とにかくふうをしているのかな。

★教科書を参考にし、昔のごみの処理のしかたをたしかめましょう。



↑③ 上富良野町の指定のごみぶくろ



↑④ 上富良野町のごみの量の变化(t)

わたしたちは、ごみの収集のしかたや収集したごみのゆくえなどを、町の係の人にたずねました。

役場の町民生活課生活環境班の濱村さんの話

上富良野町では、ごみを回収する会社に依頼をしてごみの収集を行っています。収集車を使い、決められた順番に町内に設置されたごみ集積所をまわって収集しています。また、粗大ごみや乾電池、小型電子機器などのごみは、ごみを出す人が直接決まった場所に持っていく回収方法をとっています。

上富良野町は、ごみの種類によって処理のしかたや運ばれる場所がちがうため、分別してごみを収集しています。収集後は、ほとんどのごみが上富良野町クリーンセンターに運ばれます。

わたしたちは、ごみの種類によって、収集のしかたや処理のしかたがちがうわけを、知りたくなりました。



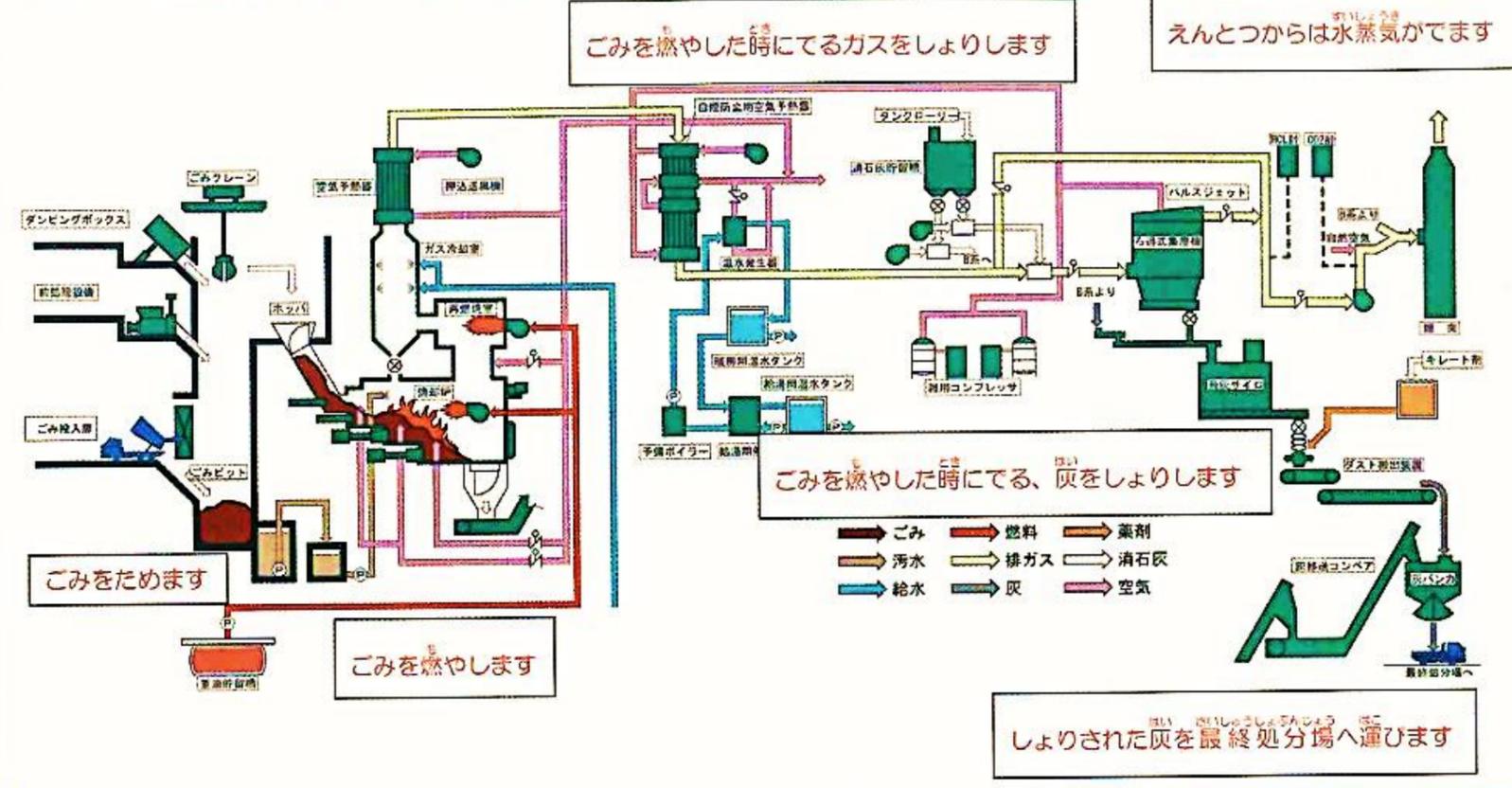
↑① クリーンセンター



↑② 作業の様子をかくにんするモニター↓



グリーンセンター 燃えるごみのしくみ



↑④ クレーンでごみを運ぶ



↑⑤ たまったもえるごみ

↑③ もえるごみを処理するしくみ

もえるごみの処理のしかたや、取り組んでいるくふうについて、役場の係の人にたずねました。

役場の町民生活課生活環境班の濱村さんの話

ごみをもやして灰にすることで、ごみの容量がへり、処理しやすくなります。

ごみをもやしたときに出たガスは、有害物質を機械で取り除いてから外に出しています。また、有毒ガスが出ないように、もやすときの温度の管理にも注意を払っています。ごみをもやして出た灰は、施設内にある最終処分場に運びます。



↑⑥ 高温でごみをもやす



↑⑦ ごみをもやしたあとの灰を運び出す

●グリーンセンターを見学しよう

この時間の問い

もえるごみは、どのように処理されているのだろう。

- 活動**
- ① クリーンセンターを見学する計画を立てよう。
 - ② もえるごみを処理する様子を調べよう。
 - ③ クリーンセンターで行われているくふうを調べよう。

わたしたちは、もえるごみの処理のしかたを調べるために、上富良野町グリーンセンターの施設を見学することにしました。



- 町内で集めたたくさんのごみを、グリーンセンターではどうやって処理するのかな。
- 収集車から出されたもえるごみは、ピットに落とされ、クレーンで運ばれるよ。
- ごみをもやして処理するのは、なぜだろう。



↑① 最終処分場の全体



↑② もやしたごみの灰



↑④ ごみから出た水をきれいにする施設



↑⑤ ごみから出た水をためる場所

この時間の問い

もやしたごみの灰は、どのようにして処理されるのだろう。

活動

- ①もやしたごみの灰のゆくえを調べよう。
- ②最終処分場の取り組みやくふうを調べよう。
- ③最終処分場がかかえる問題について話し合おう。

↓③ 集められたもえないごみ



●もやしたごみの灰のゆくえ

わたしたちは、クリーンセンターでもやしたごみの灰が運ばれる最終処分場について、係の人に話を聞きました。

役場の町民生活課生活環境班の濱村さんの話

最終処分場には、もやしたごみの灰と、もえないごみが運ばれます。灰も、もえないごみも、処分場内にうめて処理しますが、ごみからにおいがでないように薬で処理してからうめ立てをします。

うめた後、ごみから出る水で土や地下水が汚れないように、処分場の地中にシートをはっています。また、ごみから出た水は、クリーンセンター内にある水処理施設できれいにして、近くの川に流しているんですよ。

ごみをもやして灰にしてから処理することで、処分場にうめる量もへります。しかし、うめたてを続けると、いつかは処分場がいっぱいになってしまいます。そのため、うめなくていいごみは、べつの方法で処理していくことが大切です。



最終処分場も、環境のことを考えた取り組みをしているよ。



ごみから出る水も、きれいに処理しているなんておどろきだね。



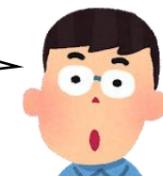
でも、このままうめたてを続けていくと、いつか処分場はいっぱいになってしまうそうだよ。

わたしたちは、最終処分場がいっぱいになるとどのような問題が起きるのか、話し合いました。

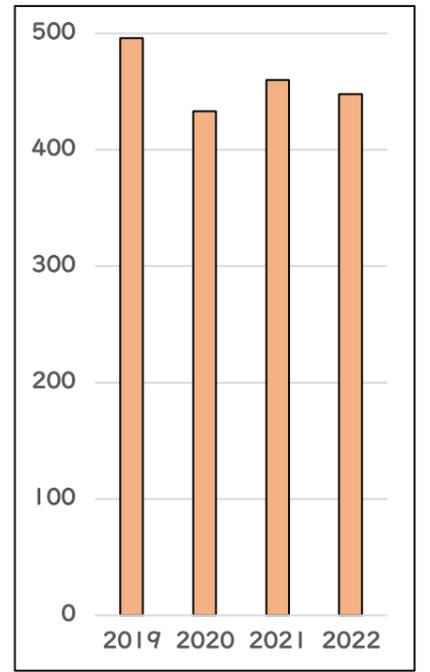


新しい処分場が必要になったら、どこにつくるかという問題があるよ。

処分場をつくるには費用もかかるよ。その費用をどうするのかも問題だよ。



ごみをもやしたり、うめたりして処理するだけでなく、ほかの処理のしかたが大切になってくるね。



↑⑥ 最終処分場でうめられたごみの量の変化(t)

まとめる

この単元の学び

わたしたちのくらしから出たごみは、どのようにして集められ、処理されるのだろう。

活動

- ①ごみ処理のしくみをふり返って話し合おう。
- ②話し合いをもとに、ごみ処理のしくみを図に表そう。
- ③ごみ処理にかかわるこれからの問題を話し合おう。

★教科書を参考にして、ごみ処理のしくみを図に表しましょう。

●ごみが処理されるまでを整理しよう

わたしたちは、調べてきたごみ処理のしくみをふり返りながら、話し合いました。



ごみの種類によって、運ばれるしせつや処理のしかたはちがっていたね。

近くの市や町と協力して、ごみの処理を行っていたね。



もやしたごみの灰やもえないごみは、最終処分場に運ばれて、うめられて処理されていたね。

資源ごみは、ていねいに分別した後にそれぞれの施設に運ばれ、製品や原料に生まれかわるよ。



話し合いをもとに、収集されたごみが、どこで、どのように処理されているのかを、図に表しました。



図に表すと、ごみがどこで、どのように処理されているのかが、よくわかるね。

わたしたちは、「この単元の学び」について考えたことをノートに書いたあとで、気になったことをさらに話し合いました。



今のままごみを出し続けたら、最終処分場がいっぱいになったり、お金もたくさんかかったりする問題があるよ。

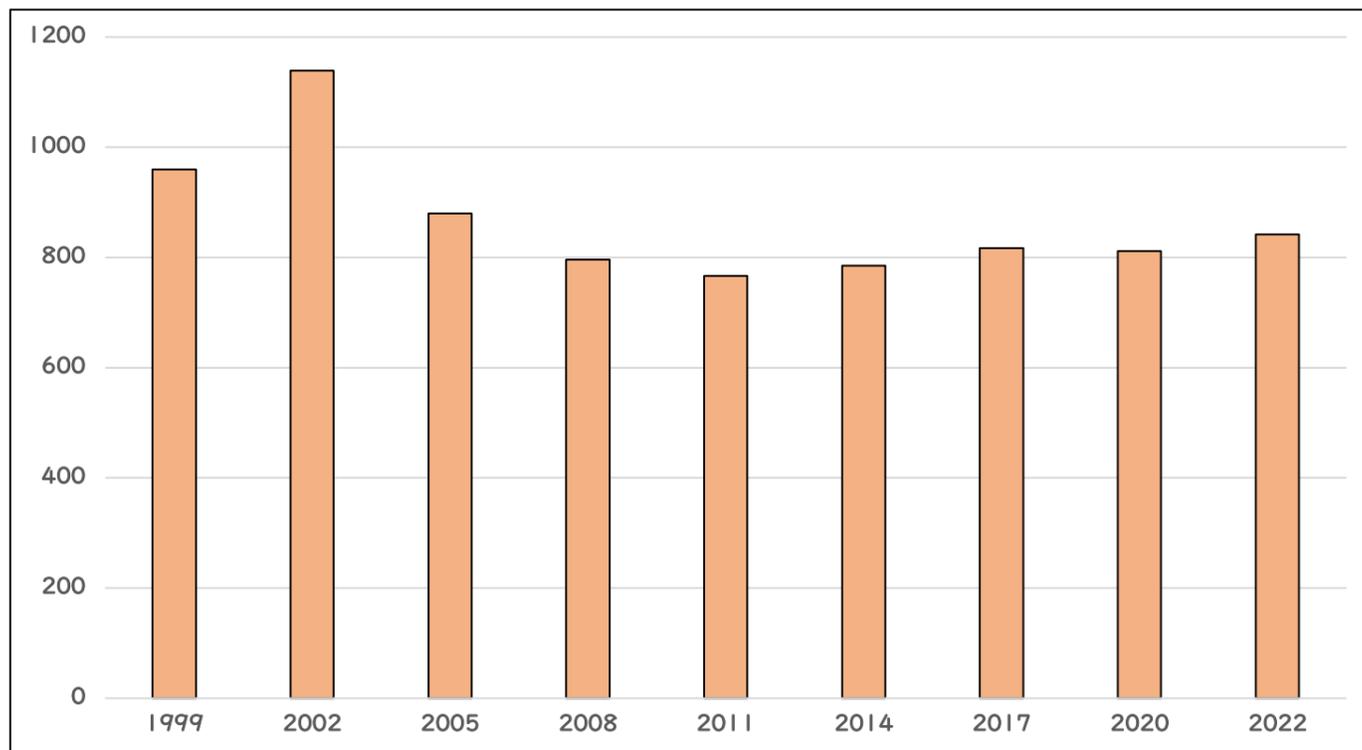


次は、ごみの処理のこれからの問題について、みんなと調べてみたいな。

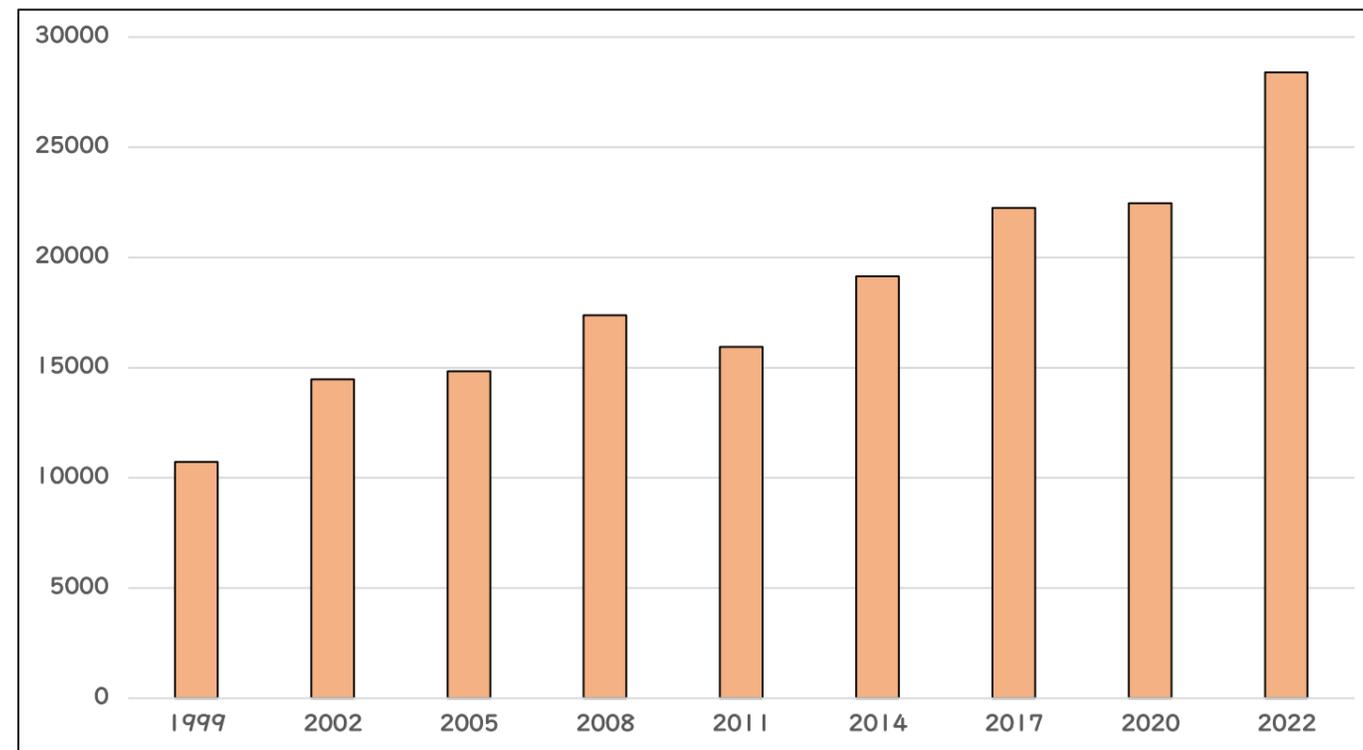
わたしたちは、話し合いながら、新しい学習問題をつくりました。

この単元の新たな学び

わたしたちは、くらしから出たごみを、どのように処理していけばいいだろう。



↑① 町民一人当たりが1年間に出すごみの量(t)



↑② 町民一人当たりのごみの処理にかかる費用(円)

●ごみの問題と向き合って

この時間の問い

ごみの量や処理にかかる費用は、どのように変わってきたのだろう。

わたしたちは、町のごみの^{りょう}量と、ごみの^{しょり}処理にかかる^{ひよう}費用の変化をグラフから読み取りました。

活 動

- ①町のごみの量とごみ処理にかかる費用の変化について調べよう。
- ②ごみの量やごみ処理にかかる費用がふえたわけを考えよう。
- ③ごみの処理のしかたが、どのように変わってきたのか調べよう。



ごみの量はへっているけど、ごみの処理にかかる費用はふえているね。



昔は、ごみの量も処理にかかる費用も少ないね。どんなふうにごみを処理していたのかな。

役場の町民生活課生活環境班の濱村さんの話

昔は、ごみがたまと、家のまわりでもやしたり、あなをほってうめたり、川に流したりしていました。しかし、いやなにおいがしたり、火のついた紙がとんだり、川がよごれたりなどの問題が出てきました。また、人々の生活が^{ゆた}豊かになると、ごみの量や^{しゅるい}種類も多くなりました。

そこで町は、きれいな町づくりのために、^{しゅうしゅう}収集車をつかってごみを集めるようになり、集めたごみを上富良野クリーンセンターなどの^{しせつ}処理施設に運び、^{えいせい}安全で衛生的な方法で処理するしくみをつくりました。



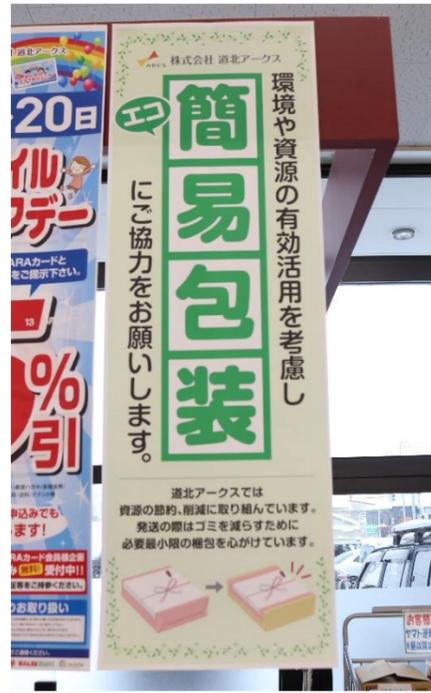
ごみの量や種類がふえていったから、処理のしかたも^か変わっていったんだね。



地域の人々が、^{けんこう}健康で衛生的な生活を送れるように、ごみの処理のしくみがつくられていったんだね。



↑① スーパーマーケットの入り口にある資源ごみの回収箱



↑② 簡易包装をよびかけるポスター



↑④ 無料で提供している子ども服などの育児用品 ↓

この時間の問い

地域の人々は、ごみをへらすためにどのようなことに取り組んでいるのだろうか。

活動

- ① 地域が行っている、ごみをへらすための取り組みを調べよう。
- ② 取り組みを調べて、わかったことや気づいたことを話し合おう。



↑③ 無料で提供しているダンボール

●地域の人の取り組み

わたしたちは、地域の人々がごみをへらすためにどのような取り組みを行っているのか調べてみました。



スーパーマーケットの入り口に、資源ごみを回収する箱が置いてあるよ。

スーパーチェーンふじ上富良野店 店長の朝倉さんの話

店の入り口に、牛乳パックや食品トレーを回収する箱を置いて、リサイクルに協力しています。町で決められた回収日、時間、場所以外でも集めることができます。また、レジ袋を使わずに、ダンボールを無料で提供したり、商品を包装するときに必要最小限の梱包にする「簡易包装」をよびかけたりしています。



町の社会教育総合センターで、子ども服がたくさん置いてある場所を見つけたよ。

子どもセンターで働く人の話

子どもセンターでは、子ども服のリサイクル事業を行っています。着なくなった子ども服を集め、ほしい方に無料で提供しています。服がむだにならず、ごみをへらすことにもつながります。よろこんで利用してくださる町民の方がたくさんいますよ。



地域の人たちが、協力しあって、ごみをへらそうとしているんだね。わたしたちには、何ができるだろう。



↓⑤ 提供したい人が記入する用紙
育児用品リサイクル « 提供・持ち帰り »

★提供が持ち帰りか、いずれかに○をつけて、下欄に記入のうえ、箱に投函願います。

年月日	年月日
利用者氏名	
住所	上富良野町
連絡先(電話番号)	
内容	

まとめる

●ごみの問題について話し合おう

わたしたちは、これまでの学習をふり返り、「この単元の新たな学び」について考えたことを話し合いました。

この単元の新たな学び

わたしたちは、くらしから出たごみを、どのように処理していけばよいだろう。



わたしたちが気持ちよく生活できるのは、多くの人たちが、ごみを処理するために働いてくれているおかげだね。

★教科書を参考にして、これからの地域のごみについて話し合きましょう。

つなげる

わたしたちは、さらに、ごみをへらすための取り組みや処理のくふうについて学び、これから自分たちにできることを考えました。



ごみの種類ごとにふくろを分けて、しっかり分別してからごみを出したいです。なぜなら…



わたしは、使えるものはなるべく長く使って、ごみを出さないようにしたいです。それは…

★教科書を参考にして、自分の考えをノートにまとめ、話し合しましょう。

(2) 水はどこから

この時間の問い

わたしたちはくらしの中で、どのようなことに、どれくらいの水を使っているのだろう。

★教科書を参考にして、調べたことをまとめましょう。

活動

- ①自分たちが1日に、どこで、どれくらいの量の水を使っているかを調べよう。
- ②家や学校で使われる水の量や、自分たちの水の使い方について、気づいたことを話し合おう。
- ③話し合ったことをもとに、水について、気になったことや疑問に思ったことを発表しよう。

●1日に使う水の量を調べよう

わたしたちは、自分たちのくらしの中で、どのようなことに、どれくらいの量の水が使われているのか調べて、気づいたことを話し合いました。



わたしの家だけで、1日に400Lの水が使われているのがわかったよ。



お風呂に入ったり、せんたくをしたりするときに、たくさんの水を使うんだね。



家よりもおおぜいの人がいる学校では、もっとたくさん水を使っているよ。

わたしたちは、学校で使われる水の量を知りたくなりました。

そこで、学校の先生に、学校の水道の使用量をしめした検針票を見せてもらいました。



↑① 生活のさまざまな場所で使われる水

上下水道使用量のお知らせ

小学校様

管理番号	水道用途	
00018-00012-00020	団体用	
メーター番号	口径	下水道用途
042200016051	75	一般用

令和5年8月請求分

合計金額	19,167 円
水道料金	9,842 円
下水道使用料	9,325 円
今回使用水量	50 m ³
(下水道使用量)	50 m ³
今回指針	1,089 m ³
前回指針	1,039 m ³
旧メーター使用量	m ³

合計金額は、実際の請求額とは異なる場合がございます。

↑② 学校で使われた水の量がしめされた検針票

※50m³=50000L



学校には、おおぜいの人がいるから、家よりもずっと多くの水が使われているね。



トイレやそうじ、給食など、学校でも、いろいろなことに水を使っているよね。

わたしたちは、家でも学校でも、さまざまな場面で、水が使われていることに気づきました。



みんなが、これだけたくさん使っているのに、水がなくならないのはどうしてだろう。

●学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう

わたしたちは、自分たちがくらしの中で使う水について、疑問に思ったことや知りたいと思ったことを、話し合いました。



家でも学校でも、たくさんの水を使うことができるのは、どうしてだろう。

わたしたちがいつも飲んでいる水は、どこから送られてくるのかな。



じゃ口をひねったら、いつでも水が出てくるのは、どうしてだろう。

わたしたちが使う水は、飲むことができるきれいな水だね。どうやって、きれいな水にしているのかな。



わたしたちは、みんなで話し合った疑問を、クラスみんなで考えていく学習問題にするために、一つの文に表しました。

たんげん
この単元の学び

わたしたちがくらしの中で使っている水は、どのように送られてくるだろう。

わたしたちは、みんなでつくった学習問題について、一人一人が予想したことを発表しました。そして、みんなの予想をもとに、学習計画を立てました。



わたしたちが使っている水は、水道水といわれているよ。水が送られてくる水道管をたどっていくと何かわかるかもしれないね。



ごみの処理と同じように、水もいろいろな施設を通して、送られているのではないかな。



生活に欠かせない水がなくなることはないように、何かくふうをしているのかな。

調べること

- ① 水道管をたどると、どこへつながるのか。
- ② 水道水は、どうやってつくられているのか。
- ③ 水がなくならないようにするためのくふう。

調べ方

- ① 資料や地図帳で調べる。
- ② 水道水をつくるしせつを見学する。
- ③ 水道水をつくるしせつの方から話をきく。

この時間の問い

わたしたちが使う水は、どこから送られてくるのだろう。

●水はどこから流れてくるのか

わたしたちが、学校や家の水道管^{すいどうかん}をたどると、水道管は

浄水場^{じょうすいじょう}という所につながっていることがわかりました。



わたしたちが使っている水は、それぞれの浄水場から流れてきているみたいだね。

わたしたちは、水が通ってくるしせつや場所を調べながら、水源までたどることにしました。

活動

- ①水道管をたどると、どこへつながるのかを調べよう。
- ②水道にかかわるしせつがどこにあるか、地図で調べよう。
- ③調べたことをまとめていく方法について考えよう。



これからの学習で、調べてわかったことをカードに書いていこう。



★教科書を参考^{さんこう}にして、カードの書き方をたしかめましょう。

上富良野町には、たくさんの浄水場があるんだね。



浄水場の近くに川がない場所もあるね。水源^{すいげん}はどこにあるんだろう。



↑① 上富良野町にある浄水場



↑① 浄水場



↑② 浄水場へ流れてきた水

この時間の問い

浄水場は、どのようなはたらきしているのだろう。

活動

- ① 浄水場の様子やしぐみを調べよう。
- ② 浄水場ではたらく人の仕事を調べよう。
- ③ 調べてわかったことをカードに書こう。

● 浄水場を見学しよう

わたしたちは、浄水場をたずねて、係の人に質問しました。



浄水場は、何をするとところですか。浄水場のはたらきについて、教えてください。



浄水場は、くみ取った水をきれいにして、飲むことのできる水道水にする施設です。

わたしたちは、係の人から、上富良野町の浄水場について、くわしく説明してもらいました。そして、さらに知りたいことを質問しました。



↑③ 水の安全をたしかめる機械

役場の建設水道課上下水道班の岡さんの話

上富良野町の水道の原水は、ほとんどがわき水です。上富良野町は、周りが山にかこまれた盆地なので、ふった雨が山の地表にしみこみ、それがわき水としてあふれ出ています。とてもきれいなわき水なので、かんたんなしよりで水道水として利用できます。

自然的なサイクルなので、雨や雪がふっているかぎり、水がなくなることはないと考えています。しかし、大きな地震や噴火によって山がくずれ、わき水の量が少なくなったり、水質が悪くなったりする可能性がないわけではありません。そのような緊急時に、水が送れるようなくみも考えています。



わたしたちが飲んでいる水は、わき水だったんだね。



上富良野町の浄水場では、1日にどれくらいの量の水を送り出しているのですか。



1日に200万L以上の水を、送り出しています。



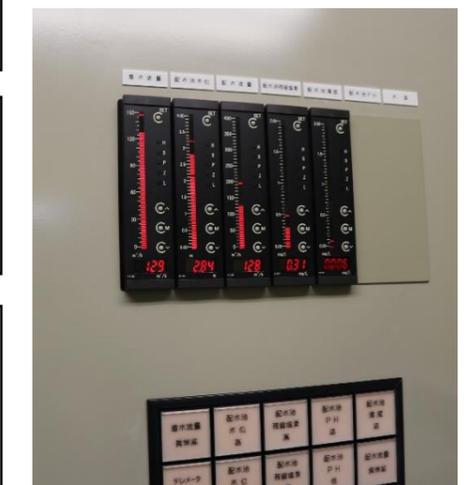
浄水場から送り出している水が安全かどうかは、どうやってたしかめているのですか。



浄水場のとりにある配水池から、24時間365日機械をつかって水の安全をたしかめています。



↑④ 水の安全をたしかめる機械 ↓



わたしたちは、調べてわかったことをカードに書きました。

★教科書を参考にし、わかったことをカードに書きましょう。

この時間の問い

水道管は、だれが、どのようにして守っているのだろう。

活動

- ① 水道管のはたらきを考えよう。
- ② 水道管を守るための取り組みについて調べよう。
- ③ 水道の広がり、人々の生活に果たした役割について考えよう。

●^{すいどうかん}水道管を守る人々

わたしたちは、^{じょうすいじょう}浄水場から学校や家などに水を送る水道について調べました。



水道水は、水道管を通して送られているよ。水道管があるから、わたしたちはいつでも水が使えるのではないかな。



水道管は、ほとんどが地下を歩いて、ふだんは見られないね。地下にある水道管は、だれがどのように^{かんり}管理しているのだろう。

★この学習は、教科書を^{さんこう}参考にして学習しましょう。



↑① 水を流すために使う水道管

この時間の問い

ダムは、どのようなはたらきをしているのだろう。

活動

- ① ダムが、道内のどこにあるか調べよう。
- ② ダムのはたらきを調べよう。
- ③ ダムと人々のくらしのかかわりについて考えよう。

●水をたくわえる湖とダム

わたしたちは、水をたくわえる「ダム」という^{しせつ}施設について知り、ダムのはたらきについて調べることにしました。



川の水が止められて、大きな湖のようになっているみたいだよ。



ダムには、どんなはたらきがあるのかな。

★この学習は、教科書を^{さんこう}参考にして学習しましょう。

この時間の問い

水源を守る取り組みには、どのようなものがあるのだろう。

活動

- ① 水源の森林を守るための活動について調べよう。
- ② 水源や川の水をきれいにたもつ取り組みを調べよう。
- ③ 水源や川の水を守る取り組みが行われている理由を考えよう。

●^{すいげん}水源を守る取り組み

わたしたちは、ダムとかかわりが深い、水源の森林と水源を守る取り組みについて調べることにしました。



森林も、ダムのようなはたらきをするんだね。大きな森林をどのように守っているのかな。

★この学習は、教科書を参考にして学習しましょう。

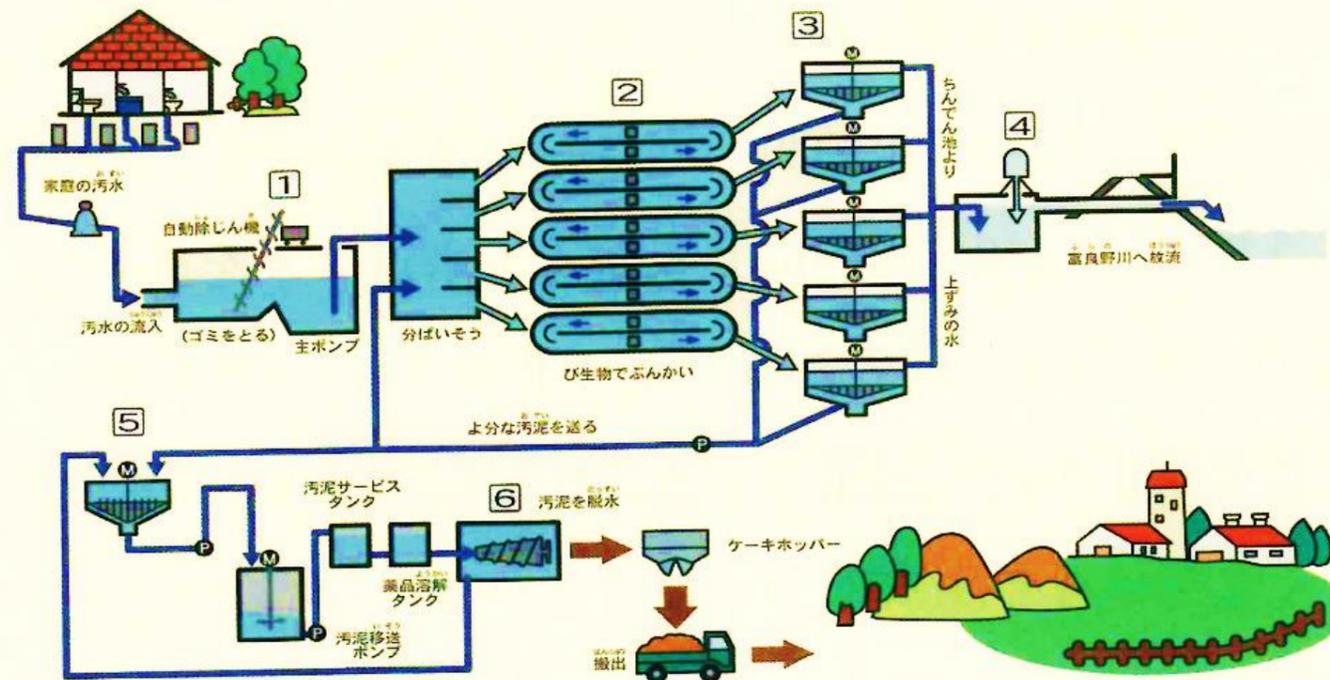


↑① 浄化センター



↑② 最終沈殿池

じょう化センターのしくみ



↑④ 浄化センターのしくみ

この時間の問い

使ったあとのよごれた水は、どうなるのだろう。

●使ったあとの水のゆくえは

わたしたちは、家や学校で使ったあとのよごれた水が、どこへ運ばれていくのか調べて、気づいたことを話し合いました。

活 動

- ① 使ったあとの水のゆくえを調べよう。
- ② 浄化センターのはたらきを調べよう。
- ③ 浄化センターできれいにした水のゆくえを調べ、水のじゅんかんについて考えよう。



使ったあとのよごれた水は、下水処理施設の、浄化センターへ送られるんだね。



浄化センターは、富良野川の近くにあるよ。施設できれいな水にしてから、富良野川に流しているのかな。

役場の建設水道課上下水道班の岡さんの話

町の人々が住みやすく、清潔に生活できるようにするために、下水道や浄化センターを計画的につくってきました。

よごれた水は、様々な機械を通ったあと、びせい物という小さな生き物によってきれいな水になります。その後、きれいになった水は、施設の近くを流れる富良野川へ流されます。また、水のよごれからできたおでいは、畑の肥料として使っています。

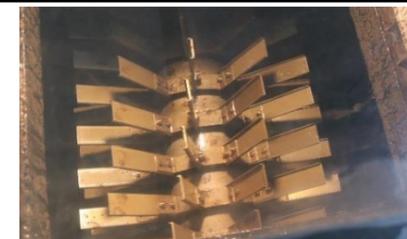
よごれた水をきれいにするためには、みなさんの協力が欠かせません。台所の流しから、油やゴミなどは流さないで、水を正しく使用してほしいです。



小さな生き物の力を使ってきれいな水にしてから、富良野川に流しているんだね。



水のよごれからできたおでいが、肥料として利用されているなんておどろきだね。



↑⑤ 水をきれいにする機械



↑③ 水がきれいになっていくしくみ

わたしたちは、使ったあとの水をきれいにする取り組みについて、浄化センターの係の人にきいてみました。

★教科書を参考にして、わかったことをカードに書きましょう。

まとめる

この単元の学び

わたしたちがくらしの中で使っている水は、どのように送られてくるのだろう。

★教科書を参考にして、水を使う場所のカードを書きましょう。

★教科書を参考にして、これまでに作ったカードをならべて、すごろくを作りましょう。

●水の通り道をすごろくに表そう!

わたしたちは、「この単元の学び」について考えるため、これまでに書いたカードをならべて、調べてきたことをふり返りました。



水が、どうやって自分のたちのもとにとどき、使ったあとはどこに行くのかを調べてきたね。



水を使う場所のカードも作ろうよ。節水という、水のむだづかいをやめて節約する取り組みがあるみたいだね。



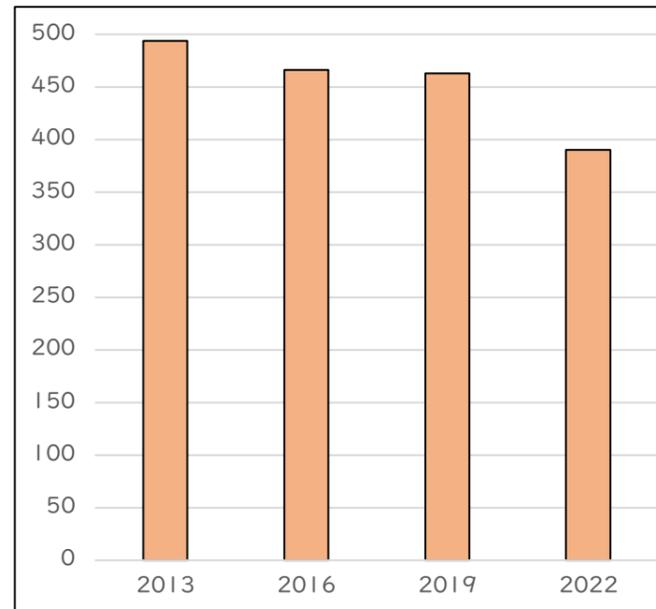
これまでに作ってきたカードを使って、水の通り道をすごろくに表してみよう。

すごろくを作って楽しんだわたしたちは、「この単元の学び」について考えたことをノートに書きました。

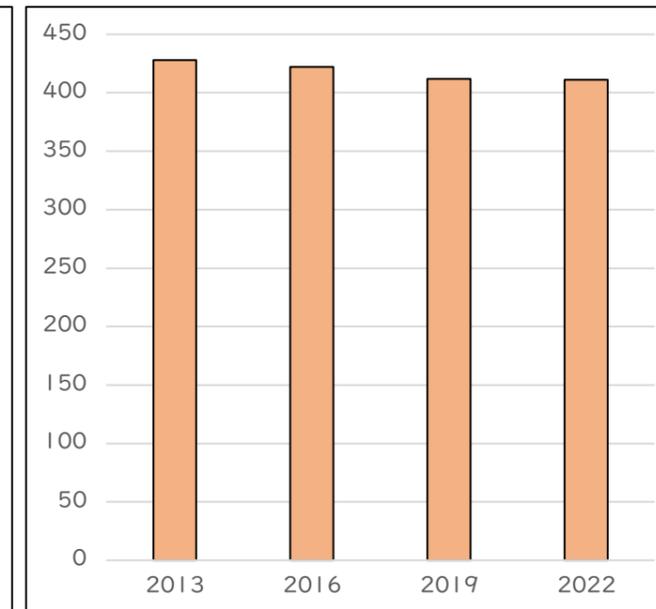


浄水場のおかげで、わたしたちはいつもきれいでおいしい水を飲むことができる。そして、使ったあとの水をきれいにすることで…

わたしたちは、毎日たくさんの方に水を使っている。それは、しせつで働いている人たちが協力して、町の水を…



↑① 上富良野町の工場や商店などで1日に使われる水の量 (m³)



↑② 上富良野町の1家庭当たりで1日に使われる水の量 (L)

つなげる

●水を大切に使うということは…

わたしたちは、作ったすごろくやノートを見ながら、これからのくらしの中で、水を使い続けていくために大切なことを考えました。



わたしは、使ったあとの水をきれいにする浄化センターのはたらきが大切だと思いました。その理由は…

さらに、町内の工場や商店、家庭で使われる水の量の変化を調べ、気づいたことを話し合いました。



町内で使われる水の量は、工場も家庭もへってきているね。水を大切にしようとする節水の取り組みが進んでいるかな。

わたしたちは、水を大切に使うために、自分たちができることや、地域でできることを話し合い、ノートにまとめることにしました。

★教科書を参考にして、自分の考えをノートにまとめましょう。

●ごみと水について学んだことを、くらしに役立てよう

わたしたちは、ごみをへらしたり、水を大切に使ったりする取り組みについて調べてきたことを、自分たちのくらしに役立てようと考えました。



自分たちのくらしを見つめ直して、ごみをへらしたり、^{せつすい}節水に取り組んだりしてみよう。



これまでの学習で調べてきた、さまざまな人たちの取り組みが
^{さんこう}参考になりそうだね。

★教科書を参考にして、自分の考えを発表しましょう。

わたしたちは、実際に、ごみをへらそうとしたり、節水に取り組んでみたりしました。取り組んだあとで、思ったことを話し合いました。



節水しようと思っても、^{しげん}資源ごみのよごれを落とすために、水を使ってしまうよ。

ごみをへらしたり、節水したりすることが、^{かんたん}簡単なことではないんだね。でも、それをしなかったら…



これから先も、取り組みを続けていくために、自分たちにできることを考えていくことが大切だね。

★教科書を参考にして、自分の考えをまとめたり、ごみや水にかかわる問題を調べたりしましょう。

わたしたちは、これからも取り組みを続けていくために、自分たちにできることを考えたり、ごみや水にかかわるさまざまな問題について調べたりしました。

ふんか
せんたく 火山の噴火にそなえて



↑ ① 大正15年十勝岳大噴火の様子(上富良野西小学校「十勝岳噴火コーナー」)



↑ ② 泥流の力によってめくれあがった線路(大正15年 十勝岳大噴火)

でいりゅう
(1) 泥流にのみこまれたまち

わたしたちの学校には「十勝岳噴火コーナー」があります。そこには、過去に起こった十勝岳噴火の様子を伝

えるパネルが掲示されています。わたしたちは、パネルの写真を見たり説明文を読んだりして、気づいたことを話し合いました。



噴火のけむりが、ものすごい高さになっているね。



大正15年の噴火では、100名をこえる方がぎせいになっていて、噴火はとてもおそろしいと思ったよ。



噴火で発生した泥流で、家や線路などがこわれてしまっているね。

わたしたちは、疑問に思ったことや、知りたくなったことを話し合いました。

この時間の問い

過去に火山の噴火が起こったとき、わたしたちの地域は、どのようになったのだろう。

活動

- ① 過去に起こった十勝岳の噴火の写真を見て、感じたことを話し合おう。
- ② 疑問に思ったことや、知りたくなったことを話し合おう。
- ③ 話し合ったことをもとに、単元の学習課題をつくり、学習計画を立てよう。



↑ ③ 昭和63年十勝岳噴火時の新聞記事(昭和63年12月)



十勝岳はくり返し噴火しているようだね。これからも噴火するおそれはあるのかな。



昭和63年の噴火では、多くの人が避難しているよ。だれが、どうやって住民を守ってくれるのだろう。



また、噴火が起こるかもしれないね。上富良野町では、どのようなそなえをしているのかな。

わたしたちは、みんなで話し合ったことをもとに、この単元の学習課題をつくりました。

この単元の学び

上富良野町では、火山の噴火にそなえて、だれがどのような取り組みをしているのだろう。

学習課題について予想し、学習計画を立てました。

消防や警察のように、噴火が起こったときも、協力して地域を守るしくみがあるのではないかな。



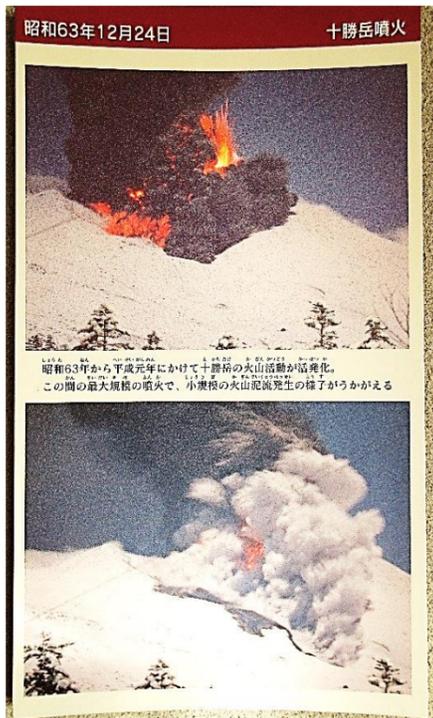
↑ ④ 昭和37年十勝岳大噴火の様子(上富良野西小学校「十勝岳噴火コーナー」)

調べること

- ① 過去に起こった十勝岳の噴火の様子
- ② 火山の噴火から地域を守るための取り組み
- ③ 地域の人々のそなえ

調べ方

- ① 資料やインターネットで調べる。
- ② 町役場の人に話を聞く。
- ③ 地域を歩いて調べたり、地域の人に聞いたりする。



昭和63年12月24日 十勝岳噴火

昭和63年から平成元年にかけて十勝岳の火山活動が活発化。この間の最大規模の噴火で、小規模の火山泥流発生の様子があがえる



↑ ① 昭和63年十勝岳噴火の様子(上富良野西小学校「十勝岳噴火コーナー」)



↑ ② 上富良野西小学校にある「十勝岳噴火コーナー」

(2) 十勝岳の噴火の歴史を調べよう

わたしたちは、学校にある「十勝岳噴火コーナー」へ行って、過去に起こった十勝岳の噴火について調べました。



1926(大正15)年と1962(昭和37)年に、大きな噴火が起こっている。どのようなひがいがあったのだろうか。

この時間の問い
わたしたちの地域では、過去にどのような噴火が起こったのだろうか。

活動
① 十勝岳噴火コーナーや開拓記念館へ行って、過去に起こった噴火について、調べよう。
② 年表や資料を見て、地域で起こる災害の特ちょうを考えよう。

融雪型火山泥流
火山活動によって山をおおっている雪や氷が急にとけることで発生し、水と噴出物が混ざって地表を流れる現象です。発生から短時間で、市街地に達する恐れがあります。

1926(大正15)年の十勝岳大噴火

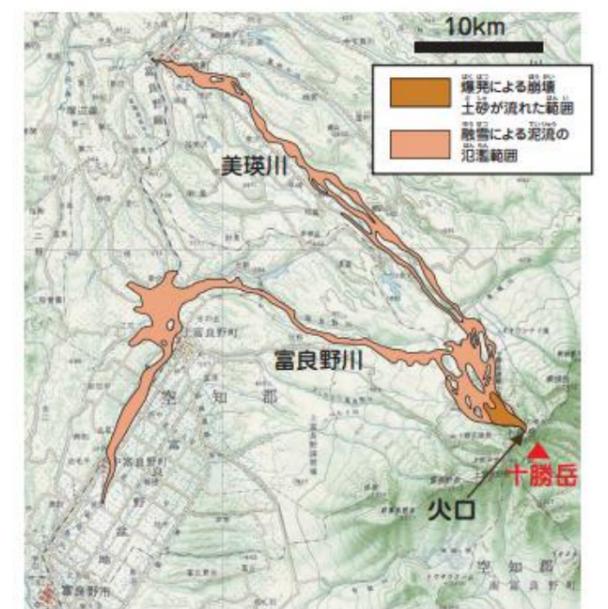
1926(大正15)年5月24日、十勝岳が大噴火を起こしました。この噴火によって大正泥流と呼ばれる大規模な融雪型火山泥流が発生しました。泥流は爆発後わずか25分あまりで火口から25kmの上富良野原野に達した

といわれています。泥流は、途中で森林を破壊し、大量の材木を含む泥水となり、家や橋、鉄道などを破壊しました。



1857年	噴火。
1887年	噴火。
1925年	噴火。
1926年	大噴火。泥流が発生。死者、行方不明者は144名、負傷者は約200名にのぼった。
1927年～1928年	小噴火を繰り返す。
1962年	37年ぶりに大噴火。噴煙は上空1万メートルにも達する。死者5名、負傷者11名。
1985年	ごく小規模な噴火。
1988年～1989年	噴火を繰り返す。小規模な泥流も発生。
2004年	ごく小規模な噴火。

↑ ③ 過去に起こった主な十勝岳の噴火



↑ ④ 大正噴火で泥流が流れ下ったところ

わたしたちは、過去に起こった主な十勝岳の噴火の年表や、噴火によるひがいを伝える資料を見ながら、気づいたことや感じたことを話し合いました。



年表を見ると、十勝岳は、何度もくり返し噴火しているね。



30年おきぐらいで大きな噴火が起きているね。



噴火によって起こった泥流で、大きなひがいを受けたことがわかるね。



次の噴火はいつ起きてもおかしくないよね。どうやって噴火にそなえたらよいのだろう。

十勝岳は、過去に噴火をくり返し、わたしたちの地域に大きなひがいをもたらしたことがわかりました。わたしたちは、噴火にそなえて、地域ではどのような取り組みが行われているのか、調べてみることにしました。



↑ ⑤ 過去に発生した泥流の地層



↑ ⑥ 大正噴火で発生した泥流により流木が押し寄せた上富良野町

上富良野町 十勝岳火山防災マップ

国内有数の活火山である十勝岳は、私たちに多くの恵みを与えてくれる反面、ひとたび噴火をすれば、上富良野町にも甚大な被害をもたらす可能性があります。過去には火山泥流などによって多くの犠牲者を出したこともあります。十勝岳は、今後も噴火する可能性がある山です。「そのとき」のために十勝岳のことよく知り、普段から備えることで、必要以上に恐れることなく毎日を送ってください。普段は私たちの暮らしを豊かにしてくれる十勝岳。「火山をよく知り、火と仲良く。」これが十勝岳とともに暮らす私たちの合言葉です。

防災マップについて
 噴火マップは、噴火の発生から避難までの時間や、避難経路、避難場所などを示しています。また、噴火の発生から避難までの時間や、避難経路、避難場所などを示しています。

情報を早に入れる
 噴火の発生から避難までの時間や、避難経路、避難場所などを示しています。また、噴火の発生から避難までの時間や、避難経路、避難場所などを示しています。

広域マップ
 噴火の発生から避難までの時間や、避難経路、避難場所などを示しています。また、噴火の発生から避難までの時間や、避難経路、避難場所などを示しています。

市街地マップ
 噴火の発生から避難までの時間や、避難経路、避難場所などを示しています。また、噴火の発生から避難までの時間や、避難経路、避難場所などを示しています。

十勝岳火災警戒レベル
 噴火の発生から避難までの時間や、避難経路、避難場所などを示しています。また、噴火の発生から避難までの時間や、避難経路、避難場所などを示しています。

事前に避難場所を確認し記入しておきましょう。
 わが家の避難場所は

火山噴火時の防災避難所
 避難所(屋内)
 避難所(屋外)
 避難所(臨時)

防災マップについてのお問合せ先
 上富良野町役場 ☎0167-45-6400
 上富良野町役場 ☎0167-45-6950

非常持出品・備蓄品の例

非常持出品
 避難する際にすぐに持ち出せるよう、家族分を用意します。(最初の1日分程度)

- 飲料水(500ml 2~5本程度)
- ちり紙・ウェットティッシュ
- 小銭(10円玉数十枚)
- アルミシート(毛布)
- 応急衣料品・雨具
- 携帯電話充電器
- 眼鏡・コンタクトレンズ
- はさみ・ナイフ
- 使い捨てカイロ
- 免許証・保険証・印鑑・預金通帳のコピー
- 非常食
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- ライター
- タオル
- 常備薬
- 軍手・ロープ
- ポリ袋
- ホイッスル

備蓄品
 ライフラインが停止した場合など、災害後の数日間を自宅で自足するために必要なものを用意して保管しておきます。

- 飲料水(1人1日3ℓ程度)
- トイレ用紙
- 携帯トイレ
- カセットコンロ
- 紙食器・割り箸
- ヘルメット
- 寝袋・毛布
- ガムテープ
- 非常用給水袋・タンク類
- 予備の乾電池・カセットガス
- 電源を必要としない暖房器具
- 非常食
- 洗面用具
- 着替え
- マスク
- ラップ
- 筆記用具
- 工具類
- 新聞紙
- 燃料

↑ ① 上富良野町 十勝岳火山防災マップ／非常持出品・備蓄品の例

この時間の問い
 上富良野町は、噴火にそなえてどのような取り組みをしているのだろう。

活動
 ①上富良野町役場へ行って、十勝岳の噴火にそなえる取り組みを調べよう。
 ②十勝岳の噴火にそなえる町の取り組みについてわかったことをノートに書こう。

(3) 住民の命や暮らしを守る
 わたしたちは、噴火にそなえるために上富良野町が取り組んでいることについて、調べました。
 上富良野町では、十勝岳火山防災マップを作成し、住民に知らせることで、十勝岳が噴火し、泥流が発生した際に、住民が素早く安全な場所に避難することができるとしています。避難する際の非常持出品や普段から備蓄しておくものなども住民に知らせています。

十勝岳火山防災協議会

幹事会

上川総合振興局 地域創生部
 旭川建設管理部
 十勝総合振興局 地域創生部
 帯広建設管理部

美瑛町、上富良野町◎、中富良野町 ◎：事務局
 富良野市、南富良野町、新得町

気象庁 札幌管区气象台
 旭川地方气象台
 釧路地方气象台

北海道開発局 札幌開発建設部
 旭川開発建設部
 帯広開発建設部

北海道警察 旭川方面本部
 旭川東警察署、富良野警察署
 釧路方面新得警察署

学識経験者

(国)
 北海道森林管理局 上川中部森林管理署、
 上川南部森林管理署、十勝西部森林管理署東大雪支署
 環境省北海道地方環境事務所
 総務省北海道総合通信局
 国土地理院北海道地方測量部

(道)
 北海道総務部危機対策局危機対策課防災グループ

(警察・消防・自衛隊)
 北海道警察本部、大雪消防組合消防本部
 富良野広域連合消防本部、とかち広域消防局
 陸上自衛隊第2師団

(その他)
 東日本電信電話株式会社 北海道北支店、北海道東支店
 北海道電力ネットワーク株式会社 旭川支店、帯広支店

↑ ② 十勝岳火山防災協議会の構成機関

また、噴火にそなえて国や北海道、十勝岳周辺の市や町、气象台や北海道開発局、警察や消防、自衛隊、火山の専門家などからなる十勝岳火山防災協議会が組織されています。そこでつくられた十勝岳火山避難計画には、噴火が起こった際の関係機関の役割や対応策などが書かれており、噴火にそなえた訓練も行われています。

火山の噴火から住民を守るには、町や道、国などの関係機関の協力が大切なんだね。

私たち住民も日ごろから噴火に対するそなえをしておくことが大切だと思ったよ。

わたしたちは、学習課題をふり返り、調べてきた取り組みについて話し合いました。

★教科書の「まとめる」「つなげる」ページを参考にしましょう。



↑ ③ 十勝岳噴火総合防災訓練

指定緊急避難場所 指定一般避難所	対象地域	災害の1	
		洪水	火山噴火
上富良野小学校	本町・大町の一部	●	●
関信寺	本町の一部	●	●
上富良野中学校	富町・旭町・新町の一部	●	●
東児童館	旭町の一部	●	●
わかば保育園	旭町・新町の一部	●	●
上富良野高等学校	東町・新町の一部	●	●
東明会館	東町・新町の一部	●	●
上富良野町公民館	富町の一部	●	●
わかば中央保育園	富町の一部	●	●
セントラルプラザ	中町・緑町の一部	●	●
大蔵寺	中町の一部	●	●
ふらの農業協同組合上富良野支所	東町の一部	●	●
摩訶寺	中町・東町の一部	●	●
高田幼稚園	中町・東町の一部	●	●
上富良野西小学校	旭町・東町・北町・日の出の一部	●	●
泉栄防災センター	東町・東町の一部	●	●
上富良野町役場	大町の一部	●	●

↑ ④ 指定緊急避難場所一覧

写真① きた だいもんじ
北の大文字写真② とかちだけこうよう
十勝岳紅葉まつり写真③ ゆき
かみふらの雪まつり

わたしたちの住む上富良野町には、昔から受けつがれてきた祭りや行事、建物などがあります。町の観光パンフレットやホームページを見て、気になったものをクラスで発表しました。



「上富良野町には季節ごとに様々な祭りがあるね。わたしが夏に参加したラベンダーフェスタはたくさんの方が見に来ていたよ。」



「全国から見に来る人がいるんだって。どんなみりよくがあるのかな。調べてみようよ。」

● しら 調べよう

この時間の問い

ラベンダーフェスタとは、どのようなものなのだろう。

活 動

- ①ラベンダーフェスタについて調べよう。
- ②調べたことをもとに、気になったことや疑問に思ったことを話し合おう。
- ③話し合ったことをもとに学習問題をつくり、学習計画を立てよう。

しら なか むかし べつ なまえ かいさい
調べる中で、ラベンダーフェスタは昔、別の名前で開催さ

れていたことに気が付きました。



「ラベンダーフェスタはもともと、はな ほのお し きさい

つりという名前だったよね。」



写真①② はな ほのお し きさい
花と炎の四季彩まつり

たんげん まな
この単元の学び

ラベンダーフェスタはどのようにして受けつがれてきたの
だろう。



写真③ ラベンダーフェスタ



ねん かんせんしょう はな ほのお し きさい ちゅうし
「2020年に感染症のえいきょうで花と炎の四季彩まつりが中止になっ
てしまったのは悲しかったな。」



ねん なまえ ひら
「2021年にラベンダーフェスタという名前で祭りが開かれてうれしかった
よ。」



まつ
「祭りがなくならなくてよかったね。こうやってぼくたちが祭りを楽しみ続け
られるのは、だれのおかげなんだろう。」



まつ おも まつ
「そもそもなんでラベンダーの祭りにしたんだろう。だれがどんな思いで祭
りを続けてきたのかな。」

がくしゅうけいかく
学習計画

しら
①調べること

- ・ラベンダーのよさについて。
- ・多くの人が見に来るわけ。
- ・他の地域への、ラベンダーの広まりについて。

しら かた
②調べ方

- ・祭りにかかわっている人から話をきく。
- ・ラベンダーを育てている人から話をきく。
- ・資料や地図を使って調べる。

● 祭りにかかわっている人に話をきこう

わたしたちは祭りにかかわっている人に話をききました。

この時間の問い

ラベンダーフェスタにかかわっている人は、どのような思いなのだろう。

活動

- ① 祭りの名前がかわったわけを調べよう。
- ② ラベンダーフェスタに参加したり、様子を見たりして感じたことを話し合おう。
- ③ ラベンダーフェスタのよさを考えよう。

この時間の問い

ラベンダーフェスタは、どのように広まっていたのだろうか。

活動

- ① ラベンダーフェスタがどのように受けつがれてきたのかを調べよう。
- ② 調べたことをもとに、気になったことや疑問に思ったことを話し合おう。

● ラベンダーフェスタを受けつぐ、広げる

わたしたちはラベンダーフェスタがどのように広まってきたのか調べました。

ラベンダーフェスタの歴史

年代	昭和		平成		令和	
	53年	57年	3年	16年	2年	3年
出来事	第1回北海ホップ祭りが島津公園で行われる。	北海ホップ祭りから名前を変更して第1回かみふらのラベンダーまつりが日の出公園で行われる。	第1回十勝岳火まつりが行われる。	ラベンダーまつりと十勝岳火まつりを合わせて、かみふらの花と炎の四季彩まつりが日の出公園で行われる。	感染症の影響でかみふらの花と炎の四季彩まつりが中止となる。	かみふらの花と炎の四季彩まつりから名前を変更して、第1回ラベンダーフェスタが行われる。

上富良野町役場企画商工観光課

松田さんの話

ラベンダーフェスタの前に行われていた花と炎の四季彩まつりは、過去から行われている火祭りの意味と、花を見て楽しむための意味をあわせた祭りとして行われていました。上富良野に住む多くの方が参加していましたが、他の市町村からの観光客は多くありませんでした。

わたしたちは上富良野のよさをより多くの人に広めたいと考え、国内有数の規模をほこるラベンダーが中心の祭りにはすることをしました。ラベンダーはふだん、さいている様子を明るい時間に見てもらおうことが多かったのですが、夜に光を当ててみると、とても美しいむらさき色をしていました。ラベンダーを祭りでライトアップすることで、ラベンダーのよさを多くの人に知ってもらおうことができました。祭りをラベンダーフェスタに変更してから、全国各地から問い合わせがくるようになり、注目度が高まったと感じています。

上富良野ならではののみりよくの1つであるラベンダーを知ってもらうことで、町のことも多くの人に知ってもらい、上富良野に来る人を増やすことができました。



「これまでも名前がかわったことがあったんだね。ホップや十勝岳にまつわる祭りもあったんだ。」



「ラベンダーフェスタはいろいろな思いのこもった祭りと言えるね。」



写真①② 上富良野のホップ



写真③ 十勝岳

●ラベンダーフェスタの発展を願って

この時間の問い

ラベンダーフェスタはどのようにして受けつがれてきたのだろう。

わたしたちは、^{がくしゅうもんだい}学習問題を^{かえ}ふり返って、ラベンダーフェスタについて^{しら}調べたことを^{はな}話し合いました。



「祭りには、^{かみふらの}上富良野に住む人の^{さまざま}色々な思いがこめられていることがわかったよ。だから^{むかし}昔から^{つづ}続けられてきたんだね。」



「ラベンダーフェスタは、^{かみふらの}上富良野のことを^{おお}多くの人に^し知ってもらう工夫にもなっていたね。」



「ぼくたちも、ラベンダーフェスタが^{はってん}発展するようにできることがありそうだね。^{かんが}考えてみようよ。」

わたしたちは、^{はな}話し合ったことを^あまとめ、^{じぶん}自分たちに^{かんが}できることを^{かんが}考えてみました。

ラベンダーフェスタについてわかったこと	自分たちにできそうなこと
<ul style="list-style-type: none"> ・もともとは1978年の^{ねん}北海^{ほっかい}ホップ^{まつ}祭りから始まった。 ・^{かみふらの}上富良野のよさを^{ひろ}広められるように工夫^{くふう}されている。 ・ラベンダーの^{うつく}美しさが^{ひろ}広まったことで、^{かみふらの}上富良野に興味^{きょうみ}をもってもらえるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・^{ちいき}地域の祭りについて^{いみ}意味や^{みりよく}みりよくを^{しら}調べる。 ・祭り^{まつ}に参加^{さんか}して、よさを^{あじ}味わう。 ・祭り^{まつ}のよさを^{せんでん}宣伝して、^た他の^{ちいき}地域の^{ひと}人にも^し知ってもらう。

●ラベンダーの文化も調べよう

わたしたちはラベンダーフェスタについて^{しら}調べる中で、^{なか}ラベンダーと^{かみふらの}上富良野のつながりについても^き気になり、^{しら}調べてみることにしました。



「ラベンダーが^{かみふらの}上富良野で^{そだ}育てられるようになったのはいつごろだったんだろう。どうして^{かみふらの}上富良野に^{ひろ}広まったのかな。」

この単元の学び

ラベンダーはどのようにして受けつがれてきたのだろう。

学習計画

①調べること

- ・ラベンダーの^{れきし}歴史。
- ・受けついできた人々の^{ひとびと}思いや^{おも}願い。
- ・^{まも}守り^{つた}伝えていくための^{とく}取り組み。



写真①



写真②

●ラベンダーについて調べよう

わたしたちはラベンダーについてどのように受けつがれてきたのか町のホームページを調べてみました。

この時間の問い

ラベンダーはどのように上富良野に来たのだろう。

活動

- ①ラベンダーの歴史について調べよう。
- ②ラベンダーが上富良野にとってどんな存在か考えよう。

ラベンダーの歴史とあゆみ

ラベンダーは今では夏の北海道を象徴する観光作物ですが、かつては特用農作物として、道内において広い面積で農作物として栽培されていました。今は観光や観賞用・ラベンダー製品原材料として、ここ上富良野町をはじめ富良野地方で主に栽培されています。上富良野町は国内における「ラベンダーの町」として、栽培の継続とラベンダーの利用・観光としてのラベンダー園のPRなどを行っています。

昭和12年、曾田香料株式会社がフランスのアントワン・ヴィアル社からラベンダーの種子5kgを入手し、これを千葉・岡山・北海道の各農事試験場と曾田香料札幌工場試験栽培を行いました。フランスが特産と考えられていたラベンダーが、日本では北海道が生育の適地とわかり、札幌市郊外の南の沢と岩内郡登足村(共和町)で栽培、蒸留が始まります。その後、第二次世界大戦が始まり、食糧増産の至上命令により転作を余儀無くされましたが、優良品種の選抜保存を最小限行い終戦後栽培を再開したのです。

上富良野町とラベンダーというつながりの発端は、雑誌「農業朝日」の「香料作物ラベンダーは初夏の傾斜地にうすむらさきの花を開き、なかなか詩情に富んでいる作物」という記事、また「北海道新聞」の「ラベンダーは北海道に適地作物である」との記事を見た上富良野町東中の上田美一氏、太田晋太郎氏、岩崎不二男氏等が協議し、昭和22年曾田香料札幌の佐野工場長とラベンダー栽培について話し合いを行い、昭和23年より委託栽培を始めたのが最初で、その後北海道の奨励特用作物として全道に広まっていったのです。最盛期には、上富良野町での栽培面積85ヘクタール、全道では235ヘクタールにもなったといえます。

一般社団法人かみふらの十勝岳観光協会 公式サイト 上富良野Navi より



「ラベンダーが上富良野に来たのは戦争が終わってすぐのころだったのか。」



「ラベンダーが上富良野に来て、町の人はどう思ったんだろう。」

わたしたちはその当時のことを、役場で働く方に聞きました。



上富良野町役場企画商工観光課

松田さんの話

ラベンダーが上富良野に来て、栽培が進んだころに、ラベンダーがさいている町の様子が国鉄のカレンダーに採用されました。それからは、ラベンダーを見に、多くの人が上富良野を訪れるようになりました。それまでは観光地としてはなかなか知られていない町でしたが、ラベンダーのおかげで観光地としても有名になりました。農業や自衛隊に加え、観光でも町を盛り上げることができると、町に住んでいた人の意識が変わるきっかけになったのがラベンダーだったそうです。



「ラベンダーが来たことで、町の産業にも大きな変化があったんだね。上富良野にとってラベンダーは欠かせない存在なんだ。」



「ラベンダーは今でも大切に育てられているね。育てている人はどんな思いなんだろう。」

●ラベンダーを育てている人に話をきこう

この時間の問い

ラベンダーを育てている人は、どのような思いで育てているのだろうか。

活動

- ①ラベンダーのよさについて考えよう。
- ②ラベンダーを育てている人の思いをインタビューしよう。
- ③ラベンダーを広めるための工夫を調べよう。

わたしたちはラベンダーを育てている人に、ラベンダーのよさをききました。



フラワーランドかみふらの

しゃちょう いとう はなし
社長 伊藤さんの話

ラベンダーが^{こくてつ}国鉄のポスターになったころには、^{にほん}日本ではあまり見られない^{ふうけい}風景だと、^{ぜんこく}全国の人に^き気に入られました。きれいな^{いろ}むらさき色はラベンダーのよさです。

見た目だけではなく、^{かお}香りのよさもラベンダーのみりよくの1つです。今ではラベンダーの^{かお}香りを^{しょうひん}商品にしたものが^{つく}作られ、^{おお}多くの人に^{つか}使われています。

^{かみふらの}上富良野で^{さいばい}栽培したラベンダーは、^{はな}花自体も^{にんき}人気です。ラベンダーの^{はち}鉢は、^{かみふらの}上富良野で^{そだ}育てられたものが^{ぜんこく}ほしいと^{ちゅうもん}全国から注文があります。

^{ぜんこく}全国に^{かみふらの}上富良野のラベンダーが^{とど}届けられることで、^{かみふらの}上富良野のことを^し知ってもらい、^{みぢか}身近に^{かん}感じてもらえることが^{うれ}嬉しいです。また、^{じっさい}実際に^{すがた}さいている姿を見たいと、^{かみふらの}上富良野に^き来てくれることにも^{よろこ}喜びを^{かん}感じています。



写真①



写真②



写真③



「^{かみふらの}上富良野のラベンダーのよさが、^{ぜんこく}全国に^{ひろ}広まりつつあるんだね。これはまつ祭りのときと同じだ。まとめてみよう。」

●未来へ、受けつがれていくために

わたしたちは、学習をふり返り、ラベンダーについて調べたことを話し合いました。

●わたしたちも伝えよう

わたしたちは、地域で昔から受けつがれてきたものを、これからも守り伝えていくために大切なことは何か、学習したことをもとに考えてみることにしました。

まとめかた(例)^{れい}

ラベンダー^{せんてん}を宣伝するポスターをつくろう

かくこと

- ・ラベンダーの歴史
- ・ラベンダーのよさ
- ・ラベンダーに対する自分の思い



写真①



写真②



写真③



写真④

5

昔から今へと続くまちづくり



▲①開たく当時の上富良野

この時間の問い

開たく当時の町はどんなようすだろう。



「古い写真だけど草木でおおわれているね。どこを写したものだろう。」



「開たく当時の上富良野のみたいだよ。今と比べると、まったくちがってびっくりするね。」



「人々の様子はどのように変わってきたのかな。」

わたしたちは、本や郷土館を手がかりに、上富良野町の歴史について調べることにしました。

この単元の学び

わたしたちが住む上富良野町はどのように開たくされてきたのだろう。

活動

- ①昔と今の様子を比べて感じたことを発表しよう。
- ②地名の誕生やそのころのアイヌの人々のくらしを調べよう。
- ③学習問題をつくり、学習の計画を立てよう。



▲②現在のの上富良野

(1)地名の由来とアイヌの人々のくらし

●地名はアイヌ語をもとに

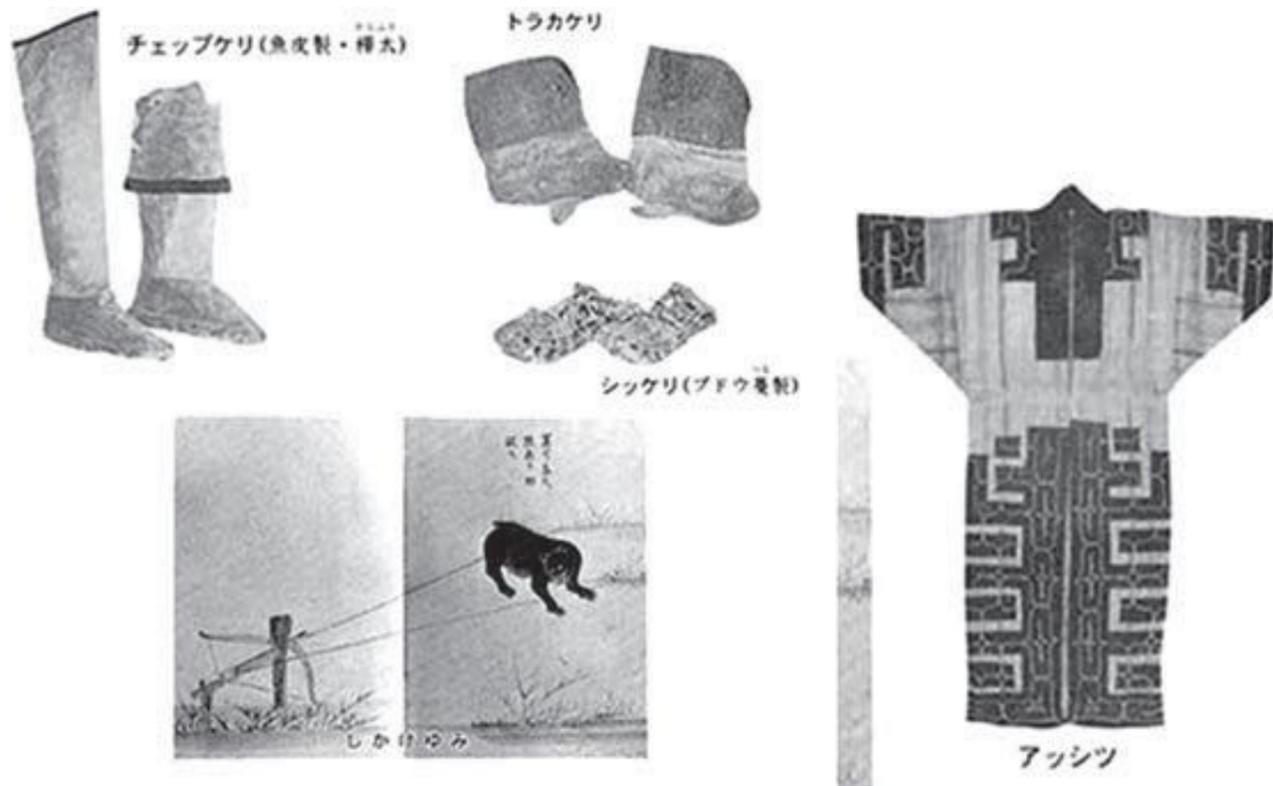
富良野という地名は、アイヌ語のフラ・ヌ・イ(い黄のにおいのする川)という意味)がもとの言葉で、それに富良野という漢字をあてはめて市や町の名としました。

もともとは富良野川から上の空知川上流部を富良野といいましたが、そのあといろいろかわって、上富良野・中富良野・富良野・南富良野に分けられました。

●アイヌの人々のくらし

アイヌの人たちは、今の北海道をアイヌモシリ(アイヌのしずかな国土)とよび、コタン(村)をつくり、自然とともにくらししていました。

そのころのアイヌの人たちは、山ではクマやシカを、海ではアザラシや貝を、川ではサケやマスをとって生活していました。そのほかに、鳥やうさぎなどもとっていました。女の人たちは、山で山菜やキノコをとったり、家で機はたをおったり、食事のしたくをしたりしていました。



▲①アイヌの人たちが使っていた道具

「アイヌの人たちはいろいろな工夫をした道具を使って生活していたようだね。」



【上富良野町の歴史にくわしい人の話】

いつごろからあったのかはわかりませんが、むかし、上川地方（今の旭川方面）から、今の上富良野を通して、十勝地方（新得）へぬけるふみ分け道があったそうです。北海道たんけんのために、松浦武四郎（「北海道」の名付け親）が、1858（安政5）年3月に、石狩につとめていた役人と上川のアイヌの長の一人、クーチンコロら12人のアイヌの案内人といっしょに、上川から上富良野を通して富良野岳の近くで山ごえをし、サホロ川へ出て今の新得におかったということです。



「そのころから遠い村との交流もあったということだね。」



この時間の問い

田中さんがはじめて上富良野に来た時の様子はどんなだろう。

活 動

- ①資料を読んで開拓のはじめの頃の様子をとらえよう。
- ②調べてわかったことをノートに書こう。



この人の絵を町のどこかで見かけた気がするなあ。



上富良野に本州から最初に入った田中さんという人のようだよ。



郷土館に行ったらもっとくわしくわかるかもしれないね。

●開拓のはじまり

今から、120年ほど前に田中常次郎一行が歌志内から空知川をさかのぼって富良野に出て、さらに富良野川をさかのぼって、今の草分に入りました。これが、わたしたちの町の開たくの始まりです。

はじめ、田中常次郎さんを先頭に8人の人たちは、辺り一面大きな木におおわれ、道らしい道もない中を、上富良野の地、富良野原野をめざして、がんばりました。

「見えたぞ、広い原野だ。けむりも見えるぞ。」

「あれだ、見えるぞ、十勝岳だ。」

元気がでた人たちは、空知川から富良野川を上流にお

かって進んで行きました。



▲①にれの木の下での様子(郷土館)

川に足をとられたり、木を切りたおし橋をつくったりしながら、1897(明治30)年4月12日に、上富良野村西3線北29号の175番地にたどり着きました。

このへんは、木が少なく広々とした一面の原野で、かんそうしていました。原野のまん中ににれの木が一本立っていました。

8人の人たちは、この木の下で野じゆくすることにしました。(後に、にれの木があった場所には「^{いこい}憇の^{にれ}楡」ときざんだ^{きねんひ}記念碑がたてられました。)

はるか東の空には、雪景色の十勝岳が、原始林の上にそびえて、けむりをあげているのがよく見えました。



▲②記念碑

いこいのにれの下で野じゆくをして、初めて現地のしきつをおえた田中常次郎さんたちは、旭川まわりで家族を連れてきて、本かくてきな開たくを始めました。

開たくの第一歩は、木を切りたおすことから始まりました。りっぱな「のこ」もなく、開こんするにも、人力にたよらなければならなかったので、開たくは思うように進みませんでした。

また、開こんした土地から、すぐにはしゅうかくがないため、食料はすべて買って食べなければならず、さいしょのころは、旭川まで買いに行きました。

しかし、米は高くてなかなか買えず、いなきび・あわが日じょうの食べ物でした。

さいしょにたてられた家は、「合しよう小屋」または「おがみ小屋」といいました。地面に三角形の屋根をおいたような形をしており、屋根は木の皮やかれ草をかけ、入口はむしろをさげただけで戸がありませんでした。

ですから、きつねが入ってきて、ねているの知らずにしっぽをふみつけて、かみつかれたこともあったということです。このように、本州からきた人たちにとって北国の生活は、たいへんきびしいものでした。



▲③ 開拓の時に使われた道具



▲④開拓当時の住まいの様子



▲①鋤(すき)

不思議な形をしているけど、どのように使うものなのかな



この時間の問い

上富良野の米づくりのはじまりはどのような様子だったのだろう。

活 動

- ①資料を読んで米づくりの工夫や苦勞をとらえよう。
- ②郷土館に見学に出かけて使われた道具の様子や使いかたを調べよう。
- ③今の米づくりと比べるとどのようなちがいがあるか話し合ってみよう。

●米作りがはじまる

稲が、いちばん先につくられた国は、インドやインドネシアなどと言われています。どの国にしても、稲があたたかいところにあう作物であることは、まちがいありません。

日本では、北海道をのぞいて、古くから米づくりが行われてきました。

1900(明治33)年、田中常次郎さんと山口五平ごへいさんが、初めて稲づくりをしました。

米づくりには、水が必要なので、水田がつくられたのは、富良野川のそばです。しかし、富良野地方は、むかしから、寒さのきびしいところとして知られていました。夏でもはだ寒い日があり、それが何日もつづくと、冷害れいがいとなって、作物がとれなくなり、食べ物がなくなって、ずいぶんつらい思いをしたこともあったようです。

「米づくりは、北海道にあわない。」
という意見いなさくきんしれいがあって稲作禁止令まで出されたこともありました。

それでも、開たく者たちは、米づくりに全力をあげ、とちゅうで投げ出してしまふことはありませんでした。寒さに負けない稲のつくり方を考えたり、よい水田にするために、新しい土を運び入れたり、ひりょうくろうをまいたりするなどの苦勞が実って、今のような見事な水田がつくられたのです。開たく者たちの血のにじむような努力の積み重ねに開たく者たちの血のにじむような努力の積み重ねによって、成功した米づくりは、言いかえると、100年以上にわたる寒さとのたたかいといえます。



▲②たこ足

稲の植え方も、ずいぶん変わってきました。むかしは「たこ足」という、もみまき機を使って、水田にちよくせつ「もみ」をまきましたが、今ではビニールハウスひんしゅかいりょうを使用したり、品種改良をしたりすることによって、なえを早く、じょうぶに育てることができるようになりました。

また、農作業も、ずいぶん楽になってきました。開たく当時は、人力だけがたよりでしたが、しだいに牛や馬による農耕のうこうをとり入れ、プラウ・ハローなどの馬耕農具ばこうのうぐを使うようになりました。

大正時代の末ごろになると、動力が水車や風車はつどうきにかわり、石油による発動機が使われるようになると、作業はどんどんスピードアップされ、農機具は人々の苦勞と工夫べんりでどんどん便利になっていきました。



▲③千歯



▲④プラウ



▼⑤方形ハロー



▲①運ばんの様子

●鉄道がしかれる

道路も鉄道もなかったころは、草や木を切りはらっただけの道でした。

人々は、その道を、荷物を馬のせなかの「駄くら」に乗せて運んだものでした。

それが、上富良野にも鉄道がしかれる予定になり、人々は鉄道をしく位置や停車ができる場所(駅)がどこになるか強い関心を持ちました。

はじめ、駅の予定地として、草分・東中などがあがっていました。草分では、西2線北 27 号という話があったために、開たくの中心は、自然にこのあたりに集まり、店・寺・学校・木工場などができました。

東中でも、東9線北 17 号が予定地となっていたので、人々は、ここに市がいができるだろうと思って、たくさん入ってきました。

上富良野に、初めて鉄道がしかれたのは、1899(明治 32)年 11 月のことです。

工事は、旭川の方から進められてきました。大きな木がおいしげるところを切りひらいたり、あぶない目にあったりしながら、線路をしいてきました。

鉄道をしき、北海道を早く開発しようと考えていた役所の人たちは、人集めに困りました。このころ、道路工事や鉄道工事をするおもな人たちは、しゅう人でした。

しかし、この人たちだけでは間に合わないので、本州から仕事をさがしにきた人たちを集めて働かせました。

しゅう人たちは、いっしょうけんめい働きましたが、まだ足りないと言って、ムチでたたかれたり、けられたりして馬や牛のように働かされました。

逃げ出す人もたくさんいましたが、つかまってたたかれたり、スコップでなぐられたりしながら、また働かされました。また、山の中で空ふくのため死んだ人もいました。

この人たちの間では、「まくら木一本、土工一人」という歌が歌われたそうで、すごくつらい仕事だったことがわかります。

開たく者たちも開こんをはじめてから、しゅうかくできるまで3年間もかかったので、修理工事に出て働かなければなりませんでした。

このように長い年月、血とあせを流した土工夫たちの仕事で道路ができ、鉄道が開通しました。

駅ができると、駅を中心にして人々が集まり、家たちが、いろいろな施設がつくられ、町がかたちづくられてきたのです。

鉄道がしかれ、およそ 30 年後の 1929(昭和 3)年 4 月に、上富良野ではじめてバスが走るようになりました。

その当時は、上富良野市がい～東中間と江幌完別～吹上温泉間をかしきり運転しました。



▲②できたころの上富良野駅



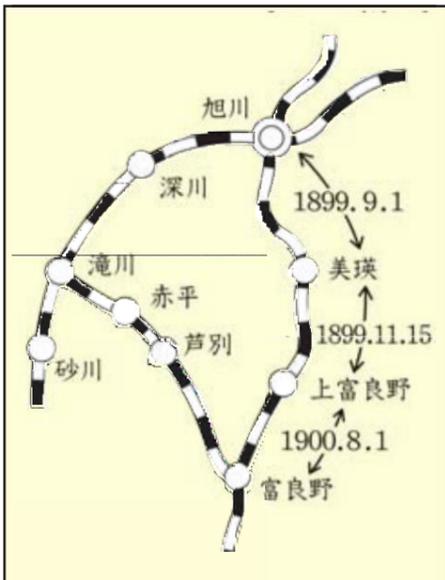
▲③現在のの上富良野駅

この時間の問い

上富良野の鉄道はどのようにしてしかれたのだろう。

活動

- ①資料を読んで、鉄道が敷かれた時の様子をとらえよう。



駅ができそうところに人が集まり、集落ができたのは、人々がべんりな生活を楽しみにしていたからなんだね。

(2) 災害にうち勝った開たください

● そうなん記念碑を見て



▲① そうなん記念碑(明憲寺)

わたしたちは町の中を調べてみると、お寺の中に大きな石碑を見つけました。



「たくさんのお名前が書かれているね。」



「お寺の人に聞いてみよう。」

町の明憲寺の境内に、そうなん記念碑があります。記念碑の台石には、たくさんのお名前が刻みこまれています。おじいさんの話によると、この人たちは大正15年の十勝岳噴火によってなくなった人たちだそうです。

お寺の方が、「噴火の記念碑は、草分にもあるよ。」と言われたので、友だちといっしょに見に行きました。記念碑は、大きな石の上に建っていました。この石は、噴火の時、山から泥といっしょに流されてきたものだそうです。

わたしたちは、「こんな大きな石が流されてきたのだから、このふ近の土地は、きっと泥や石でうずまいたにちがいない。」と話し合いました。

でも、この記念碑の建っているあたりは田畑が一面に広がっていて、そんなあとは見ることもできません。わたしたちは、「だれかが田や畑にできる土地につくり直した



▲② そうなん記念碑(草分)

のかもかもしれない。」と考えました。

そこで、十勝岳の噴火によってこの付近の土地の様子は、どのように変わったのか、その後どのようにして今のような土地になったのかについて、役場などで出している資料を使って調べることにしました。

● 十勝岳噴火

この時間の問い

大正15年の噴火はどのようなものだったのだろうか。

活動

- ① 噴火に関する資料を役場や図書館で探してみよう。
- ② 資料を読んで、噴火の様子や被害をとらえよう。

1926(大正15)年5月24日、この日は、ときおり小雨がぱらつき、こい霧のため十勝岳は見えませんでした。

上富良野村の三重団体(草分)の人々はぶきみな山なりを耳にしなが、不安な気持ちで水田のしろかきにはげんでいました。

正午すぎになると、山なりがいちだんと大きくなり、まどガラスをゆさぶる地ひびきとともに

噴火が起こりました。その後、午後4時17分過ぎに大規模な水じょう気爆発が起こりました。

真っ黒な煙と火柱は天高く上り、すさまじい音があたりの空気をゆるがしました。それと同時に雪をとかした、ものすごい泥水

が3mの高さで、あらゆる物をなぎ倒しながら火口から富良野原野までの24kmの

▲② 押しつぶされた家屋と流されてきた木々

距離を、わずか25分で流れてきたのです。



▲① 噴火を伝える当時の新聞

大きな木々を押し流し、すさまじい勢いで富良野川の谷すじにそって流れ下った泥水は、平野に出ると田畑に広がり、鉄道の線路をこえて市街地の近くまで来ました。

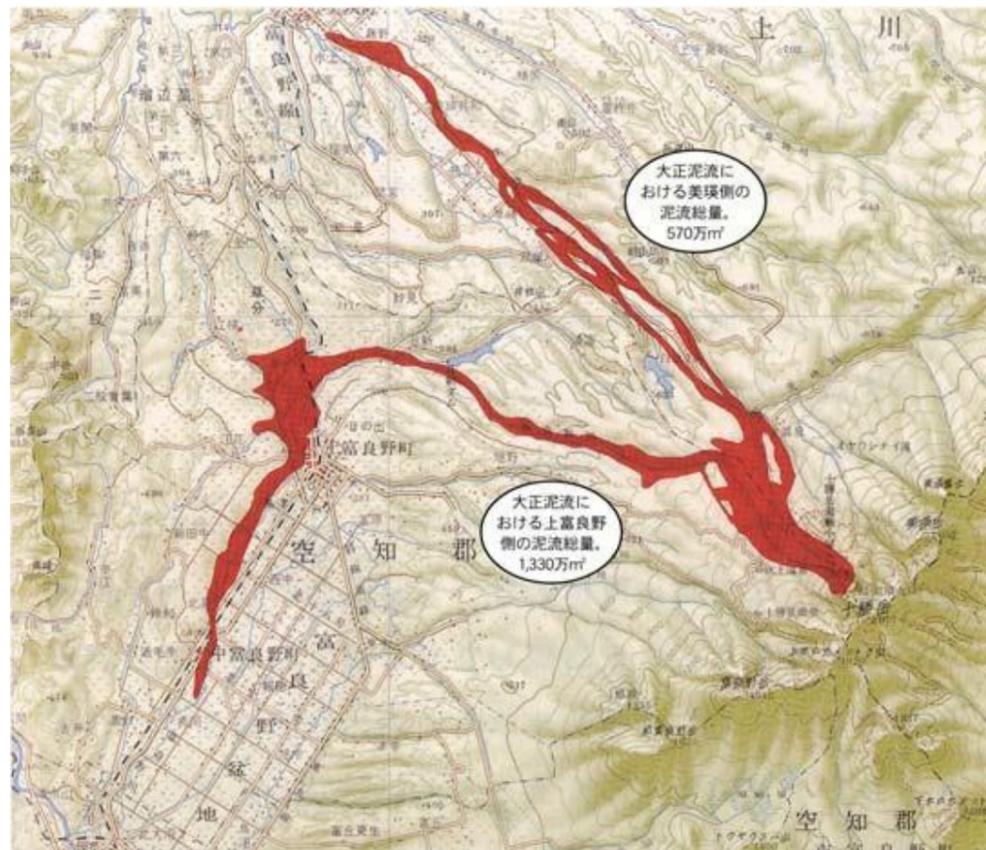


▲①泥流のえいきょうで曲がった線路

この泥水のために、上富良野・美瑛・中富良野の3町で144人の人がなくなり466戸の家が流されたり、こわれたりしました。

水田は1500ha(ヘクタール)のうち500haが、畑は4100haのうち225haが泥流にうまりました。とくに上富良野村の被害がもっとも大きく、299戸の家が被害をうけ、137人の人がなくなったり、ゆくえ不明になったりしました。

明治30年に、田中常次郎たちが開たくをはじめてから30年間、血のにじむような苦勞をして開いた田畑は、はげしい泥流の中に、いっしゅんであとかたもなくなり、一面、泥と岩石と流木にうずめつくされてしまったのです。



▲②大正泥流が流れたはんい

●噴火の後



「この写真の人はだれだろう？」



「当時の村長さんなんだって」



「村長として、どのように行動したのかな。」



▲①吉田貞次郎

この時間の問い

噴火の後、人々はどうのよう
に行動したのだろう。

さいがい 災害が起きたとき、村長のよしだていじろうは、すぐに役場の人たちに指示しながら、死体さがし、流木のかたづけ、小

活 動

- ①噴火後の様子を資料から読み取ろう。
- ②人々がどのように町を元にもどそうとしたのかまとめよ

屋づくりや食べ物の用意など、夜もねむらないで働きました。吉田貞次郎の家も泥にうずめられ、家族7人がはげしい泥流にのみこまれてしまいました。しかし、吉田貞次郎は家に帰りませんでした。

つま 妻や子どもは、やっと助け出されましたが、年をとった母親は、3日目に遺体となって発見されました。母親のそう式の

ときも、家に帰ったのはわずか30分だけで、悲しみをこらえて被害をうけた人々のために働きつづけました。

●二つの意見

災害の後、あれはてた土地を見ずてるか、ふっこうさせるかで、村の人たちの意見が分されました。

見すててしまうという人たちの考えは、「うず高くつもった泥は2mから3,4mもあ

り、しかも^{こうどく}鉍毒が強く、とうてい作物は育たない。その上、泥にうずまった流木をとりのぞくにはたくさんのお金がかかる。」ということでした。^{どうちょう}道庁の考え方もこれと同じでした。

これに対して、ふっこうにさんせいする人たちは、「田も畑も、30年もかかってつくったものである。われわれは、この土地で死ぬつもりでやってきたのだ。鉍毒がどのように多くても、やる気にさえなれば、できないはずはない。もとどおりの美しい田畑に必ずしてみせる。」と必死でうったえました。

●吉田貞次郎の決心

吉田貞次郎は、人一倍村を^{あい}愛する心の強い人でした。土地を見すててしまうことは、どうしてもできないことでした。

「十勝岳は、大昔からいく度もこのような被害をあたえ、今まで田畑になっていた所も、以前には鉍毒におかされたことのある土地だったのだ。この土地をすてたのでは、なくなった人たちにもうしわけがない。やれば必ずできる。」とふっこうを決心しました。

6月になって、道庁の人たちが十勝岳の様子を調べに来たとき、吉田貞次郎は、「われわれは、ここを見すてる気持ちはまったくありません。石にかじりついてでも、もとのような土地にしたいのです。どうか、力をかしてください。」と涙を流してたのみました。

吉田貞次郎の村を^{ねつい}愛する熱意は、道庁の人たちの心を動かし、とほうにくれていた村の人たちをふるいたたせました。

●ふっこうへの努力

「この土地にふたたび緑をよみがえらせたい。そのために、わたしたちはもう一度開たくをやり直すのだ。」という村の人たちのねがいは、とうとう道庁や国をふっこうへふみ切らせました。

土地のふっこうは、ひとりひとりが勝手にやったのではとうていできません。そこで村では、昭和2年に^{こうちせいりくみあい}耕地整理組合をつくり、被害をうけた人たちが、協力して仕事をすすめるようにしました。

組合の仕事は、田をつくることから始まりました。田をつくるために、仕事の順序を次のように決めました。

- ①流木や石をとりのぞく。
- ②用排水路をほって、土地をかんそうさせる。
- ③土地をならして田をつくる。
- ④田に^{きゃくど}客土をしたり、泥をとりのぞいたりする。



当時は今のように機械がなかったから、多くの人の力が
必要だったろうし、ものすごく時間のかかることだったろう
ね。

○流木のしまつ

山から泥流でおしながされてきた流木は、あたり一面に散らばっていました。人々はこれを、大のこぎりで2,3mの長さに切り、積み重ねてかんそうさせました。

かんそうした流木は、風のない日を待って燃やしました。流木を燃やす火は毎夜、空を赤くそめ3ヵ月にもわたって続きました。

○用水路と貯水池づくり

押し流されてきた泥は、ほとんど用水路をうずめてしまい、積もった泥は、土地の高さを変えてしまいました。そのため、用水路づくりは、初めからやり直さなくてはなりません。ショベルローダーやブルドーザーのない当時のことですから、うずくまっている岩石や流木をとり除きながら、土をほっていく仕事は、大変な苦勞でした。このようにして用水路ができましたが、山林が災害で立木が少なくなり、水もちが悪くなったうえに、新しい田の土もちが悪く、自然に流れてくる水だけでは、田に必要な水をまかないきれなくなりました。

そこで、村では、道庁におねがいで貯水池をつくることにしました。貯水池は、市街地から6kmほどはなれた所につくられましたが、土のせいしつが悪く、難工事でした。いく度も計画のやり直しをしながら、昭和2年から始めて、昭和7年にやっと完成しました。

○客土工事

災害地をおそった泥は、深い所では1m50cmもあり、しかも作物の育たない鉋毒をふくんでいました。田にするには、この泥を全部とり除くことがいちばんですが、そのためには大変な費用がかかります。そこで、次のような3つの方法で工事をすすめ土地の改良をすることにしました。

ア. 泥の深い所の工事

ここでは客土を、泥の上に10cmほどの厚さにまくようにしました。客土は軽便鉄道のレールをしき、運搬車を人がおして運びました。つらい仕事でしたが人や馬で運ぶよりは、ずっと便利で、このために工事は思ったよりもはかどりました。

イ. 泥が深く、客土をとる場所から遠い所の工事

客土を遠くから運ぶのは、費用もかかるし、大変な仕事でした。それでここでは、泥の下にある客土をほり出してまくようにしました。泥は深く客土する面積も広いので、楽な仕事ではありませんでした。

ウ. 泥の浅い所の工事

ここでは、おおっている泥をとり除くことにしました。しかし、費用を節約するために、泥を5,6cm残してプラウでたがやし、下の土をまぜるようにしました。客土工事は、人々の必死の努力で、昭和3年に完了しました。



「大きな石碑だね」



「吉田貞次郎先生ってかいてあるね。ほかにはどんなことがかかれていますのだろう。」



▲①吉田貞次郎碑

●よみがえった田畑

この時間の問い

ふっこうの努力を続けた後の上富良野はどのようなようになったのだろう。

その後も、人々の努力は続きました。鉞毒におかされた土地は、すぐにはもとにもどりません。人々は田に石灰やたい肥をまいて土づくりにはげみました。

活 動

①今までの学習をふりかえり、十勝岳噴火の歴史についてまとめよう。

人々の努力はむくわれました。以前は 10a(アール) 当たり 400kg 以上も取れた米も、噴火後には、わずか 60kg とれるか、とれないかというほどになっていました。

しかし工事の数年後には、300kg もとれるようになりました。噴火当時、人々は「開拓をやり直すのだ。だが 30 年はかかるだろう。」と言っていました。しかし、吉田貞次郎や村の人たちの開拓だましいはその半分ほどの年月で緑の田畑をよみがえらせたのです。

吉田貞次郎は、病気がもとで 64 歳でなくなりました。上富良野町開拓歴史広場に、『吉田貞次郎先生頌徳碑』が建っています。この碑は、吉田貞次郎の働きをたたえ、村の人たちが建てたものです。

(はってん)上富良野町の遺跡や自然を守る。

昔の人々が、くらしを豊かにするために多くの努力や工夫をしてきたことを学びました。ここでは、そのほかに昔から町の人たちが大切に守ってきたものをしょうかいたします。

●遺跡を守る

右の写真は、今から数千年前の大昔の人が使っていた石器のかけらや矢じりで、郷土館に大切に保存されています。



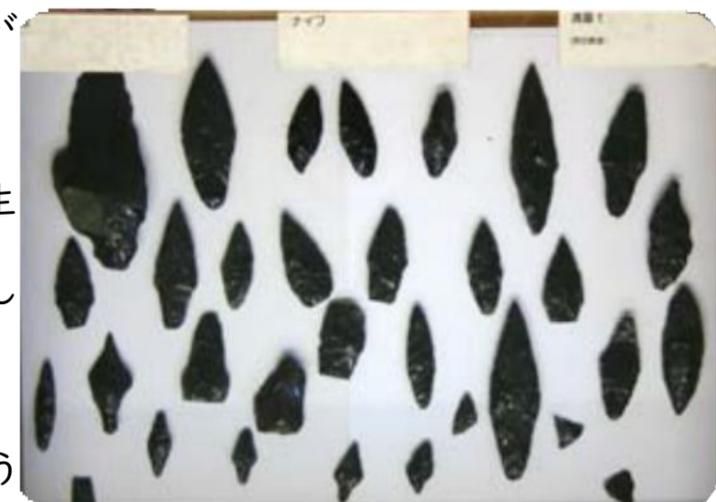
▲▼②上富良野で見つかった石器

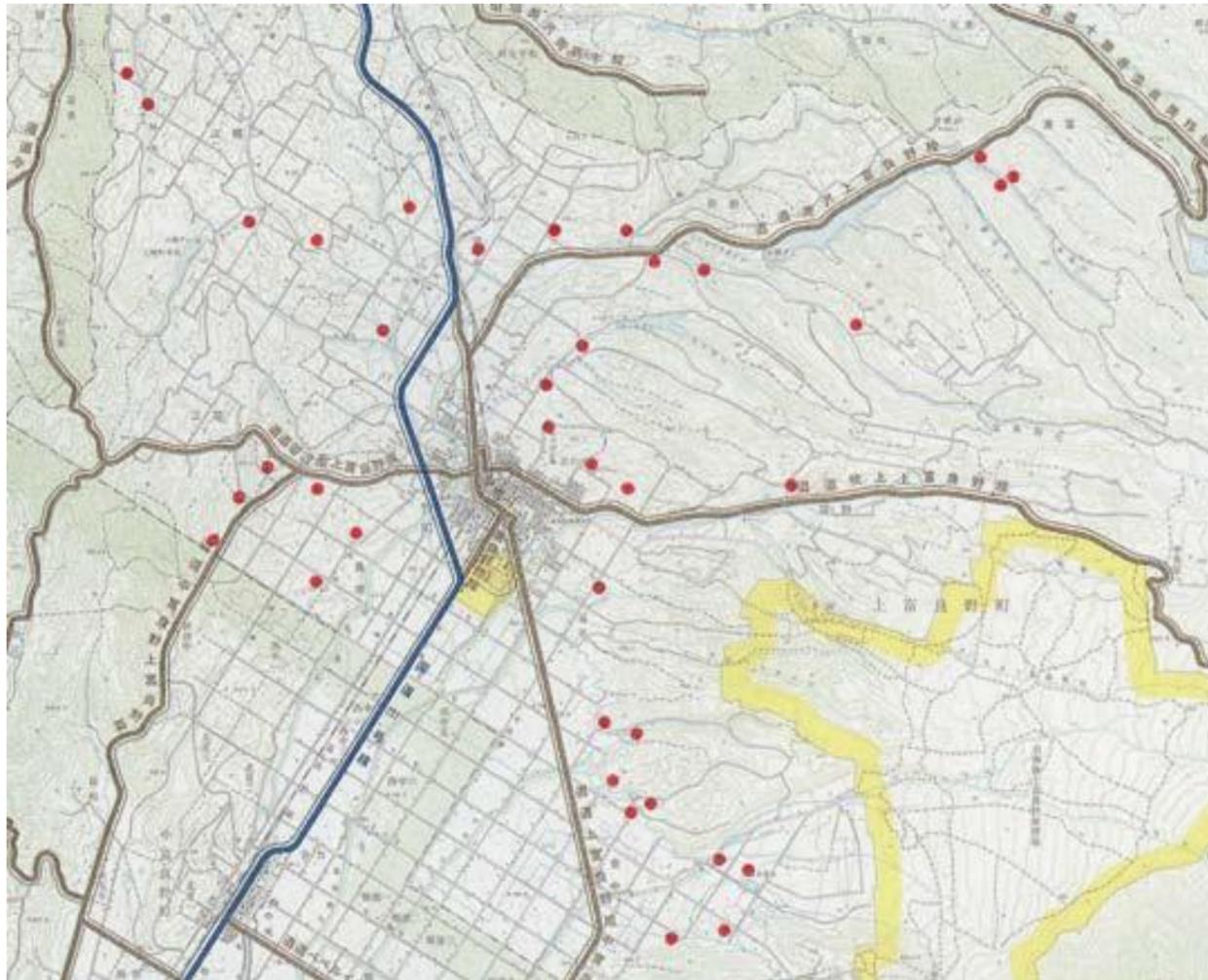
これらの石器のかけらや矢じりは上富良野で見つかったものです。

ですから、この地域にも古くから人が住んでいたことがわかります。

遺跡は、昔わき水や川の近くの、生活しやすかった所でよく見つかりました。

遺跡は一度こわされてしまうと、もうもとのようにはなりませんので、わたしたちは、大昔の人が残してくれた遺産を、大切に守っていかなければならないと思います。





▲①上富良野で遺跡が見つかったところ

●自然を守る

一度こわされると、もともにもどらないものに「自然」があります。

上富良野町は、十勝岳をはじめ、ゆたかな自然にめぐまれたところでは

夏の十勝岳^{いったい}一帯は、エゾノツガザクラ・キバナシャクナゲなど、美しい高山植物が一面に花をつけ、山を^{おとず}訪れる登山者を楽しませてくれます。真夏でも雪があちこちに残り、エゾナキウサギ・エゾシマリスなどが、つかれた人々の心をほぐしてくれます。

この美しい山をいつまでもきれいにたもつために、南部森林室富良野事務

所がおかれ、管理していますが上富良野の人々や山を訪れる人たちの協力も必要なのです。

また、上富良野山岳会では、山をきれいにするために、「クリーン大雪運動」を行っています。ごみひろいをしながら登山をする運動です。



▲②エゾノツガザクラ



▲③キバナシャクナゲ



▲④富良野岳山頂あたりから十勝岳方面を見る

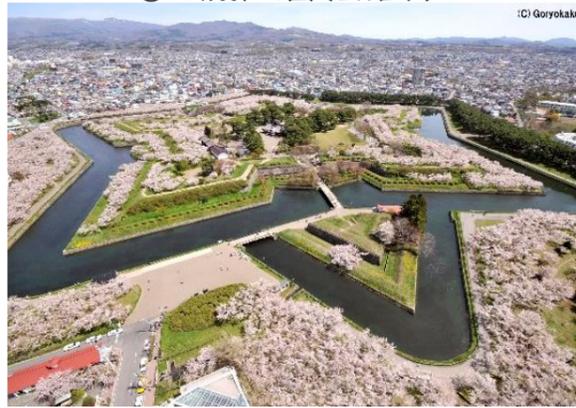
6

わたしたちの北海道のまちづくり

▼①さっぽろ雪まつり(札幌市)



▼②五稜郭公園(函館市)



▲③流水(斜里町)



▲④日本最北端の碑(稚内市)

が多いのかな。」



「小樽市には昔の建物が多く残されていて、それを楽しみに来る観光客も多いそうだよ。」



「ゆたかな自然を守ろうと、地域の人々が協力している所があるそうだよ。」
あおいさんたちは、北海道にどのような地域があるのかくわしく調べてみたくなりました。



この時間の問い
北海道にはどんなまちがあったかな。

あおいさんたちは、北海道の地図を見ながら、道内で自分たちが行ったことがある地域や知っている地域について発表しました。



「わたしたちの北海道はとても広くて、いろいろな様子の土地があったよ。みんなが発表した地域は、どんな様子の土地かな。」



「北海道の地形や土地利用、主な産業や交通の広がりや学んだけれど、他にも知らない地域がありそうだね。」



「札幌市の近くには新千歳空港があるので、他の県や外国から来る人

活動

- ① 行ったことのあるまちや知っている町の名前を出し合おう。
- ② 地図で場所を確認し、土地の様子について話し合おう。

知らない町がたくさんあるから、みんなで手分けして調べるといいかもしれないね。



この単元の学び

わたしたちが住む北海道には、どのような地域があり、それぞれどのようなまちづくりが行われているのだろう。

(1)家具作りがさかんな地域【せんたく】



▲①クラフトマップ旭川(提供:旭川市工芸センター)

●家具づくりがさかんなまち、旭川市

あおいさんたちは、旭川市の位置や土地の様子を地図で調べたり、市の様子がわかるパンフレットを見たりしました。パンフレットを見ると、旭川市には家具工場が多いことに気がつきました。



「地図に旭川デザインセンターというしせつがあるよ。家具について何かわかるかな」



「すてきな家具がたくさんあるよ。いろいろな種類があるね。」



「どのくらい前からつくられているのだろう。つくる人は、どれくらいいるのかな。」

この時間の問い

旭川市はどのようなところなのだろう。

活動

- ①旭川市の様子を、写真や地図で調べよう。
- 旭川市はどのような所なのか、パンフレットやインターネットなどで調べよう。
- 学習問題をつくり、学習の計画を立てよう。



「家具はどうやってつくるのかな。」

あおいさんたちは、疑問に思ったことや調べてみたいことをもとに、学習問題をつくらせて予想し、学習の計画を立てました。



▲②旭川デザインセンター



▲③旭川デザインセンターの中



▲④家具を選ぶ人



【旭川デザインセンターで働く人の話】

旭川デザインセンターでは、旭川やそのまわりのまちにある家具工場のうち、30社以上の製品をいつも展示しています。展示してある製品は買うこともできますし、お客様の相談に応じて家具をつくることもあります。

一度にたくさんの工場の製品を見ることができるので、さまざまな場所から多くのお客様が来てくれます。



家具ってどのような順番で作っているのかな。

どうして家具作りがさかんになったのか、わけを調べてみたいね。

この単元の学び

なぜ旭川市では家具作りがさかんなのだろう。



▲①旭川やそのまわりのまちでつくられる家具

この時間の問い

旭川家具はどのようにしてつくられ始め、広まっていったのだろう。

活動

- ①旭川家具の始まりについて調べよう。
- ②旭川家具が広く知られるようになったわけを調べよう。
- ③調べてわかったことをノートに書こう。

●旭川家具が広まったわけは

あおいさんは、旭川家具が、いつからつくられているのかデザインセンターの方に質問しました。



【旭川デザインセンターで働く人の話】

旭川で家具づくりが始まったのは、100年以上前です。当時、周辺に木材がほうふにあったことから、屯田兵とともに家や建具をつくるため職人が入植してきました。人々にとって、木工は生活のために必要な技術でした。その技術が受けつがれ、その後の旭川家具のきそとなりました。

戦後、旭川の家具生産をふやそうと、まちはずれに木工団地をつくったことで多くの家具工場ができ、今では100以上の家具工場が旭川家具を生産しています。

あおいさんたちは、100年以上も歴史があることや、100以上もの家具工場があることにおどろきました。知りたいことについて、さらに質問しました。

100以上も工場があるなんて知らなかったね。全国で有名になったのはどうしてかな？



「旭川家具が広く知られるようになったのは、なぜですか。」



【旭川デザインセンターで働く人の話】

木工団地ができたことにより、みんなで原料を安く買い入れ、できた製品を道内だけでなく、本州にも売り出すようになりました。

旭川家具は、すぐれた技術をもつ職人が、良質な木材を使ってつくります。デザインもよいのでお客様の評判がよく、その声が広まることで、次第に全国的にも有名になっていったのです。

今では家具職人を目指すわかい人たちが、ぎじゅつを身に付けたいと旭川に集まってくるようになりました。すぐれた技術が受けつがれていくことも、未来の旭川家具にとって大切なことです。

あおいさんたちは、旭川家具の歩みについて分かったことを、次のようにノートにまとめました。

【りんさんのノート】

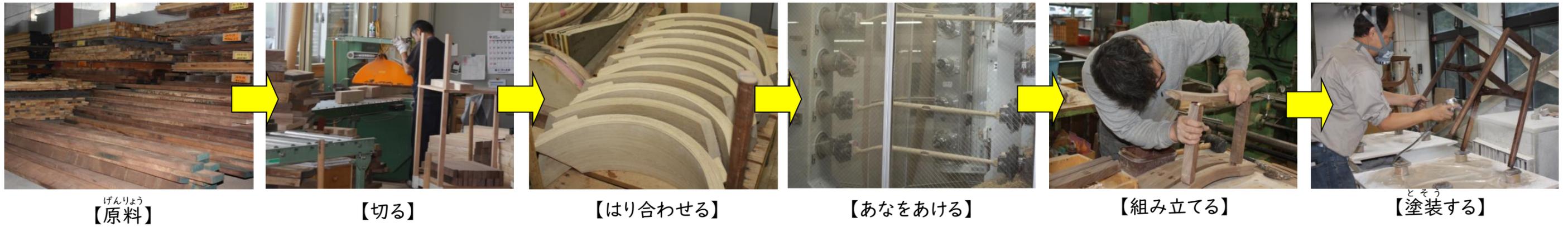
- ◎旭川家具は100年以上の歴史がある。
- ◎100以上の工場が家具を生産している。
- ◎木材がほうふである。
- ◎すぐれたぎじゅつをもつ職人が多い。
- ◎良質な材料を使ってつくられている。
- ◎家具職人を目指すわかい人たちが、ぎじゅつを身に付けようと旭川に集まってきている。



▲②家具のつくり方をしようかいうするポスター



▲③使われる木材をしようかいうするコーナー



げんりょう
【原料】

【切る】

【はり合わせる】

【あなをあける】

【組み立てる】

とそう
【塗装する】

この時間の問い

旭川家具はどのようにしてつくられているのだろう。

活動

- ①旭川家具の材料と、家具ができるまでの作業の様子を調べよう。
- ②家具づくりのくふうについて調べよう。
- ③工場を調べて、考えたことを話し合おう。

あさひかわ ●旭川家具ができるまで

あおいさんたちは、家具工場をたずねて、旭川家具のつくり方を教わりました。



【家具工場の人のお話①】

工場ではそれぞれ手分けをして、家具をつくっています。あなをあけたり、角を丸くしたり、部品をつなげるためにみぞをほったりなど、最近ではコンピュータを使った機械で行う作業が多くなりました。しかし、たくさんの製品を同じ品質でつくるためには、職人たちの手作業が必要です。また、職人の技術が信らされているため、お客様の願い通りにつくる家具の注文も多くなってきました。使いやすい家具づくりをつくるためには、機械だけでなく、人の技術と経験が欠かせません。

他の方からも、話を聞きました。



▲①あなやみぞがほられた部品



▲②みぞとみぞを組み合わせ、部品をつなげる

【組み立てのくふう】

じょうぶな家具にするために、部品どうしにみぞをつけたり、穴を開けたりしてからつなげます。

正確につくることが求められ、高い技術が必要です。



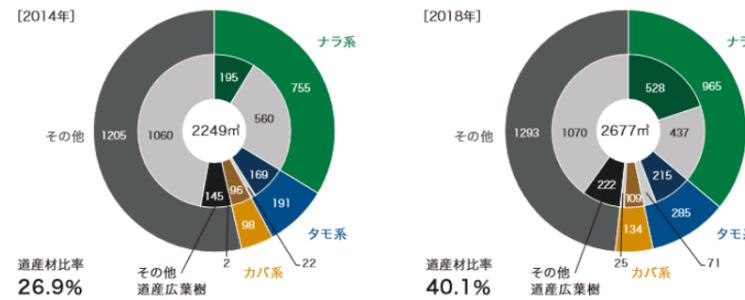
【家具工場の人のお話②】

材料は、つくる家具や使う人の願いによって木材を使い分けています。今までは外国産の木材を使うことが多かったのですが、最近では森を守るためにも道内の木材を積極的に使おうと努力しています。家具をつくるために木を切るスピードと、森が育つスピードを合わせるために、新たに木を植える活動も行っています。

また、よりよい技術のみがくために、わかい職人を家具づくりの大会に参加させています。国際大会には7大会連続で出場しています。

旭川家具・北海道産広葉樹の使用状況 [2018年12月現在]

旭川家具工業協同組合の総生産高の69%にあたるメーカーより回答
※グラフの外側の円が全使用量、内側の濃い色が「北海道産広葉樹」、同グレーは北海道外材の使用量となります。たとえば2018年のナラ系では「528㎡」が北海道産です。



▲③家具に使われている木の種類の割合と道産材の比率の変化 (出典:旭川家具工業協同組合)



「使う人のことを考えて、外国や道内の木材を使い分けているのだね。」



「今までの技術を大切にしながらも、新しい家具をつくり出そうとしているよ。」



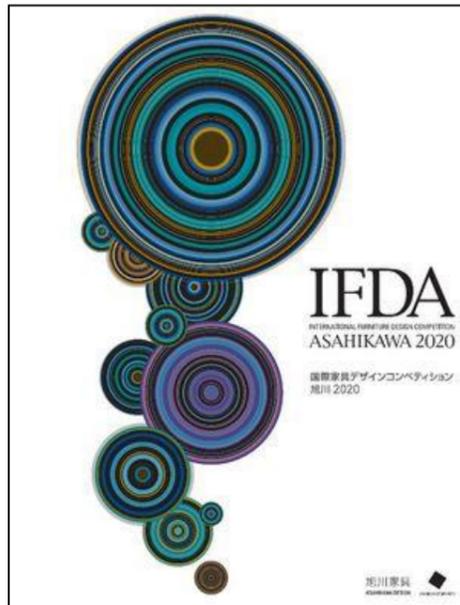
けんさ
【検査する】



しゅつか
【出荷する】



▲④家具職人の全国大会の入賞メダル



▲①家具のデザインコンペティションのポスター



▲②世界各地からおうぼされた作品



▲③いすが旭川家具(旭川市公会堂)



▲④東京での展示会

この時間の問い

旭川市の人々は、どのように旭川家具を広めようとしているのだろう。

活動

- ①家具工場以外の人の旭川家具に対する思いや願いを考えよう。
- ②旭川家具を広めるための取り組みについて、さまざまな人から話を聞こう。
- ③旭川家具を広めるためのそれぞれの取り組みを整理しよう。

あさひかわ ●旭川家具を広めるために

あおいさんたちは、家具工場以外の旭川市の人々も、旭川家具を広めたいと願っているのではないかと考えました。



「家具づくりがさかんなのは、旭川市のさまざまな人々が協力し合っているからではないかな。」



「木の家具の新しいデザインをきそう、国際的な大会が開かれているそうだよ。」

旭川家具をより広めていくための取り組みについて、三人の方から話を聞きました。



【旭川市工芸センターの人の話】

工芸センターでは家具の強度の検査や、家具づくりのぎじゅつ的なアドバイスをしています。また、家具組合の人といっしょに、旭川家具のよさを広めるイベントも行っています。

旭川家具は公会堂や科学館、市立図書館や市立病院、旭川駅などでも使われていますので、多くの人に使い心地のよさを知ってもらえると思います。

旭川の家具づくりをささえることで、全国の人に旭川家具のよさが広まり、家具をつくる仕事につく人がふえることを願っています。



【旭川デザインセンターで働く人の話】

旭川市では三年に一度、家具のデザインコンペティションを開催していて、世界中から作品をおうぼします。コンペティションを通して、旭川家具のデザイン性やぎじゅつの高さを世界中に知ってもらえることができるようになりました。

旭川家具を使ってもらうことで、その人の生活が安らいだりゆたかになってくれたりすると嬉しいです。特に冬が長い北海道では、家の中で過ごす時間が多いので、地元のみなさんにも使ってほしいですね。

海外からの注文もあり、家具を通して旭川という地域のよさや、心をこめて家具をつくっているということが世界に伝わっていてうれしく思っています。



【家具を使う人の話】

何年も毎日使うものなので、買うときは使いやすさや長持ちすることに加えて、自分の好みに合ったデザインかどうかをよく考えます。

お気に入りの家具の中で生活すると、ゆったりとして気持ちよくなります。これからも、すてきな家具をつくり続けてほしいですね。

(2) 伝統的な産業がさかんな地域 【せんたく】



▲①アットウシを使った着物(提供:(公財)アイヌ民族文化財団)



▲②空から見た平取町二風谷地区(二風谷コタン)

●アットウシを織るまち、平取町二風谷地区

平取町二風谷地区では、昔からアットウシ(※)が織られています。アットウシとは、じょうぶで水に強いアイヌの伝統的な織物で、着物やかごなどに使われてきました。

あおいさんたちは、アットウシにかかわる年表を見て、話し合いました。

「アットウシは、約500年も前から織られているのだね。」



「北海道の中でゆいいつ、国の伝統的工芸品に指定されているよ。」



アットウシの背中の模様は他のところでも見たことがあるよ。何か意味があるのかな

この時間の問い

平取町二風谷地区はどのようなところなのだろう。

活動

- ①平取町二風谷地区の様子を写真や地図で調べよう。
- ②二風谷地区のアットウシの歴史について調べよう。
- ③学習問題をつくり学習の計画をたてよう。



年	できごと
約500年前	アットウシが織られていたと伝えられている。
約250年前	アットウシが本州にも大量に運ばれ、東北地方や北陸地方などで着られる。 本州から金属製の針が伝わり、ししゅうが細くなる。
約70年前	民芸品ブームがおとずれ、二風谷地区の地域の産業として力を入れ始める。
1969年(昭和44年)	「アツシ織生産組合」がつけられる。
2013年(平成25年)	北海道の工芸品として初めて、国の伝統的工芸品に指定される。

▲③二風谷地区のアットウシにかかわる主なできごと



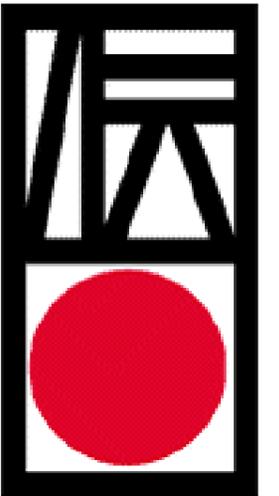
【二風谷アイヌ文化博物館の人の話】
「二風谷」という地名は、アイヌ語の「ヌプタイ(=野の林)」に由来するとされています。
アットウシは、木の皮を原料にして織られます。二風谷地区のアットウシには、昔からこのあたりに生えているオヒョウやシナの木が使われています。

「木の皮から、どのようにして織物をつくるのだろう。そして、着物を1まい仕上げるのに、どれくらいかかるのかな。」
あおいさんたちは、話し合ったことをもとに学習問題をつくり、学習の計画を立てました。

※【アットウシ】
本文では、アイヌ語の書き方の約束にならない、「シ」を小文字にしています。

この単元の学び

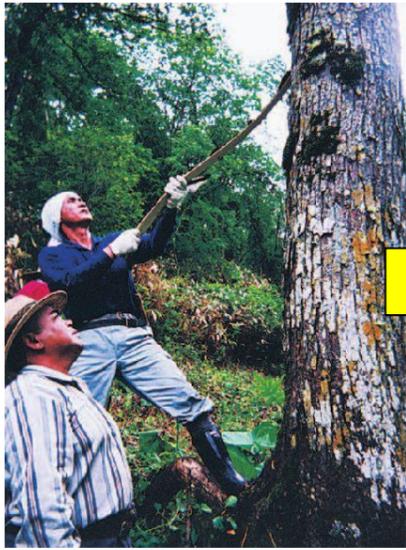
平取町二風谷地区では、どのようにアットウシが織り続けられ、伝えられてきたのだろう。



▲④伝統マーク

【伝統的工芸品】

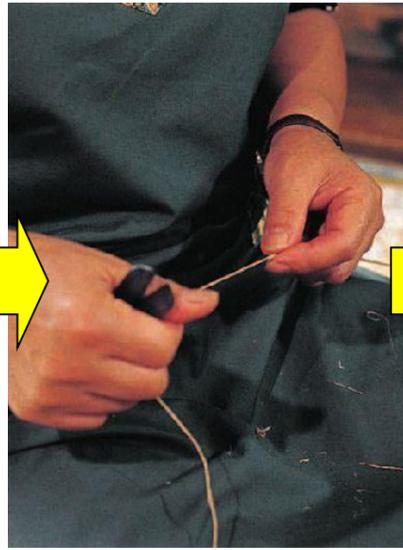
100年以上昔から伝わるぎじゅつや材料を用いて、主に手作業によってつくられ、日常生活に使われているもの。織物の他に、焼き物や染め物、木工品、和紙、人形などがある。



▲①6月ごろに、オヒョウの木の皮をはぐ



▲②はいだオヒョウの内皮を木灰で煮て、流水であらい、2週間ほど天日でほす



▲③細く引きさいた内皮に指で軽くよりをかけ、糸をつくる



▲④織り機を使い、タテ糸をゆるめたりはったりしながら布を織る



▲⑤布どうしをオヒョウの糸でぬい合わせ、着物の形に仕立てる



▲⑥さまざまな細さや色の糸を使い、もようのししゅうを入れて完成させる

この時間の問い

アットウシは、どのようなおにして織られているのだろう。

●アットウシができるまで

あおいさんたちは、アットウシおりぎじゅつでんしょうしゃ織技術ふじや伝承者の藤谷るみ子さんに、アットウシの織り方を教えていただきました。

活 動

- ①アットウシができるまでの作業の様子を調べよう。
- ②アットウシができるまでのくふうを調べよう。
- ③アットウシを織る人の思いや願いを考えよう。



【藤谷さんの話】

アットウシ織りは、木の皮を集めるところから糸づくり、はた織り、仕立てからししゅうまで、全てを一人で、手作業で行います。日本全国を見わたしても、全ての作業を一人で行う織物はとてもめずらしいです。

昔は、着物1まい分の布ぬのができるまで2カ月以上かかりました。そこから着物の形に仕立て、ししゅうを入れて完成かんせいするまで、3年もかかったという話もあります。道具が不自由だったということもありますが、それほど時間をかけて、ていねいにつくっているということです。



「アットウシが完成するまでに、たくさんの作業があることがわかったね。」



「一つずつ手作業でていねいに仕上げていますよ。どれも、とても根気がいる作業だね。」



【藤谷さんの話】

アットウシ織りは代々、母からおすめへと織り方が受けつがれてきました。そのため、アットウシ織りは女性じよせいの仕事でした。

しかし、民芸品ブームがおとずれ地域の産業として力を入れ始めるようになってからは、男性も協力するようになりました。

木の皮をはぐにはとても力が必要で、男性にとっても大変な作業です。大切な木をいためないようにするため、1本の木から少しずつ皮を集めます。そのため、着物1まい分の皮をためるのに、20~30本ほどの木が必要となります。

アットウシの着物は、主に晴れ着として着られてきました。アイヌの女性にとって、アットウシの着物を夫や立派に成長した子どもに着せることは、昔も今も最高のほこりなのです。



「アットウシは、大切な人のことを思いながら、手間をおしまず織られているのだね。」

①～⑥の提供：
(公財)アイヌ民族文化財団



▲⑦アットウシを着て行われるぎしき (提供:平取町)



▲①染めた糸でつくられたアットウシとバッグ
(提供:ニ風谷民芸組合)

▲②わかい人へのぎじゅつ指導(提供:ニ風谷民芸組合)

▲③アイヌ工芸伝承館「ウレシパ」(提供:平取町)

▲④オヒョウの植樹

この時間の問い

アットウシを残し、伝えるために、どのような取り組みが行われているのだろう。

●アットウシをこれからも伝えるために

あおいさんたちは、アットウシをこれからも伝えていくために、どのような取り組みがあるのか、調べました。

活動

①アットウシを残し、伝えるための取り組みを調べよう。

②アットウシをこれからも伝えるために、どのようなことが大切か考えよう。



【藤谷さんの話】

アットウシを使った工芸品はたくさんありますが、今は伝統的な着物だけではなく、バッグやコースターなど、現代の生活に合わせたものもつくっています。

伝統を守っていきながら、お客様が求める作品をつくっています。

他にも、アットウシについての講演や展示会を道内外で行っています。このような活動を通して、アットウシのよさを広めていきたいと思っています。

以前にくらべて、アットウシを織る人もだんだんへってきました。ですから、アットウシを織るわかい人を育てていくことも大切です。アットウシは、すぐに織れるものではありません。一人前の職人になるまで、少なくとも3年は修業が必要です。織り方の技術はもちろん、伝統を大切に作る心もいっしょに伝えていきたいですね。



【平取町役場の人の話】

平取町では、工芸家を目指す人たちがぎじゅつを学んだり、町民や観光客が気軽に工芸を体験したりできる場所として、2019(平成31)年4月にアイヌ工芸伝承館「ウレシパ」を開設しました。

ここで、多くの人々がアイヌ工芸を受けつぐ心を感じ、ぎじゅつと心を育て合い、そしてアイヌ工芸を未来へとつないでいくことを願っています。

他にも、アットウシの原料となるオヒョウをはじめ、自然と共生しているアイヌの人々の伝統的な生活の場(イオル)を再生しようと、「平取地域イオル再生事業」にも取り組んでいます。そのひとつに「イオルの森」があり、オヒョウなどの植樹や育成などを行っています。

活動を進めるにあたり、地域の人々の協力が欠かせません。



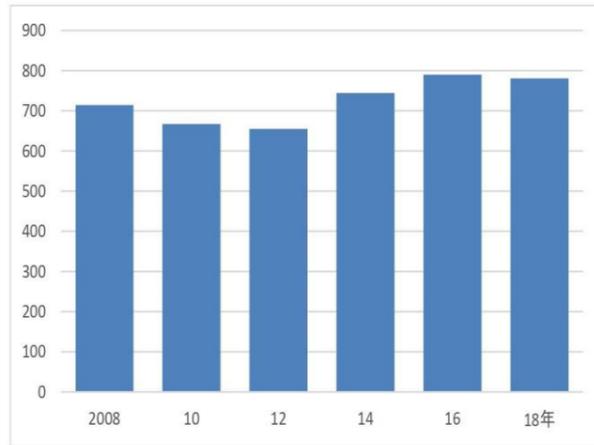
「アットウシを残し、伝えるために、織る人や町はさまざまな取り組みをしているね。」

あおいさんたちは、学習問題をふり返りながら、アットウシとそれを織る人、さまざまな取り組みについて話し合いました。

(3) 昔のよさを生かしたまちづくり



▲①観光客でにぎわう運河
(提供:小樽市総合博物館)



▲②小樽市をおとずれる人の数の変化
(出典:小樽市産業港湾部観光振興室)



▲③空から見た小樽港 (提供:北海道開発局小樽開発建設部小樽港湾事務所)



▲④歴史ある倉庫を利用した店

この時間の問い

歴史あるまちなみが残る小樽市は、どのような所なのだろう。

活動

- ①小樽市の様子を、写真や地図で調べよう。
- ②小樽市にある、歴史あるものについて調べよう。
- ③学習課題をつくり、学習の計画をたてよう。

●歴史ある建物やまちなみが残るまち、小樽市

あおいさんたちは、小樽市の写真を見て、気づいたことを話し合いました。

「小樽は海のそばにあって、石造りの倉庫がななぶ運河が有名だね。」

「多くの方が観光におとずれているね。外国から来た人も、よく見かけるよ。」

「とても有名な運河だけれど、以前に『うめ立てられてなくなりそうになったことがある』って、聞いたことがあるよ。」

「どうしてなくなりそうになったのかな。」



「運河だけではなく、小樽には昔に建てられた建物がたくさんあるね。」



「建物の中には、100年以上も前に建てられたものもあるそうだよ。」



「歴史あるまちなみや景観を残して、観光客をたくさんよんでいるのかな。」



「小樽市や市民は、どのようにして歴史あるまちなみを残しているのかな。」
あおいさんたちは、話し合ったことをもとに学習問題をつくり、学習の計画を立てました。

【景観】
その土地独自の自然や歴史などがつくってきた、特にすぐれたながめや景色、風景など。

運河はなぜのこされているのかな。

歴史あるものとまちづくりには、どんな関係があるのかな。

この単元の学び

小樽市では、歴史あるまちなみや景観を生かして、どのようなまちづくりがされているのだろう。





▲①多くのはしけ舟で活気あふれる運河



▲②「小樽運河を守る会」のチラシ

年	できごと
1914 (大正3)年	運河の建設工事が始まる。
1923 (大正12)年	運河が完成する。
1966 (昭和41)年	小樽市が運河をうめ立てて道路をつくる計画を立てる。
1973 (昭和48)年	市民25名によって「小樽運河を守る会」がつくられる。
1978 (昭和53)年	第1回「ポートフェスティバル」が開かれる。
1980 (昭和55)年	北海道知事が、運河の半分を道路にし、残りの半分を整備することに決める。
1983 (昭和58)年	運河の保存に対して、約10万人の署名が集まる。
1989 (平成元)年	道路が全線完成し、今の運河となる。

▲③運河にかかわる主なできごと

この時間の問い

運河はどのようにして守られたのだろう。

①・②の提供: 小樽市総合博物館

活動

- ①運河が使われなくなっていったわけを調べよう。
- ②運河の保存をめぐる、小樽市でどのようなできごとがあったのか調べよう。
- ③運河の保存に対する人々の考えがどのように変わったのか話し合おう。

●運河を守るために～運河保存運動～

小樽港では昔、沖にとめた大きな船から小さなはしけ舟に荷物を積みかえて海岸まで運び、倉庫へ入れていました。船の数がふえ、効率よく荷物を入れられるように、運河が建設されました。

しかし、港が整備されるなどさまざまな理由から、運河は使われなくなっていきました。さらにまちでは、自動車を使う人がふえ、交通じゅうたいが起こるようになりました。そこで小樽市は、運河をうめ立て、道路をつくろうとしました。



【小樽市総合博物館の人の話】

道路をつくるために倉庫が取りこわされる様子を見た一部の市民が、「このままでは、小樽の大切な個性や歴史がなくなってしまう。」と気づきました。

「大切な運河を守りたい。」と集まり、もよおしや学習会、署名など、さまざまな活動をしました。その活動はいつしか、「運河保存運動」とよばれるようになりました。



【「小樽運河を守る会」に参加した人の話】

「運河は小樽にとって大切だ。」「運河を利用して何できないか。」と思うわかい人を中心に、第1回「ポートフェスティバル」が開かれました。

このもよおしには約8万もの人々が集まり、これをきことが全国に知られるようになりました。「ポートフェスティバル」には、うめ立て派の人たちも協力してくれました。保存派とうめ立て派、どちらも「活気あるまちづくりをしたい。」という思いは同じでした。



【小樽市総合博物館の人の話】

保存派の活動は、市民だけではなく全国の人々に「運河は大切だ。」という気持ちをよび起こし、世ろんとなり、多くの注目を集めました。

最終的には「運河の半分は道路にし、半分は整備する」ことになり、全て保存とはなりませんでしたが、運河を守るために提案された数々のアイデアは、「小樽をこういうまちにしようよ。」という「まちづくり運動」へとつながっていきました。



「運河の保存を通して、小樽の人たちは歴史あるものを守る大切さに気づいたのだね。」

【せろん】

多くの人が賛成する考えや意見。

【保存派】

- 運河の風景には、小樽がにぎわっていたころの思い出がたくさんある。
- 運河を中心とした歴史あるまちなみの再生は、観光の目玉になる。

【うめ立て派】

- 交通じゅうたいをなくすには、広い道路が必要だ。
- 港にもっと船が来てもらうには、便利な道をつくるべき。
- 小樽市議会で決まったことだから。



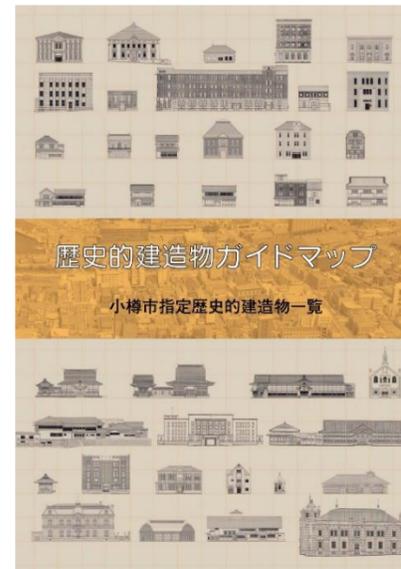
▲①1885(明治18)年に建設された、旧手宮鉄道施設(提供:小樽市総合博物館)



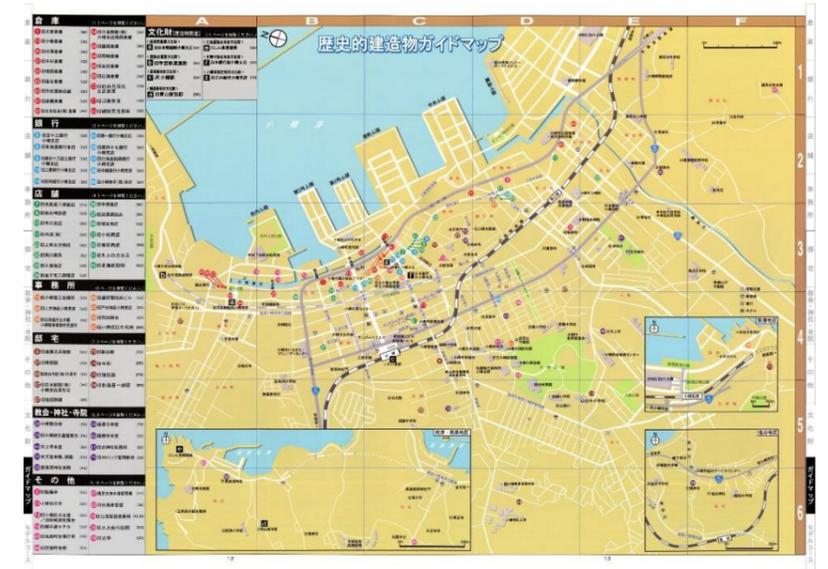
▲②1906(明治39)年に建設された、旧日本郵船株式会社小樽支店



▲③1912(明治45)年に建設された、日本銀行旧小樽支店



歴史的建造物ガイドマップ
小樽市指定歴史的建造物一覧



▲④歴史的建造物ガイドマップ

この時間の問い

景観を生かした小樽市のまちづくりは、どのように行われているのだろう。

●景観を生かした小樽市のまちづくり

「屋根のない博物館」と言われるほど、小樽市には歴史ある建物が多く残されています。市は、歴史あるまちなみを守るための条例を定めています。

【小樽の歴史と自然を生かしたまちづくり景観条例】

小樽には、先人の豊かな感性とたゆみない努力によって築き上げられた独自の文化や歴史、港湾都市としての魅力ある雰囲気などの財産がある。…中略…

次代を担う子供たちが郷土を愛し、未来に夢と誇りを持てるように、小樽の個性と文化を育て、更に好ましい都市景観を後世に残し、潤いと活力のあるまちづくりを進めることが、今、私たちに求められている。…中略…

都市景観の形成の主役は、私たち市民である。

※前文より原文ママ。一部中略

【条例】

と道府県や市町村などの地方自治体が、独自に定める法。

活 動

①小樽市のよさをを守るための、市の取り組みを調べよう。

②調べたことをもとに、人々は小樽市のよさをどのように守ってきたか考えよう



自分たちのまちを大切に思いながら、小樽の人々はまちづくりを進めているのだね。」



【小樽市役所の人の話】

小樽市では、歴史的に価値のある建物を「小樽市指定歴史的建造物」として指定し、大切に残していくようにしています。建物の持ち主に対して、建物を残すための費用を市が一部助成するなど、市と市民や会社が協力して建物を残すようにしています。

また、指定されている建物のガイドマップを作成し、市民や観光客などに広く知ってもらおうと取り組んでいます。



【小樽市総合博物館の人の話】

運河保存運動は、小樽市と市民に「歴史あるものがもつ価値とは何か、それらを保存する意味とは何か」を、今一度考えさせてくれるきっかけとなりました。歴史ある建物を再利用している観光しせつや店が多いのも、そのためです。

運河報道によって「一度、小樽の運河を見たい」と思った人々が、全国から小樽にきました。今では国内はもちろん、外国からも多くの観光客が小樽をおとずれるようになりました。



「市と市民や会社が同じ目的に向かって協力しているから、今の小樽があるのだね。」



▲⑤「小樽市指定歴史的建造物」にとりつけられている表示

【報道】

新聞やテレビ、ラジオ、雑誌などで、できごとが広く世間に伝えられること。

教科書を参考に、これまでの学習をまとめましょう。

(4)自然を生かしたまちづくり 【せんたく】



▲①空から見た釧路湿原



▲②地図で見る釧路湿原のはんい

この時間の問い

釧路市はどのようなところなのだろう。

●釧路湿原が広がるまち、釧路市

あおいさんたちは、釧路市の写真を見たり、地図で釧路地方の位置や土地の様子、土地利用を調べたりしました。

活 動

①釧路市の様子を、写真や地図で調べよう。



「北海道の地図を見ると、釧路市は東の方に位置しているよ。」

②釧路湿原はどのような所なのか聞いてみよう。



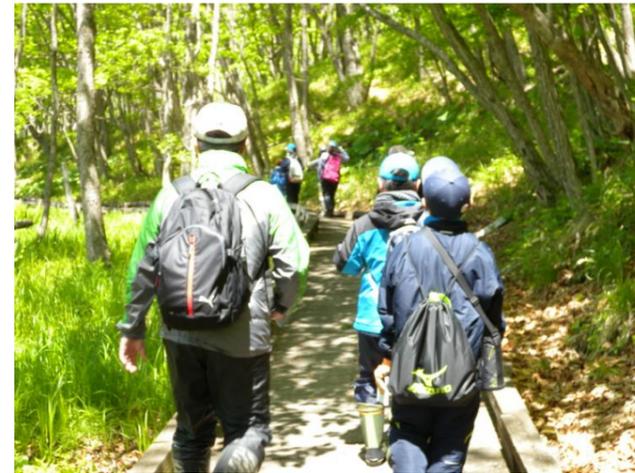
「地図を見ると、市の北側は湿原、南側には太平洋があるね。」

③学習問題をつくり、学習の計画を立てよう。



「湿原は4つのまちに囲まれているね。」

あおいさんたちは、釧路で自然の保護にたずさわる人に、釧路湿原はどのような所なのか聞いてみました。



▲③木道を歩いて湿原を楽しむ人々



▲④釧路川でカヌーを楽しむ人々



【釧路湿原国立公園の自然保護官の人の話】

釧路湿原は日本で1番大きな湿原で、面積は約258km²。これは、日本の全ての湿原の約30%になります。

釧路地方は、気温が低く湿度が高い地域です。そのため、植物の分解に時間がかかるので、湿原の地下には泥炭という土が広がります。この泥炭のおかげで、釧路湿原には水をきれいにしたり、こう水を防いだりとさまざまな効果があります。また、カヌーやトレッキング、乗馬体験などができ、年間40万人が世界中からおとずれます。

釧路湿原は生き物の宝庫です。国の特別天然記念物のタンチョウをはじめ、絶滅危惧種のオオワシやオジロワシなど2000種類をこえる生き物がすんでいます。



「絶滅危惧種も生息しているのだね。」



「釧路地方は、自然環境にめぐまれているね。どのように自然を大切にしているのかな。」

【絶滅危惧種】

動植物の中で、1個体も生存しなくなった状態を「絶滅」といい、そのおそれが最も大きな状態の種のこと。

あおいさんたちは、疑問に思ったことや調べてみたいことをもとに、学習問題をつくらせて予想し、学習の計画を立てました。

この単元の学び

釧路地方の人々は、どのように自然とかかわっているのだろう。



▲①釧路湿原に生息するタンチョウの親子



▲②釧路湿原にしか咲かないクシロハナシノブ



▲③植物の状態をかんさつする



▲④湿原の清掃活動

この時間の問い

くしろしつげん
なぜ、釧路湿原には
さまざまな生き物が
すんでいるのだろう。

自然を守る地域の人々

あおいさんたちは、釧路湿原に多くの貴重な生き物がす
んでいるわけを教えてくださいました。



【釧路湿原国立公園の自然保護官の人の話】

かつて、釧路湿原は畑や住宅へと開発されていきました。それ
に対して、地元の研究者や自然保護団体が湿原を守るために活動を始め、198
0(昭和55年)に日本で最初のラムサール条約登録湿地になり、その後、国立
公園にも指定されました。

こうして釧路湿原には、ほぼ手つかずの湿原が広く残ることになりました。湿
原の中には、生きるために広い面積を必要とするタンチョウなどが子育てをして
います。

また氷河期時代からの生き残りといわれるクシロハナシノブやハナタネツケ
バナ、キタサンショウウオなど、すずしい気候の釧路湿原だからこそ生息してい
る生き物もいます。



「取り組みは、他にもあるのかな。」

活 動

- ①釧路湿原に貴重な生き物がすんでいるわけを調べよう。
- ②湿原を守る、活用する人たちの取り組みを調べよう。
- ③調べてわかったことをノートに書こう。

調べてみると、地域の人がおおぜい集まって、湿原を守るために活動していること
がわかりました。参加している方に話を聞きました。



【釧路湿原の環境保護に協力している人の話】

2019(令和元)年現在、釧路湿原国立公園は多くの
人たちによって保護されています。釧路湿原国立公園では、75人が
パークボランティアとして、ゴミ拾い活動や釧路湿原のみりよく発信な
どを行っています。また、かつての釧路湿原を取りもどすために、さまざ
まな人が取り組みを進めています。



▲⑤川からあふれた水が湿原に流れ込む様子
(提供:北海道開発局釧路開発建設部)

湿原は、大雨の時に川からあふれた大量の水を貯めることができるので、水害を防ぐ役割もあります。

③・④の提供:環境省釧路湿原自然保護官事務所

【パークボランティア】

国立公園において、解説活動や美化清掃、利用しせつの簡単な維持修理や自然保護の大切さを知らせることを目的として、これらの活動に協力する人々。

2019(令和元)年現在、全国の25国立公園の40地区において、それぞれの地区の特ちょうに合った計画に沿って、さまざまな活動を行っています。



「釧路地方の多くの人の協力があって、湿原は守られているのだね。」



ひろげる

日本最大の国立公園

北海道の中央に位置する大雪山国立公園は、陸では日本最大の山岳公園です。多くの山々が連なり、その中で貴重な動植物が生息しています。その自然を楽しみに、年間7～10万人ほどが各地よりおとずれます。



▲①ホソバウルップソウ

【大雪山国立公園】

道中央部に位置し、北海道最高峰の旭岳(2291m)を中心に、「北海道の屋根」といわれる一帯です。

アイヌの人々に「カムイミントラー神々の遊ぶ庭」といわれ、氷河期の生き残りとしてされるナキウサギやウスバキチョウなど、希少な生態系の宝庫です。

大雪山国立公園地図
<https://www.env.go.jp/park/daisetsu/point/index.html>
 (環境省HP)

荒れていく登山道

全てをつなげると約300kmにもなる登山道では、さまざまな場所で道がくずれ土が流され、植物がへっているという問題が起きています。こわれた木道につまずいて、大けがをするという事故が起きたこともあります。そこで近年、国や道、地域に住む人たちが協力し合い、登山道を整備しようという取り組みが始まりました。

全てをつなぐと300kmもあるんだね。車では行けないところばかりなのに、どのように整備するんだろう?



【大雪山国立公園の自然保護官の人の話】

大雪山の高山帯は広大で、その高山植物群落の規模とゆたかさは他にはないものです。2019(令和元)年現在、高山帯に分布する植物としては約250種類以上が記録されており、ホソバウルップソウなどそのうち11種類は、大雪山にしか見られません。

人が歩いたり、雨がふったりすることで登山道の土が流され、だんだん深くほれることで、登山道わきの高山植物は減少します。

登山道を適切に管理するために、大雪山のような広大な公園の場合、たくさんの人の協力が必要です。

近年では、民間やボランティアによる登山道補修イベントが行われ、多くの人が自然を守る取り組みに参加し、保全の輪が広がっています。

登山道や自然を守る取り組みは、登山者や野生動植物のためだけではなく、山にふり積もった雪は、時間をかけて地下を流れ、わたしたちの飲み水などの生活水となります。自然を守ることは、わたしたちの生活をも守ることにつながります。



【保護にたずさわる

「大雪山山守隊」の人の話】

自然ゆたかな国立公園の登山道を直すためには、自然の力を助ける方法で行いたいと考えています。

多くの人手や費用が必要な仕事ですが、国や道、そして山を楽しむ一般の人たちをつなぐことで、少しずつ直していくことができるのではないかと考えました。

山を歩くことが山を痛めていると感じていた人たちが、「山を直す」という新しい楽しみを体験してくれるようになったことがうれしいですね。これからも、多くの人たちが大雪山を楽しめるように活動を続けていきます。

よりよい地域づくりを目指すこれらの取り組みは、広がりを見せています。



▲②植物が根付くようにヤシネットを設置



▲③各地から参加する多くのボランティア



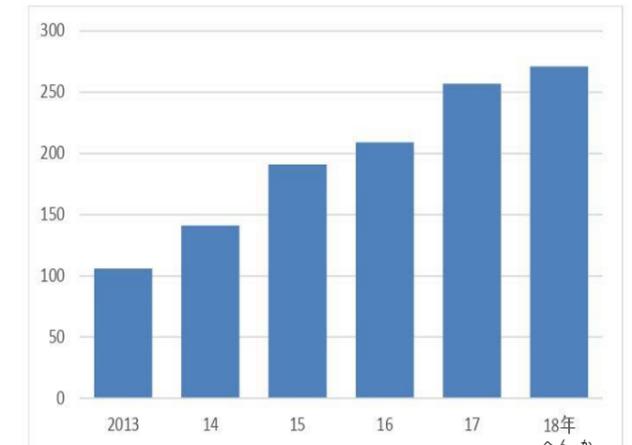
山を利用する人たちと国や道が力を合わせて少しずつ直しているんだね。今度山に行くことがあったら登山道の様子を注意して見てみようかな。

教科書を参考にして、これまでの学習をまとめよう。

(5)世界とつながる地域



▲③外国の人に案内をする外国語ボランティア



▲④札幌市に宿はくする外国の人の数の変化 (出典:札幌市「札幌の観光」)

この時間の問い

札幌市はどのようなところなのだろう。

●国際交流がさかんなまち、札幌市

あおいさんたちは、札幌市で行われる「さっぽろ雪まつり」の写真を見て、気づいたことを話し合いました。

活動

- ①札幌市で行われる、外国の人が参加するもよおしを調べよう。
- ②外国の人は、どのような目的で札幌市をおとずれるのか調べよう。
- ③学習問題をつくり、学習の計画を立てよう。



「たくさんの人が雪まつりを楽しんでいるね。」

「外国から来て、雪まつりに参加している人もいるよ。」



【外国語ボランティアの人の話】

雪まつりは毎年、国内外から250万人以上がおとずれる世界的なもよおしです。外国からのお客様に言葉のていこうなく楽しんでもらえるように、期間中にのべ150人の外国語ボランティアが、雪まつりの案内や札幌のみりょくのしようかいをしています。



「札幌市では他にも、音楽祭やスポーツの大会など、外国からたくさんの方が集まるもよおしが行われているね。」



「札幌市をおとずれたり、住んだりする外国の人の数もふえているそうだよ。」



「市では、外国の人とどのような交流をしたり、住む人のためにどのような取り組みをしたりしているのかな。」



▲⑤パシフィック・ミュージック・フェスティバル

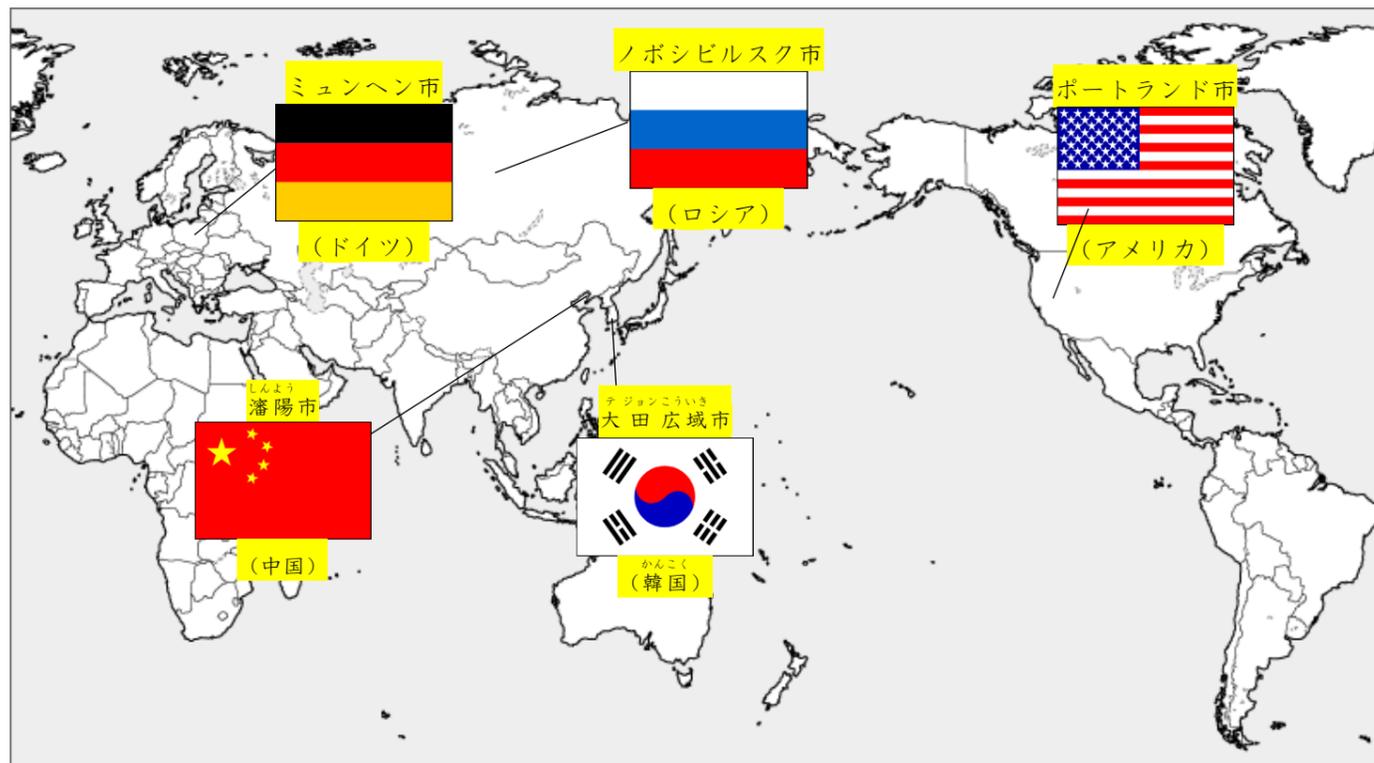
あおいさんたちは、話し合ったことをもとに学習問題をつくり、学習の計画を立てました。

札幌や北海道は外国と、どのようなつながりがあるのかな。

札幌では外国の人たちと、何か交流をしているのかな。

この単元の学び

札幌市では、外国の人々とどのように交流し、共にくらすためにどのような取り組みをしているのだろう。



▲①札幌市の姉妹・友好都市とその国、国旗



▲②着物の着付け体験



▲③ミュンヘン大橋



▲④ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo

相手の国や地域の文化を知るためのもよおしが開かれていることもわかりました。



【札幌市役所の人のお話】

例えば、ドイツのミュンヘン市とは次のようなかわりがあります。

1987(昭和62)年、姉妹都市の関係を結んで15周年に豊平川に建設し始めた橋は、「ミュンヘン大橋」と名づけられました。塔からななめに張ったケーブルで橋をささえる造りは、ドイツを中心に広まったものです。歩道中央部のバルコニーには、ミュンヘン市の建物のレリーフがかざられています。

2002(平成14)年には、姉妹都市30周年を記念して「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」が開かれました。ドイツの伝統行事であるクリスマス市を再現し、ドイツやミュンヘンの文化をしょうかいするために始まりました。このもよおしは以後毎年行われ、100万人以上がおとずれる冬の名物となりました。

2017(平成29)年に、姉妹都市の関係を結んで45周年をお祝いしました。

【姉妹・友好都市】

環境や歴史がにていることなどから交流を始め、おたがいの理解やつながりを深め合っている都市のこと。

【国旗】

その国を表す印として使われる旗で、その国の人々の思いがこめられています。どの国の国旗も、大切に扱われなくてはなりません。

この時間の問い

札幌市では、どのような国際交流が行われているのだろう。

●国際交流の取り組み

札幌市は、五つの外国の都市と姉妹・友好都市の関係を結んでいます。



「いろいろな国の都市と交流しているね。どのように交流しているのかな。」

活動

①札幌市が姉妹・友好都市の関係を結んでいる都市を調べよう。

②市が取り組む交流について調べよう。



【札幌市役所の人のお話】

市では、交流がある国へスポーツの選手団をはけんだり、札幌で行われる大会に外国の方を招待したりするなど、スポーツや文化を通じた交流がさかんに行われています。

他にも、中学生や高校生がおたがいの国をおとずれて、ホームステイをする交流があります。札幌市に来たときには、市内のしせつを見学したり茶道や着物の着付けなど日本文化を体験してもらったりしています。

市で働く国際交流員が市内の小中学校に出向き、それぞれの国の言葉や文化を知ってもらう取り組みなども行われています。

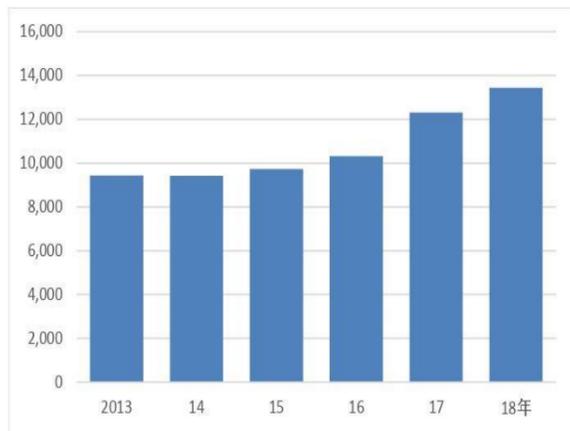
上富良野はカナダのカムローズ市と友好都市として交流を続けてきているんだよ。



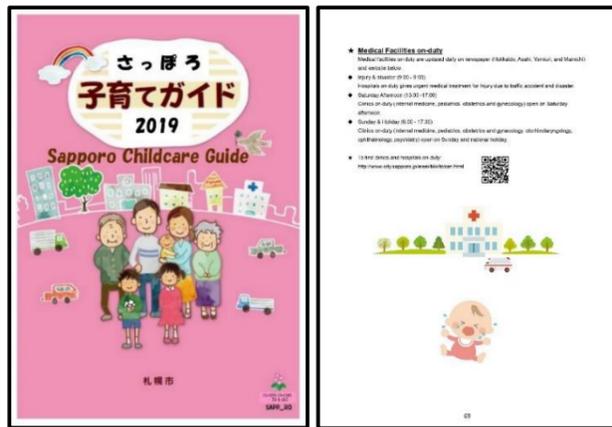
「スポーツや文化、もよおしなど、たくさんの場面で交流があるね。」



「他の姉妹都市や友好都市とは、どのような交流があるのか調べてみたいな。」



▲①札幌市に住む外国の人の数の変化 (出典:札幌市「札幌市統計書」)



▲②英語に訳されたさっぽろ子育てガイド



【札幌国際プラザの人の話】

外国の人への手助けというと、少し前までは道案内や観光ガイドが中心でした。

しかし最近では、市役所の手続きや保育所の見学について行ったり、子どもたちの学習を手伝ったりするようにもなりました。市が配布するパンフレットを英語に訳したり、多言語メールで生活情報を発信したりするなど、生活そのものの手助けがふえてきました。

わたしたちが外国の人と接して感じたことは市に伝え、これからの取り組みに生かしてもらっています。

外国の人が日本で生活するとき、言葉・制度・心の「3つのかべ」を感じると言われています。活動を通して、さまざまな国の人々が文化や習慣のちがいににかかわらず、おたがいをみとめ合い、地域の一員として生活できることを目指しています。



▲③もちつき体験



▲④防災訓練に参加する外国の人

この時間の問い
さっぽろし
札幌市では、外国の人と共にくらすために、どのような取り組みをしているのだろうか。

●外国の人と共にくらすために

札幌市では、市と札幌国際プラザが協力して、外国の人に向けてさまざまな交流活動を行ったり、外国の人の生活をささげるための取り組みを行ったりしています。



【札幌国際プラザの人の話】

札幌市には、およそ1万3000人の外国の人がくらしています。外国の人にとってくらしやすいまちになるように、札幌国際プラザでは市や市民ボランティアの方々と協力しながら活動しています。

交流活動として、着物の着付けや日本の遊び、もちつき体験などを行い、日本の文化をしょうかしています。これらは、外国の人が市民と交流したり、楽しみながら日本の文化や言葉を学んだりする機会となっています。

災害が多い日本でくらすためには、防災や災害時にすることなどを知ってもらうことが大切です。ツアーを計画して、「札幌市総合防災訓練」への参加をよびかけています。救助や消火の訓練は、町内会や小中学生の人たちと一緒に行います。参加者どうしの交流も生まれ、共助の気持ちをもつ場にもなっています。



「さまざまな活動を通して日本のことを知ってもらい、外国の人にとって住みやすいまちにしようとしているね。」



「わたしたちも同じように、外国の人の文化や習慣を知り、わかり合うことが大切だね。」

活 動

- ①外国の人と共にくらすための取り組みを調べよう。
- ②外国の人と、これからもよりよい交流を続けていくために、大切なことを考えよう。



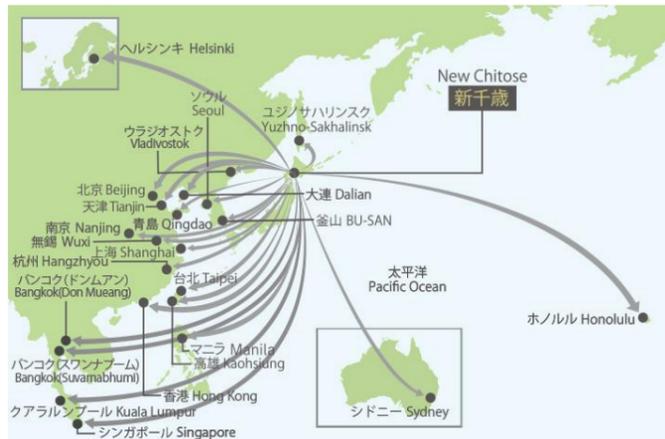
外国の人が1万3000人も住んでいるんだね。上富良野でもスーパーなどで見かけることがあるよね。



▲⑤さまざまな食文化や食習慣をもつ人のためのレストランガイド



▲①新千歳空港に来るさまざまな外国の飛行機
(提供:北海道開発局札幌開発建設部)



▲②2019(令和元)年12月時点の、新千歳空港国際線航空路線(※季節運航路線あり)



▲⑤苫小牧港にとまる国際コンテナ船



▲⑥外国とつながる苫小牧港(※中継い港をふくむ)

この時間の問い

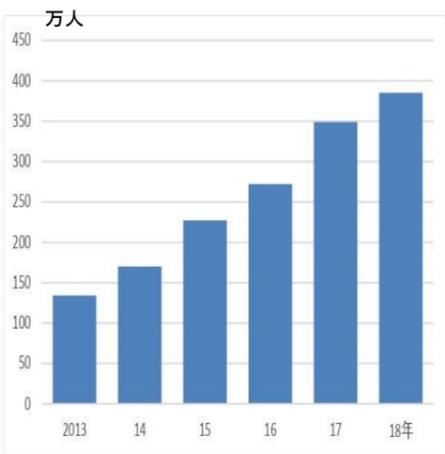
北海道は、外国とどのようにつながっているのだろう。

●空のげんかん 新千歳空港

新千歳空港がある千歳市は、道路や鉄道などで札幌市と結びついていて、北海道の空のげんかんとしての役割を果たしています。

国際線はさまざまな国と結ばれていて、利用する人がふえています。

特に、中国や韓国などアジアから来る人がふえています。



▲③国際線を利用する人の数の変化(出典:国土交通省「暦年・年度別空港管理状況調書」)

国名	入国者数(人)
中国※	806217
韓国	549060
タイ	139605
マレーシア	64565
シンガポール	29238
アメリカ	24382
その他	81523

※中国には、台湾や香港、その他の地域をふくむ

▲④2018(平成30)年に、新千歳空港から入国した外国の人の数(出典:法務省「出入国管理統計」)

グラフから海外に行き来をする人が、どんどん増えてきているのがわかるね。

●海のげんかん 苫小牧港

苫小牧港がある苫小牧市も、道路や鉄道などで札幌市と結びついていて、北海道の海のげんかんとしての役割を果たしています。

苫小牧港からものを外国に送ったり(輸出)、外国から仕入れたり(輸入)するコンテナの量は、北海道の港全体の約4分の3になります。

苫小牧港は、1978(昭和53)年にニュージーランドのネーピア港と姉妹港に、1985(昭和60)年に中国の秦皇島港と友好港になり、交流が行われています。

このように、わたしたちの住む北海道は、人やもの、文化などが行き交うことによって、他の国々とつながっているのです。

どんな物を外国とやり取りしているのか気になるね。



▲⑦ネーピア港(ニュージーランド)



▲⑧秦皇島港(中国)



上富良野町のできごと

いつ	できごと	人口
1807	文化 4 ・近藤重蔵らが石狩川をたんけんして, 上川地方まできた。	
1857	安政 4 ・松前藩の役人, 松田市太郎らのはじめて十勝岳にのぼり, このあたりを調べた。	
1858	5 ・松浦武四郎らが富良野地方をこえて, 十勝に行く。	
1869	明治 4 ・開拓使の役所がおかれ, 8月15日に「えぞ地」というよび名を「北海道」と改めた。	
1897	30 ・4月12日, 三重団体(田中常次郎ら8名)が, 草分に入地した。家族は5月4日にきて, 全部で18戸となった。	
1899	32 ・9月1日, 富良野郵便局(現上富良野郵便局)ができた。 ・11月15日, 旭川と上富良野の間に鉄道が開通した。 ・富良野戸長役場が上富良野におかれた。 (今の南富良野, 富良野, 中富良野, 上富良野のはんい。)	
1900	33 ・田中常次郎, 山口五平が, 上富良野で初めて稲をつくる。 ・創成小学校ができた。 ・東中小学校ができた。 ・8月1日, 鉄道が富良野までのびた。	
1902	35 ・上富良野小学校ができた。 ・上富良野神社ができた。	
1903	36 ・下富良野をどく立させ, 上富良野村と改めた。	3,160
1904	37 ・上富良野巡査駐在所ができた。	
1908	41 ・江花小学校ができた。	
1910	43 ・江幌小学校ができた。 ・私設「上富良野消防組」ができた。	7,738
1911	44 ・里仁小学校ができた。 ・日新小学校ができた。	

		・電話の通話が始まった。	
1912	45	・公設「上富良野消防組」ができた。	
1917	大正 6	・旭野小学校ができた。 ・中富良野村を分村した。	
1920	9	・市がい地に、電灯がついた。	10,691
1926	15	・5月24日、十勝岳が爆発した。	
1930	昭和 5	・山本運送店で、初めてトラックを買い入れた。	
1934	9	・清富小学校ができた。	
1941	16	・12月8日、太平洋戦争が始まった。	
1945	20	・8月15日、戦争が終わった。	
1947	22	・上富良野中学校、東中中学校ができた。	12,484
1948	23	・上富良野高等学校ができた。 ・えん線に、バス(道北バス)が通るようになった。 ・ラベンダーのさいばい(東中・上田美一)が始まる。	
1949	24	・6月10日、北栄区に大火事があった。	
1950	25	・日新中学校、江幌中学校ができた。 ・8月1日、町制がしかれた。	13,261
1951	26	・上富良野町公民館ができた。	
1952	27	・教育委員会ができた。	
1955	30	・陸上自衛隊駐屯地ができた。	16,918
1957	32	・富良野線に、ディーゼルカーが走るようになった。	
1958	33	・町立病院ができた。	
1962	37	・6月29日、十勝岳噴火、死者4名、ゆくえ不明1名 ・旭野小学校を、上富良野小学校にとう合した。	
1964	39	・江幌中学校を、上富良野中学校にとう合した。	
1966	41	・日新中学校を、上富良野中学校にとう合した。 ・8月、日新ダムの工事が始まった。 ・上富良野西小学校ができた。	

1967	42	(創成・江花小学校をとう合, 上五区一部西小校区となる。) ・町営日の出スキー場ができた。	
1968	43	・農村集団電話ができた。	
1970	45	・上川南部消防事務組合ができた。	15,791
1971	46	・公民館(福祉センター)ができた。	
1972	47	・上水道ができた。	
1973	48	・里仁小学校を, 上富良野西小学校にとう合した。 ・老人福祉センターができた。	
1974	49	・日新ダムが完成した。	
1976	51	・上富良野高等学校が道立高等学校になった。 ・12月, 東中会館ができた。	
1977	52	・町営野球場が完成した。 ・日の出公園が完成した。	
1978	53	・郷土館ができた。 ・東中地区かんい水道給水が始まった。	
1979	54	・日新小学校を, 上富良野西小学校にとう合した。 ・上富良野町学校給食センターができた。	
1980	55	・農村集団電話が一般電話に切りかえられた。 ・島津公園が完成した。	
1981	56	・東中小学校が改築された。 ・8月23日, 台風15号による災害で7億6000万円の被害をうけた。 ・町花にラベンダー, 町木にアカエゾマツが決まる。	
1982	57	・上富良野小学校校舎が増改築された。	
1983	58	・防災行政無線通信しせつができた。 ・町制施行30周年を記念して「まちの映画」ができた。	
1984	59	・上富良野小学校体育館が改築された。 ・上富良野十勝岳災害復興60周年記念。三浦綾子が執筆した「泥流地帯」の文学碑が建てられた。	

		・特別養護老人ホーム「ラベンダーハイツ」ができた。	
1985	60	・カナダ・アルバータ州カムローズ市と上富良野町が友好都市になった。	14,127
1987	62	・社会教育総合センターができた。	
1988	63	・国道237号線上富良野バイパスが完成した。 ・12月,十勝岳が噴火した。	
1990	平成 2	・江幌小学校が改築された。	13,265
1991	3	・草分防災センターができた。 ・B&Gプールができた。 ・じょう化センター(下水道)ができた。 ・泉栄防災センターができた。	
1992	4	・デイサービスセンターができた。 ・東中じょう水場(上水道)ができた。 ・学校週5日制が始まった。	
1993	5	・東中コミュニティ広場ができた。 ・戦後最大の冷害に見まわれた。	
1994	6	・清富小学校が改築された。 ・ラベンダー発祥の碑が建てられた。	
1995	7	・武道館が完成した。	12,881
1996	8	・西保育園が新築された。 ・農業情報センターが完成した。	
1997	9	・開基100年記念式典が開催された。 ・三重県津市と姉妹都市となった。 ・かみふらの歴史広場,開拓記念館ができた。 ・軽費老人ホーム「ハイムいしずえ」ができた。	
1999	11	・クリーンセンターができた。 ・ショートステイができた。	
2000	12	・ペットボトルを加えて6種類のゴミ分別収集に変更された。 ・郷土芸能資料館が完成した。	12,809

		<ul style="list-style-type: none"> ・上富良野西小学校が改築された。 ・東中小学校開校100年記念式典が開催された。 	
2001	13	<ul style="list-style-type: none"> ・交通死亡事故ゼロ500日達成。 ・東中コミュニティ広場パークゴルフ場ができた。 ・日の出公園オートキャンプ場が完成した。 ・新たにプラスチック類のゴミ分別が開始された。 	
2002	14	<ul style="list-style-type: none"> ・上富良野小学校開校100年記念式典が開催された。 ・ゴミ処理が有料化となった。 	
2003	15	<ul style="list-style-type: none"> ・上富良野町パークゴルフ場が完成した。 ・上富良野高等学校新校舎が完成した。 	
2004	16	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回「かみふらの花と炎の四季彩まつり」が開催された。 ・保健福祉総合センター「かみん」がオープンした。 	
2005	17	<ul style="list-style-type: none"> ・上富良野町図書館, 愛称「ふれんど」が開館した。 	12,352
2006	18	<ul style="list-style-type: none"> ・清富小学校を, 上富良野西小学校にとう合した。 ・十勝岳火山防災マップが発行された。 	
2007	19	<ul style="list-style-type: none"> ・交通死亡事故ゼロ1000日達成。 	
2008	20	<ul style="list-style-type: none"> ・富良野広域連合がつくられた。 	
2009	21	<ul style="list-style-type: none"> ・富良野広域連合消防がつくられた。 ・かみふらの特・得商品券(プレミアム商品券)が発売された。 	
2010	22	<ul style="list-style-type: none"> ・江幌小学校開校100周年を迎えた。 	11,545
2012	24	<ul style="list-style-type: none"> ・十勝岳で発光現象が確認された。 	
2013	25	<ul style="list-style-type: none"> ・上富良野の観光の公式キャラクター「らべとん」が誕生した。 	
2014	26	<ul style="list-style-type: none"> ・東中中学校を上富良野中学校にとう合した。 ・上富良野小学校が改築された。 	
2015	27	<ul style="list-style-type: none"> ・江幌小学校を上富良野西小学校にとう合した。 ・交通死亡事故ゼロ2000日達成。 ・駐屯地創立60周年の記念行事が行われた。 	10,826
2016	28	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マップ(全戸配布)と防災ハンドブック(2,000部)が作成された。 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・上富良野町生産のラベンダーポプリを原料とした「富良野ラベンダーティー」発売(ポッカサッポロフード・アンド・ビバレッジ株式会社) 発売記念イベントとして、東京ドームで日本ハムファイターズ対ソフトバンクの始球式を町長が務める。 ・日本画家の後藤純男氏が上富良野町へ本画 136 点、素描 235 点、計 371 点を寄贈する。 ・第 1 回かみふらの収穫祭が開催された。 	
2017	29	<ul style="list-style-type: none"> ・上富良野西小学校開校 50 周年記念式典が開催された。 	
2018	30	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故死ゼロ 3000 日達成 交通安全町民大会が開催された。 ・第40回かみふらの花と炎の四季彩まつりで、10 年ぶりに「ラベンダー結婚式」が復活した。 ・上富良野中学校で開校 70 周年記念式典と校舎改築落成記念式典が開催された。 	
2020	令和2	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス(COVIO-19)の世界的流行により、町に対策本部が設置された。 ・上富良野高校で上富良野学校給食センターからの給食がスタートした。 	10,348
2022	4	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生まで医療費無料になった。 ・十勝岳ジオパークが認定された。 	

あとがき

社会科とは、日々の暮らしがどうやってつくられているかを学び、どうすればみんながよりよい暮らしができるようになるかを考える教科です。3、4年生では、私たちが暮らす上富良野町や北海道のことを中心に学習を進めていきます。

社会科の学習では、

- ①わからないことや知りたいことから学習問題をつくる
- ②情報を集めて調べる
- ③わかったことを整理して自分の言葉でまとめ、お互いの考えを交流する
- ④次の学習やよりよい暮らしのために、学習したことをつなげる

この4つの場面を繰り返しながら学習を進めることが大切です。

この社会科副読本「かみふらの」の中には、上富良野町や北海道のことを調べるヒントがぎっしりつまっています。この副読本で、上富良野町の良さや町を支えている人たちについて学習し、町の皆さんの思いや願いを感じ取りながら学習を深めてほしいと思います。また、上富良野町のことを深く学ぶことで、この町をもっと好きになって、この町を誇りに思い、さらに日本や世界へと視野を広げてほしいと願っています。

最後に、副読本の編纂に当たり多くの皆様からご協力、ご助言をいただきましたことを編纂委員一同、心より感謝申し上げます。

社会科副読本「かみふらの」編纂委員長(第12次改訂)

駒井 崇

第12次改訂 社会科副読本編纂委員(令和4~5年度)

委員長

駒井 崇(上西小)

副委員長

小田島 充彦(東中小)

事務局長

小山田 雅春(町教委)

事務局員

杉本 貴史(町教委)

委員

長谷川 詢(上富小)

小松 悠哉(上富小)

月田 佳佑(上富小)

岩城 司(上富小)

富岡 雅人(上西小)

鷲見 淳(上西小)

佐竹 浩明(上富中)

市川 雅子(上富中)



社会科副読本改訂版 かみふらの

発行者 上富良野町教育委員会 教育長 鈴木 真弓

編集者 上富良野町教育委員会

社会科副読本編纂委員会

発行年月日 令和6年4月1日

第1次改訂 昭和55年3月1日

第7次改訂 平成10年3月1日

第2次改訂 昭和58年3月1日

第8次改訂 平成12年3月1日

第3次改訂 昭和61年3月1日

第9次改訂 平成17年4月1日

第4次改訂 平成元年3月1日

第10次改訂 平成23年3月1日

第5次改訂 平成4年4月1日

第11次改訂 平成28年3月1日

第6次改訂 平成6年3月1日

第12次改訂 令和6年4月1日



上富良野町立

小学校

名 前